

茨城県常陸大宮市

にし はなわ

西 塙 遺 跡

発掘調査報告書

平成21年1月

常陸大宮市教育委員会

株式会社 パスコ

茨城県常陸大宮市

にし はなわ
西 埜 遺 跡

発掘調査報告書

平成21年1月

常陸大宮市教育委員会

株式会社 パスコ

ごあいさつ

常陸大宮市は、茨城県の北西部、県都水戸から約20kmの八溝山地及び阿武隈山地の南端と関東平野周縁大地北端の境界部に位置し、東に久慈川、南に那珂川、中央部に緒川、玉川が流れ、市の6割を山林が占めています。

久慈川と那珂川の二大河川の沿岸には、肥沃な土地が開け、豊かな自然に恵まれ古くから人々の生活の場となり、多くの歴史を重ねております。そのためこの地域には、古墳・塚・集落跡など多くの遺跡が存在しております。これらの遺跡は、当時の様子を知る手がかりとなることはもちろんのこと、現代の私たちが豊かに生活することができる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化遺産を後世に伝えることは、私たちの大切な任務であり、郷土の発展のためにも貴重なことと考えております。

このたびの調査は、道路の拡幅建設に伴い、周知の遺跡である西埜遺跡の発掘調査による記録保存を目的に行ったものであります。遺跡内からは、縄文、中世、近世時代の竪穴住居跡・土坑・柱穴状遺構・溝状遺構・土器等が多数検出されました。この調査報告によって地域の祖先の遺業をしのぶことができるとともに、文化財に対する意識がいっそう深まり、遺跡愛護の精神や郷土の文化を培う上で貴重な資料として役立てていただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査にあたり格別のご指導を賜りました茨城県埋蔵文化財指導員の川崎純徳先生、そしてご協力いただきました地元の関係者、適正かつ慎重な調査をいただいた発掘業者 株式会社バスコ茨城支店様、各位に心から厚く感謝を申し上げます。

平成21年1月

茨城県常陸大宮市教育委員会

例言

1. 本書は以下の遺跡を取録したものである。

本調査 西塙遺跡 常陸大宮市野口字西塙1961ほか

2. 発掘調査は上宿西塙線市道の工事に伴い、常陸大宮市から株式会社パスコが調査の受託し、実施した。
3. 本調査の発掘調査から報告書刊行までの費用は常陸大宮市が負担した。
4. 本書は常陸大宮市教育委員会の指導の下、株式会社パスコが行った。
5. 遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下の通りである。

調査 平成19年12月13日～平成20年5月31日

整理 平成19年12月28日～平成21年1月20日

6. 発掘調査組織は以下の通りである。

調査担当者 株式会社パスコ 辻 弘和

報告書作成指導 原川雄二

現地発掘参加者 奥寺弘志 花井勝人

会沢 貢 石崎梅雄 石崎しつゑ 石崎きぬい 石崎久恵 石崎友子 石崎マサエ

伊藤房雄 大武節子 小澤 誠 鎌田 功 鎌田せつ子 軍司通郎 関根一美

田中ひら子 樋田義雄 松山忠男 菅川 清 青木毅彦 石崎靖也 市毛友則

川崎潤史 高久照美 和田義正

整理作業参加者 小川紀美 水谷典子

調査指導 常陸大宮市教育委員会

7. 整理及び本書の編集・執筆は辻、原川が行った。
8. 遺構の写真撮影は辻が行った。
9. 遺物の写真撮影は富田 武が行った。
10. 本調査に関わる記録及び出土遺物は調査終了から報告書の刊行までは株式会社パスコで保管し、報告書の刊行後は常陸大宮市教育委員会が保管している。
11. 調査及び報告書の作成に至るまで以下の方々や諸機関から御指導・御協力を賜った。記して感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

茨城県教育委員会、財団法人茨城県教育財団、社団法人常陸大宮市シルバー人材センター、川崎純徳、瓦吹 堅、塚本師也

凡 例

1. 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅹ系座標に準拠し、Ⅹ座標 = 61,300m、Ⅹ座標 = 44,180mの交点を基準点 (A 1) とした。座標数値に関しては世界測地系を用いている。
2. 調査区は、上記の基準点を元に遺跡範囲を東西・南北260 × 100m 四方の調査区を設定し、調査区内を4m毎にグリッドを設定した。
グリッドの名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ「1、2、3…」、西から東へ「A、B、C…」とし、「A 1区」、「B 2区」のように呼称した。
3. 遺構全体図及び個別遺構図の方位は真北を示す。
4. 本文中ならびに挿図中における標高は東京湾平均海面 (T. P.) を基準としている。
5. 遺構は1/40、遺物は1/1、2/3、1/3、1/4、の縮尺を使用している。
遺物の挿図及び遺物の図版の縮尺については、ほぼ同一である。遺構平面図の遺物番号、遺構内・外出土の遺物番号、各遺構・遺物の図版番号はすべて同一である。
6. 遺跡内の遺構の位置については各挿図の右上部に★印によって検出グリッドを表記している。
7. 土層観察における色調の判定には、「新版標準土色帳」(小山正忠・竹原秀雄編著日本色研事業株式会社) を使用した。
8. 石器の器種別及び石材については、原川がそのほとんどを肉眼観察によって鑑定したものである。
9. 石器の磨痕に関しては、確認できるものについてはその方向を示し、できないものについてはスクリーン tone でその範囲を示した。遺構及び遺物観察表の法量の単位は全てcmである。
10. 実測図・遺構観察表・遺物観察表等で使用した略記号は以下のとおりである。
SK - 土坑 SD - 溝状遺構 RO - 炉跡 SX - 性格不明遺構 PT - ビット状遺構

調査方法

1. 表土掘削・遺構確認

表土については、重機を使用し、土層の変化を観察しながら掘削を行い、随時変化の認められる箇所について人力で精査しながら遺構の確認調査を実施した。確認できた遺構に対しては番号を順次付けた。遺構確認図で電子平板を使用し、国家座標に基づいて平面図を作成した。また同時に写真による記録として、35ミリカメラを用いてリバーサルフィルムおよびネガカラーフィルムを使用して撮影した。

2. 遺構調査

遺構を確認した面で、内部の掘り込みを長軸に沿って半載して実施した。調査後は、内部土層の堆積状況の観察および分層を行い、写真撮影と10分の1の断面図作成を行った。その後、半載された残り半分の完掘を行い、写真撮影とエレベーション等の図面(上記と同一縮尺の図)作成を行った。また各遺構内外で出土遺物が発掘された時は、随時トータルステーションにより出土地点および遺構等との関連性を確認しながら記録化して取り上げ作業を行った。

3. 整理作業

遺構全体図は、電子平板により作成した。個別遺構図は、電子平板と手実測により作成した図面を元にデジタルトレースを行った。遺物は洗浄後、注記、接合および復元を行った。その後、遺物観察表のためのデータ作成を行った。

報告書に掲載した遺構の抽出は、遺構の規模・形態および遺物の出土量・遺存状態および年代観等を考慮して実施した。また詳細事項が明確にできず掲載できなかった遺構の規模・形態等についても、抽出した遺構と合わせて遺構一覧表で可能な限り概要を示した。

目次

例言

凡例・調査の方法・目次

第1章 遺跡の概観	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の概要	1
第3節 地理的・歴史的環境	2
第4節 基本層序	4
第2章 遺構	11
第3章 遺物	47
第1節 遺構内出土遺物	48
第2節 遺構外出土遺物	53
第4章 古代・中世・近世出土遺物	100
第5章 まとめ	101
報告書抄録	

挿図目次

第1図 位置図	3
第2図 周辺の遺跡	4
第3図 基本土層図	4
第4図 遺跡の位置図	6
第5図 グリット位置図	7
第6図 西堀遺構全体図 (1/400)	9
第7図 SK001・002号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	17
第8図 SK004・009号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	18
第9図 SK010・011号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	19
第10図 SK018・019・028号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	20
第11図 SK030・031号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	21
第12図 SK037・045号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	22
第13図 SK046・053号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	23
第14図 SK057・058号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	24
第15図 SK062・064号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	25
第16図 SK065・069号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	26
第17図 SK078・086号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	27
第18図 SK089・090号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	28

第19図	SK093・097号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	29
第20図	SK100・102号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	30
第21図	SK111・121号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	31
第22図	SK124・125号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	32
第23図	SK126・127・135号土坑・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	33
第24図	SK143・144号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	34
第25図	SK147・153号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	35
第26図	SK154・157号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	36
第27図	SK161・172号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	37
第28図	SK174・179・193号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	38
第29図	SX003号遺構平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)	39
第30図	SK001号土坑出土遺物	54
第31図	SK002号土坑出土遺物	55
第32図	SK004号土坑出土遺物	56
第33図	SK004・009号土坑出土遺物	57
第34図	SK010・011・018号土坑出土遺物	58
第35図	SK019号土坑出土遺物	59
第36図	SK028号土坑出土遺物	60
第37図	SK030号土坑出土遺物	61
第38図	SK030・031号土坑出土遺物	62
第39図	SK037号土坑出土遺物	63
第40図	SK045号土坑出土遺物	64
第41図	SK046号土坑出土遺物	65
第42図	SK053号土坑出土遺物	66
第43図	SK057号土坑出土遺物	67
第44図	SK058号土坑出土遺物	68
第45図	SK062号土坑出土遺物	69
第46図	SK064号土坑出土遺物	70
第47図	SK065号土坑出土遺物	71
第48図	SK069号土坑出土遺物	72
第49図	SK078号土坑出土遺物	73
第50図	SK086・089号土坑出土遺物	74
第51図	SK090号土坑出土遺物	75
第52図	SK093号土坑出土遺物	76
第53図	SK097・100号土坑出土遺物	77
第54図	SK102号土坑出土遺物	78
第55図	SK111・121号土坑出土遺物	79
第56図	SK121号土坑出土遺物	80

第57図	SK124・125号土坑出土遺物	81
第58図	SK126・127号土坑出土遺物	82
第59図	SK135・143号土坑出土遺物	83
第60図	SK143・144号土坑出土遺物	84
第61図	SK147号土坑出土遺物	85
第62図	SK153号土坑出土遺物	86
第63図	SK154・157号土坑出土遺物	87
第64図	SK157号土坑出土遺物	88
第65図	SK161・172号土坑出土遺物	89
第66図	SK174・179・193号土坑出土遺物	90
第67図	SX003遺構出土遺物	91
第68図	1遺構外出土の縄文前期、2遺構外出土の中・後期土器	92
第69図	1遺構外出土の縄文後・晩期土器、2遺構外出土の土器片円盤	93
第70図	遺構外出土の石器 (2/3)	94
第71図	古代・中世・近世の出土遺物 (1/3)	100

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧表	5
第2表	遺構観察表及び出土遺物	40
第3表	石器観察表	95
第4表	古代以降の遺物観察表	100

写真図版目次

図版 1	調査前遺跡全景	104
図版 2	第Ⅰ工区全景・第Ⅱ工区全景	105
図版 3	第Ⅲ工区全景	106
図版 4	SK001号土坑遺物出土状態・完掘	107
	SK002号土坑遺物出土状態・完掘	
	SK004号土坑遺物出土状態・完掘	
	SK009号土坑遺物出土状態	
	SK010号土坑遺物出土状態	
図版 5	SK018号土坑遺物出土状態・完掘	108
	SK019号土坑遺物出土状態	
	SK028号土坑号土坑遺物出土状態	
	SK030号土坑遺物出土状態・完掘	
	SK031号土坑遺物出土状態・完掘	

圖版 6	SK037号土坑遺物出土狀態·完掘	109
	SK045号土坑号土坑遺物出土狀態·完掘	
	SK046号土坑遺物出土狀態·完掘	
	SK053号土坑遺物出土狀態·完掘	
圖版 7	SK058号土坑遺物出土狀態·完掘	110
	SK062号土坑遺物出土狀態·完掘	
	SK064号土坑遺物出土狀態·完掘	
	SK065号土坑遺物出土狀態·完掘	
圖版 8	SK069号土坑遺物出土狀態·完掘	111
	SK078号土坑完掘	
	SK086号土坑号土坑遺物出土狀態	
	SK089号土坑完掘	
	SK093号土坑完掘	
	SK090号土坑遺物出土狀態·完掘	
圖版 9	SK102号土坑遺物出土狀態·完掘	112
	SK100号土坑完掘	
	SK111号土坑完掘	
	SK121号土坑遺物出土狀態·完掘	
	SK125号土坑遺物出土狀態·完掘	
圖版 10	SK126号土坑遺物出土狀態	113
	SK127号土坑完掘	
	SK135号土坑遺物出土狀態·完掘	
	SK143号土坑遺物出土狀態·完掘	
	SK147号土坑遺物出土狀態·完掘	
圖版 11	SK153号土坑遺物出土狀態·完掘	114
	SK154号土坑完掘	
	SK157号土坑完掘	
	SK176号土坑完掘	
	SK189号土坑完掘	
	SX003号性格不明遺構 遺物出土狀態·完掘	
圖版 12	SK001号土坑出土遺物	115
圖版 13	SK002号土坑出土遺物	116
圖版 14	SK004号土坑出土遺物	117
圖版 15	SK009·010·011号土坑出土遺物	118
圖版 16	SK018·019号土坑出土遺物	119
圖版 17	SK028号土坑出土遺物	120
圖版 18	SK030号土坑出土遺物	121
圖版 19	SO031·037号土坑出土遺物	122

図版 20	SK045号土坑出土遺物	123
図版 21	SK046・053号土坑出土遺物	124
図版 22	SK057号土坑出土遺物	125
図版 23	SK058号土坑出土遺物	126
図版 24	SK062号土坑出土遺物	127
図版 25	SK064・065号土坑出土遺物	128
図版 26	SK069号土坑出土遺物	129
図版 27	SK078号土坑出土遺物	130
図版 28	SK086・089号土坑出土遺物	131
図版 29	SK090号土坑出土遺物	132
図版 30	SK093号土坑出土遺物	133
図版 31	SK097・100号土坑出土遺物	134
図版 32	SK102号土坑出土遺物	135
図版 33	SK111・121号土坑出土遺物	136
図版 34	SK121号土坑出土遺物	137
図版 35	SK124・125号土坑出土遺物	138
図版 36	SK126・127号土坑出土遺物	139
図版 37	SK135・143号土坑出土遺物	140
図版 38	SK143・144号土坑出土遺物	141
図版 39	SK147号土坑出土遺物	142
図版 40	SK153号土坑出土遺物	143
図版 41	SK154・157号土坑出土遺物	144
図版 42	SK157号土坑出土遺物	145
図版 43	SK161・172号土坑出土遺物	146
図版 44	SK174・179・193号土坑出土遺物	147
図版 45	SX003号遺構出土遺物	148
図版 46	1遺構外出土の縄文前期土器、2遺構外出土の中・後期土器	149
図版 47	1遺構外出土の縄文後・晩期土器、2遺構外出土の土器片円盤	150
図版 48	1遺構外出土石器(2/3)、2各土坑出土土器	151
図版 49	各土坑出土土器1・2	152
図版 50	各土坑出土土器	153
図版 51	古代以降の出土遺物(1/3)	154

第1章 遺跡の概観

第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、常陸大宮市野口字西塚1961ほかに所在する道路の拡幅及び整備に伴う事前調査である。

平成18年6月6日に常陸大宮市長 矢数 浩から常陸大宮市教育委員会に埋蔵文化財の所在有無の照会が提出され、それに基づき、市教育委員会では同年11月24日に、道路は住民の生活用に使用中であるため工事予定地の道路に沿った周辺の農地空白地を4箇所選んでトレンチ方式で試掘を実施した。

試掘の結果は、縄文時代中期を中心とし、1・2・4号トレンチでは堅穴住居跡、1号トレンチをはじめ、ほとんどのトレンチでは主として土坑の存在が確認できた。その密集度は高く、集落構成の一部を思わせるものであった。その重要性から市道路建設部では市教育委員会から道路工事に先立ち事前の本調査が必要という回答を受けた。

平成19年9月7日に茨城県教育委員会との協議により、本調査を実施することになり、平成19年11月5日の入札により、株式会社バスコ茨城支店が決定し、直ちに11月9日契約を完了した。

その後、常陸大宮市教育委員会、常陸大宮市および株式会社バスコ茨城支店の三者で数回の協議を進め、確認調査の結果に基づき本調査の準備と事務所設置を平成19年12月10日からすすめ、平成19年12月13日から実施することになった。

第2節 調査の概要

本調査は、前述のとおり平成19年12月13日から平成20年5月31日まで実施した。

市道の工事と市民の道路使用上の関係から調査区として3.T区に分割した。西側よりAA区までをI区とし、AB区からAU区までをII区とし、さらにAV区から東側をIII区として順次調査を進めた。また調査終了した調査区から順次市側へ引き渡していった。

平成19年12月13日より、I区から重機による表土掘削を開始し、ある程度除去した段階で、さらに遺構確認のための精査を人力で行った。土坑が最も多く確認できた地区であり、そのため多くの時間を要した地区でもあった。因みに土坑118基、炉跡1基、性格不明の遺構2基さらにピット状遺構26基を確認した。翌20年3月25日に終了の検査を受け、直ちに埋め戻しを行った。

II区は、I区の発掘がほぼ終了し、測量の精査段階に入った2月13日から表土掘削を行い、前区同様の手順で精査を人力作業で進めた。その結果、土坑63基、炉跡1基、性格不明の遺構1基、ピット状遺構48基を確認した。5月13日に終了検査を受け、直ちに埋め戻し、この区の作業を終了した。I区のように土坑等が複雑な状況でなかったため比較的円滑な調査で推進できた。

III区は、4月5日より表土掘削を開始し、遺構確認調査は人力によって進めた。本区で確認された遺構は、土坑45基、溝状遺構4条、炉跡1基、性格不明遺構2基およびピット状遺構27基であった。5月31日に終了検査を受け、その後埋め戻しを行った。発掘調査は全て終了し、事務所撤去等を行い、6月6日に現場引渡しを行って、発掘業務を完了した。

整理作業は、発掘調査を開始してまもなくの平成19年12月28日から、降雨等により発掘作業の行えない時に現場事務所内にて、遺物洗浄および測量図の点検等の作業を進めてきた。そのかいあって発掘作業終了時の翌年5月29日にはほぼ遺物洗浄作業は終了した。その後、東京都八王子市明神町に所在する株式会社バスコ文化財整理事務所にて図面整理、写真整理、遺物注記、接合、復元、写真撮影等の作業を10月下旬まで行い、原稿執筆、編集作業を12月まで実施した。

第3節 地理的・歴史的環境

地理的環境

2004年に那珂郡大宮町、土方町、美和村、緒川村、東茨城郡御前山村の5町村が合併し、常陸大宮市となった。現在、北は久慈郡大子町、東は常陸太田市、南東は那珂市、南は東茨城郡城里町、西側を栃木県那須郡那珂川町、那須烏山市、芳賀郡茂木町と接している。

西城遺跡は、常陸大宮市野口字西城1961ほかに所在するが、合併以前は旧御前山村に所在していた。常陸大宮市は県北に位置し、八溝山地から伸びた丘陵部の先端にあたり、東側を久慈川、南側を那珂川に挟まれていて、市城の大部分は河岸段丘上に位置する。中央に緒川と那珂の産地として知られている玉川が流れている。

那珂川は、栃木県北部の那須岳を水源にし、茨城県の北西部から南東部に向かって斜走し、県中央部の那珂市、水戸市を経て、さらに大洗町から太平洋へと注いでいる。流域沿いは水戸市周辺以外のほとんどは都市化されていないため、田園風景を各所に見ることができる。とりわけこの遺跡周辺の御前山地区では河岸段丘の原地形を見ることができ、段丘上には広大な水田地帯が広がっている。遺跡は、その左岸段丘面の比較的平坦な標高約59メートルの地域に占拠していることが容易に観察できる。今でも休日には県内外からも多くの考古マニアが遺物の表面採集に訪れるほどである。

歴史的環境

市内では旧石器時代の遺跡として、梶巾遺跡が知られている。久慈川の河岸段丘に位置し、石器製作跡を思わせる遺構が確認されている。頁岩と安山岩の2種類からなる石器群で、主に尖頭器、石刃、石核等で構成されていたようである。

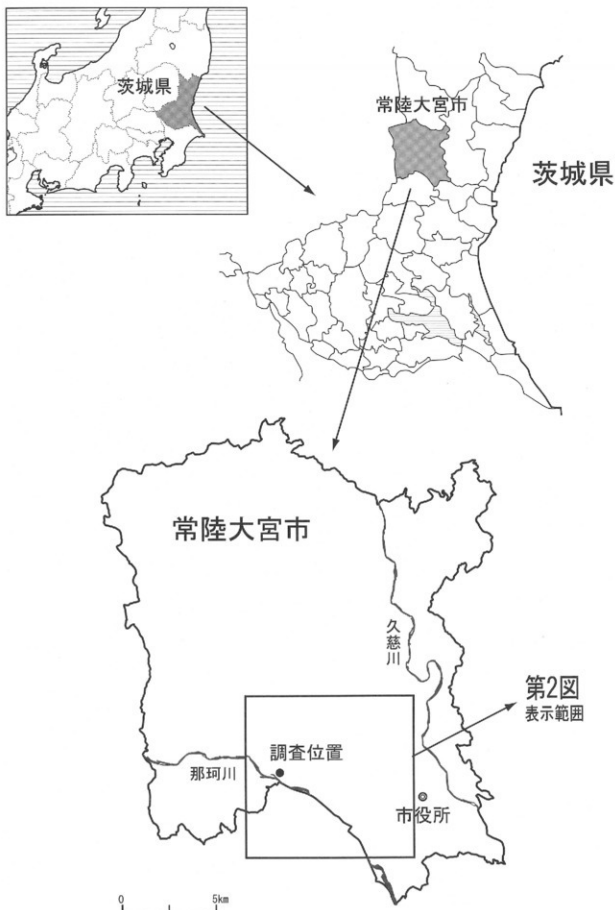
縄文時代になると遺跡の数が急増する。梶巾遺跡は1984年に調査が行われ、土坑が16基検出された。諏訪台遺跡は1990年に調査が行われ、中期の竪穴住居跡が1軒、土坑が16基、竪穴状遺構2基検出された。坪井上遺跡は、1993年に調査され中期の竪穴住居跡が19軒、土坑が75基検出された。特徴的な遺物にヒスイ製の大珠が表採等を含めて合わせて8点確認されている。一遺跡からこれだけの数のヒスイ製大珠が出土した例はあまりない。高ノ倉遺跡(25)は、2004年に調査が行われ、土坑が223基検出された。小野天神前遺跡(20)は、弥生時代としても著名な遺跡であるが、縄文時代早期及び中期から晩期までの長期間形成されてきた。特に晩期の土偶、亀形土製品、石剣、鉾石等の出土は有名である。

弥生時代の遺跡として、前述の小野天神前遺跡があげられる。県内の遺跡として代表する遺跡である。再葬墓が検出され、人面付壺形土器が出土している。坪井上遺跡では2軒の竪穴住居跡が調査されている。

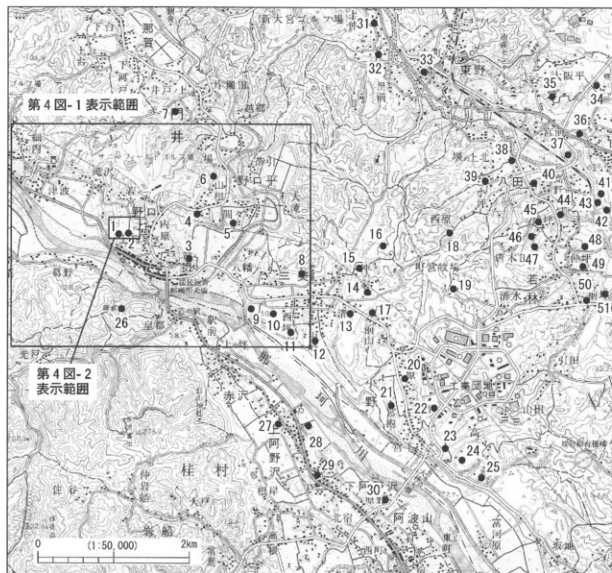
古墳時代の遺跡として、富士山4号墳は墳長約38メートルの前方後方墳で、県内最古の古墳として周知されている。一騎山古墳群は、前方後円墳1基(一騎山4号墳、墳長約24メートル、ガラス製小玉、碧玉製管玉、直刀、細身式鉄剣出土)、円墳10基以上からなる古墳群である。形象埴輪を有する古墳群でもある。蕨塚古墳は約80メートルの前方後円墳である。雷横山横穴墓(37)は、現在5基確認されている。集落跡の調査では坪井上などで行われている。竪穴住居跡が10軒検出されている。

奈良・平安時代では、鷹巣遺跡等が確認されている。過去3回の調査が行われており、竪穴住居跡から多量の瓦が出土している。近接の鷹巣瓦窯跡が所在していることから両者の関連性が論じられている。また、ここで焼かれた瓦は久慈郡街に供給されたと考えられている。

中世は、野口城および御前山城が存在する。前者は野口に所在し、藤原通直が正暦二(991)年頃に築城し、川野辺氏を名乗って居城したことから川野辺城ともよんでいる。那珂川左岸の段丘上につくられた平山城で、現状は畑地となっており、その往時の面影をほとんど知ることができない。後者は御前山に所在し、山城を形成しているものの、土輪・土塁等の一部が確認されているようだが詳細は明確ではない。



第1図 位置図

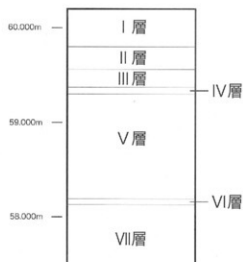


第2図 周辺の遺跡 (国土地理院5万分の1地形図 常陸大宮より作図)

第4節 基本層序

今回の調査区は幅狭のため、層序確認のための深堀が出来なかったが、深い遺構で層序が確認出来た箇所を利用し、基本層序を確認した。

- I層 黒色土 (10YR2/1) 表土層
- II層 黒色土 (2.5Y2/1)
- III層 黒褐色土 (10YR3/1)
- IV層 黄橙色土 (5YR6/8) 七本桜バミスを多量に含む
- V層 黄色土 (10YR8/8) 田原ローム層
- VI層 灰白色土 (5Y8/2) 鹿沼バミス層
- VII層 黄色土 (2.5Y8/8) 鹿沼バミス層



第3図 基本土層図

No.	遺跡名	所在地	種別	時代
1	西垣遺跡	常陸大宮市野口1961ほか	集落跡	縄文～近世
2	立木遺跡	常陸大宮市野口2025ほか	集落跡	縄文～近世
3	川野辺城跡	常陸大宮市野口1211-1ほか	集落跡	奈良～中世
4	矢口平遺跡	常陸大宮市野口平173ほか	集落跡	古墳
5	京鼓内遺跡	常陸大宮市野口平96-11ほか	集落跡	古墳
6	山根遺跡	常陸大宮市野口平550ほか	集落跡	弥生～平安
7	岡原遺跡	常陸大宮市門井1007ほか	集落跡	縄文～奈良
8	三美根片遺跡	常陸大宮市三美字根片92	集落跡	縄文～古墳
9	赤岩遺跡	常陸大宮市三美字八幡701	集落跡	縄文～奈良
10	三美中道遺跡	常陸大宮市三美字中道755	集落跡	縄文～奈良
11	滝ノ上遺跡	常陸大宮市三美字高野戸797	集落跡	縄文～奈良
12	中崎遺跡	常陸大宮市三美字小林1024	集落跡	縄文～奈良
13	一の沢城跡	常陸大宮市三美字田舎1621-1	城跡	近世
14	泉沢A遺跡	常陸大宮市三美字富士2342-1	集落跡	縄文
15	泉沢B遺跡	常陸大宮市三美字竜田2442	集落跡	縄文
16	泉沢C遺跡	常陸大宮市三美字泉沢2385-1	集落跡	弥生
17	前山瓦窯跡	常陸大宮市三美字前山12285-2	瓦窯跡	奈良
18	西原遺跡	常陸大宮市八田字西原672-1	集落跡	縄文～中世
19	町宮牧場内遺跡	常陸大宮市八田字見村621	集落跡	縄文
20	小野天神前遺跡	常陸大宮市小野字天神前2848-1	集落跡	縄文～奈良
21	小野中道遺跡	常陸大宮市小野字中道2934	集落跡	縄文～奈良
22	居合遺跡	常陸大宮市小野字居合1235-5	集落跡	奈良
23	源氏平遺跡	常陸大宮市小野字源氏平1735	集落跡	縄文～奈良
24	高ノ倉城跡	常陸大宮市小野字高ノ倉2320-1	城館跡	縄文～中世
25	高ノ倉遺跡	常陸大宮市小野字南高ノ倉2167	集落跡	縄文～中世
26	御前山城跡	城里村赤沢字皇戸御前山園有林30	城館跡	中世
27	堀之内遺跡	城里町上阿野沢字堀之内569-1ほか	包蔵地	縄文
28	反川遺跡	城里町上阿野沢字反川1789-1ほか	包蔵地	弥生～奈良
29	根本内遺跡	城里町下阿野沢字根本内4477ほか	包蔵地	縄文～古墳
30	太子堂遺跡	常陸大宮市宇太子堂588-1	経塚	近世
31	東野仲坪遺跡	常陸大宮市東野字天神1892	集落跡	古墳～奈良
32	仲ノ内遺跡	常陸大宮市東野字仲ノ内1715-1	集落跡	縄文～近世
33	地蔵神社遺跡	常陸大宮市東野字坂ノ上3081	集落跡	縄文～奈良
34	大阪平A遺跡	常陸大宮市鷹巣字大阪平2258-3	集落跡	奈良
35	大阪平B遺跡	常陸大宮市鷹巣字大阪平2662-1	集落跡	奈良
36	犬迫遺跡	常陸大宮市鷹巣字犬迫2700-1	集落跡	縄文
37	雲神山横穴群	常陸大宮市宇鴻巣山1172-11	横穴群	古墳
38	羅ノ上遺跡	常陸大宮市八田字羅ノ上1065-2	集落跡	奈良
39	八田桑原遺跡	常陸大宮市八田字桑原949-1	集落跡	奈良
40	八田向原遺跡	常陸大宮市八田字向原470-1	集落跡	中世
41	富士権現古墳群	常陸大宮市野中町富士山3376-1	古墳群	古墳
42	富士山遺跡	常陸大宮市野中町富士山3376-1	集落跡	縄文
43	岩穴横穴墓群	常陸大宮市八田字岩穴2033-1	横穴群	古墳
44	三蔵遺跡	常陸大宮市若林字三蔵82-1	集落跡	縄文～奈良
45	唐木田ニッ塚	常陸大宮市八田字唐木田2245	塚群	近世
46	菅又八田遺跡	常陸大宮市八田字唐木田2238-1	集落跡	縄文～奈良
47	菅又館遺跡	常陸大宮市若林字菅又1919-1	城館跡	中世
48	北平遺跡	常陸大宮市若林字北平1433	集落跡	縄文～奈良
49	関平遺跡	常陸大宮市若林字関平1370	集落跡	縄文～奈良
50	前坪遺跡	常陸大宮市若林字南平709-1	集落跡	古墳～奈良
51	前坪東遺跡	常陸大宮市若林字南平702-5	集落跡	縄文～近世

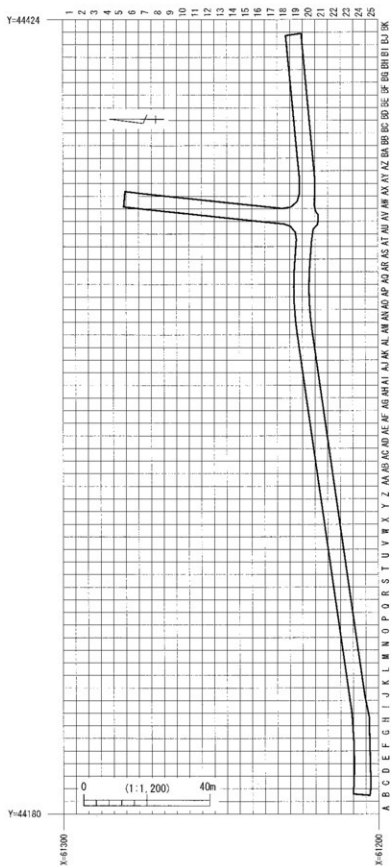
第1表 周辺の遺跡一覧表



第4図-1

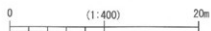
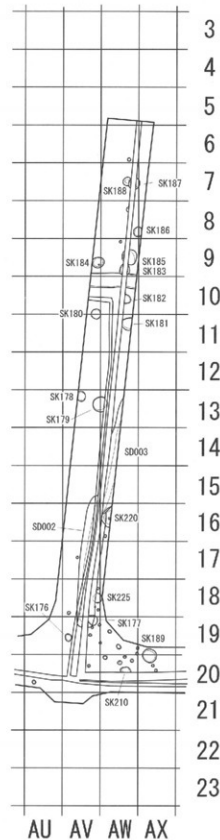
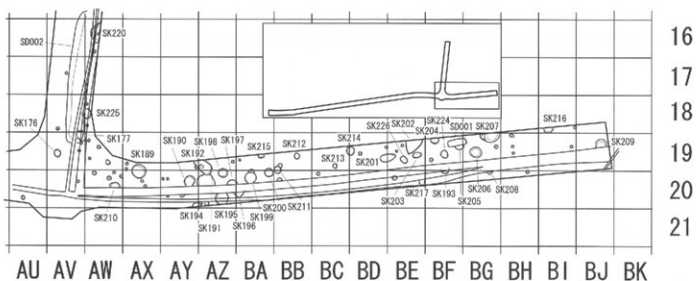
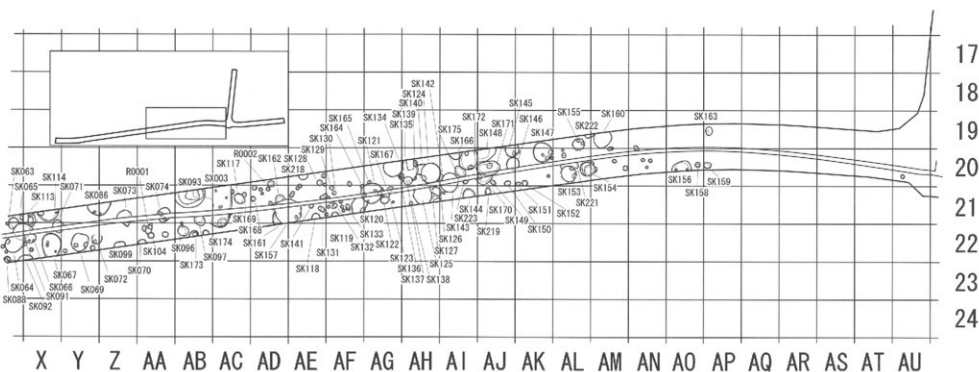
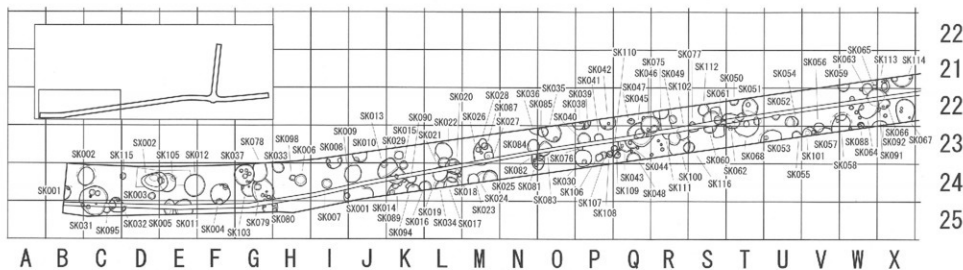


第4図-2 遺跡の位置図



第5図 グリッド配置図 (1/1,200)

第6図 西橋遺跡全体図



第2章 遺構

遺構（第6～29図 図版4～11 第2表）

本遺跡から検出された遺構は、346基を数える。これらは、土坑226基・ピット111基・炉跡2ヶ所・性格不明遺構3基・溝4条に分かれ、土坑の検出数が最多を占める。土坑については、出土土器の時期等から、縄文中期・後期の二時期に分かれ、中期に属するものが110基、後期に属するものが26基を数える。ピットについては、出土遺物が認められず、帰属時期が判然としない。炉跡は出土土器の時期等から中期・後期の二時期に分かれ、4条の溝状遺構は、3号溝のみが出土遺物の時期等から古代以降の所産と考えられ、他の溝状遺構は時期不明のものである。

遺構の分布（第6図）

遺構は調査区西側から東側にかけて、緩やかに下降傾斜する台地上（那珂川によって形成された河岸段丘上）の調査範囲全体に検出され、土坑・ピットについては、調査区西側（B23・24）区～（AP19・20）区に集中し、（AU18～20）区～（BJ18・19）区については、後期の土坑が分布する。なお、（AQ19・20）区～（AT19・20）区からは、遺構が検出されず、（AU18～20）区～（AV～AX5～17）区からは、後期の土坑が検出されている。従って、本調査の結果から、調査区西側の微高地に土坑が集中して分布していた。

土坑の帰属時期と形態（第7図～29図 図版4～11 第2表）

各土坑の帰属時期については、縄文中期は、大木7b式期（五領ヶ台式期）が1基、加曾利E1式期（大木8a・8b式期を含む）が55基、加曾利E2式期（大木9a式期を含む）が19基、加曾利E3式期が15基、加曾利E4式期が9基、中期（中期に属するが、詳細は不明なもの）11基が確認され、縄文後期は、称名寺式期が15基、網取式期が3基、堀之内式期が2基、後期（後期に属するが、詳細は不明なもの）6基に分かれる。各期における各土坑の形態は、開口部平面形態が、円形・楕円形・隅丸方形・隅丸長方形・長方形を呈するものが多く、断面形態は、張り出し袋状・台形状・長形状・半楕円形状を呈するものが多い。

SK001号土坑（第7・30図 図版4・12）

B24グリッドに位置する。西側は調査区外である。開口部平面形態は円形で底部は円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は4層に区分される。最下層の覆土はレンズ状堆積を呈していない。ピットは北東側より1基検出された。P1の上面が31×56cm、底面が42×35cm、深さが68cmである。底面より縄文土器、石器及び礫が出土した。

SK002号土坑（第7・31図 図版4・13）

B・C24グリッドに位置する。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は5層に区分される。底面の西側中央部から縄文土器（1）及び中央から東側にかけて礫が多量に出土した。

SK004号土坑（第8・32・33図 図版4・14）

F24・25グリッドに位置する。開口部平面形態は円形で底部は円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は6層に区分される。ピットは南側より1基、北側より3基、計4基検出された。P1の上面が77×75cm、底面が54×48cm、深さが46cmである。P2の上面が57×52cm、底面が38×32cm、深さが50cmである。P3の上面が23×19cm、底面が12×9cm、深さが10cmである。P4の上面が18×15cm、底面が9×9cm、深さが10cmである。北東部より土製耳飾りが2個体（8・9）出土した。出土位置はほとんど変わらずに、高低差が約20cmある。8が上である。

SK009号土坑 (第8・33図 図版4・15)

I・J24グリッドに位置する。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は7層に区分される。遺物の多くは底面から出土した。北西部より縄文土器(1)、中央部北側から東側にかけて礫が多量に出土した。

SK010号土坑 (第9・34図 図版4・15)

J23グリッドに位置する。北側は調査区外である。開口部平面形態は円形で底部は円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は4層に区分される。ピットは南側より1基検出された。P1の上面が55×42cm、底面が35×33cm、深さが53cmである。復元出来た縄文土器(1)は中央部北側より出土した。

SK011号土坑 (第9・34図 図版15)

E24・25グリッドに位置する。中央部を水道管が東西に横断している。南側は調査区外である。開口部平面形態は隅丸方形で底部は隅丸方形で断面形態は台形を呈している。覆土は3層に区分される。

SK018号土坑 (第9・34図 図版5・16)

L24グリッドに位置する。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は長方形を呈している。覆土は単層を呈している。

SK019号土坑 (第10・35図 図版5・16)

L24グリッドに位置する。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。北側を水道管が東西に横断している。覆土は6層に区分される。

SK028号土坑 (第10・36図 図版5・17)

M23グリッドに位置する。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は長方形を呈している。覆土は14層に区分される。最下層より多量の遺物が出土した。

SK030号土坑 (第11・37・38図 図版5・18)

O・P23・24グリッドに位置する。開口部平面形態は隅丸方形で底部は円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は9層に区分される。ピットは中央部南側より1基検出された。P1の上面が50×49cm、底面が35×33cm、深さが18cmである。

SK031号土坑 (第11・38図 図版5・19)

B・C24・25グリッドに位置する。中央部を水道管が東西に横断している。南側は調査区外である。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は長方形を呈している。覆土は9層に区分される。ピットは中央部北部より3基、西側より2基、中央部より1基、計6基検出された。P1の上面が59×59cm、底面が40×40cm、深さが46cmである。P2の上面が55×51cm、底面が48×40cm、深さが40cmである。P3の上面が25×23cm、底面が8×7cm、深さが15cmである。P4の上面が21×20cm、底面が8×7cm、深さが15cmである。P5の上面が44×40cm、底面が40×32cm、深さが20cmである。P6の上面が37×36cm、底面が23×16cm、深さが18cmである。

SK037号土坑 (第12・39図 図版6・19)

F・G24グリッドに位置する。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。ピットは中央部北部より2基、中央部より2基、中央部南部より2基、計6基検出された。覆土は7層に区分される。P1の上面が52×51cm、底面が38×34cm、深さが42cmである。P2の上面が38×37cm、底面が26×22cm、深さが46cmである。P3の上面が38×30cm、底面が20×17cm、深さが22cmである。P4の上面が37×37cm、底面が27×26cm、深さが42cmである。P5の上面が25×21cm、底面が8×7cm、深さが35cmである。P6の上面が27×13cm、底面が16×8cm、深さが20cmである。復元出来た縄文土器は3個体である。そのうち、2・3はP4の直上から出土している。

SK045号土坑 (第12・40図 図版6・20)

Q・R22・23グリッドに位置する。東側をSK046に削平され、中央部を水道管が東西に横断している。開口部平面形態は隅丸方形で底部は隅丸方形で断面形態は長方形を呈している。覆土は5層に区分される。ピットは中央部より3基検出された。P1の上面が91×87cm、底面が72×70cm、深さが10cmである。P2の上面が29×29cm、底面が17×13cm、深さが20cmである。P3の上面が33×29cm、底面が14×14cm、深さが18cmである。

SK046号土坑 (第13・41図 図版6・21)

Q・R22・23グリッドに位置する。南側を水道管が東西に横断している。開口部平面形態は円形で底部は円形で断面形態は台形を呈している。覆土は7層に区分される。ピットは南側より2基検出された。P1の上面が83×68cm、底面が61×45cm、深さが18cmである。P2の上面が28×24cm、底面が12×11cm、深さが28cmである。

SK053号土坑 (第13・42図 図版6・21)

T・U23グリッドに位置する。南側は調査区外である。開口部平面形態は隅丸方形で底部は隅丸方形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は7層に区分される。ピットは西側より1基検出された。P1の上面が46×39cm、底面が20×18cm、深さが46cmである。

SK057号土坑 (第14・43図 図版22)

V23グリッドに位置する。東側をSK056に、北西側をSK058に削平されている。南側は調査区外である。開口部平面形態は長方形で底部は長方形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は7層に区分される。西側より復元出来た縄文土器(1・2)が2個体出土した。

SK058号土坑 (第14・44図 図版7・23)

V・W22・23グリッドに位置する。南側は調査区外である。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は15層に区分される。ピットは北側より2基検出された。P1の上面は130×93cm、底面が118×78cm、深さが65cmである。P1はV層まで掘り込まれている。P2の上面は29×24cm、底面は13×11cm、深さが15cmである。北側より遺物が多量に出土した。

SK062号土坑 (第15・45図 図版7・24)

S・T22・23グリッドに位置する。東側をSK068に削平され、中央部を水道管が東西に横断している。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は9層に区分される。ピットは南側より1基、西側より1基、中央部より1基、計3基検出された。P1の上面が59×58cm、底面が42×41cm、深さが38cmである。P2の上面が57×42cm、底面が31×29cm、深さが32cmである。P3の上面が18×13cm、底面が14×10cm、深さが15cmである。復元出来た縄文土器は2個体である。1は南西側から、2は北側から出土した。

SK064号土坑 (第15・46図 図版7・25)

W・X22グリッドに位置する。北側を水道管が東西に横断している。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は長方形を呈している。覆土は4層に区分される。ピットは西側より1基検出された。P1の上面が57×43cm、底面が37×27cm、深さが30cmである。

SK065号土坑 (第16・47図 図版7・25)

W・X22グリッドに位置する。南側をSK064に削平され、中央部を水道管が東西に横断している。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は台形を呈している。覆土は8層に区分される。復元出来た縄文土器は2個体である。1は中央から、2は西側より出土した。

SK069号土坑 (第16・48図 図版8・26)

Y22グリッドに位置する。開口部平面形態は隅丸方形で底部は隅丸方形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は10層に区分される。東側及び西側よりそれぞれ1基ずつピットは検出された。P1の上面は62×45cm、底面は43×26cm、深さは21cmである。P2の上面は49×48cm、底面は32×29cm、深さは13cmである。中央部から東側に

かけて礫が多量に出土した。復元出来た縄文土器が南側壁面より2個体出土した。

SK078号土坑 (第17・49図 図版8・27)

G24グリッドに位置する。西側をSK067に削平され、北側は調査区外である。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は台形を呈している。覆土は2層に区分される。

SK086号土坑 (第17・50図 図版8・28)

Y221グリッドに位置する。北側は調査区外である。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は10層に区分される。ピットは南側より3基検出された。P1の上面は39×29cm、底面は23×21cm、深さは24cmである。P2の上面は24×24cm、底面は17×14cm、深さは20cmである。P3の上面は17×14cm、底面は6×6cm、深さは16cmである。

SK089号土坑 (第18・50図 図版8・28)

K24グリッドに位置する。北側をSK014及び水道管で削平され、東側をSK094で削平されている。南側は調査区外である。開口部の平面形態、底部形態、断面形態は不明である。覆土は3層に区分される。ピットは西側から北側にかけて4基、東側から1基、計5基検出された。P1の上面は58×47cm、底面は34×26cm、深さは83cmである。P2の上面は60×52cm、48×34cm、深さ36cmである。P3の上面は47×(32)cm、底面は30×25cm、深さ24cmである。P4の上面は45×33cm、底面38×25cm、深さ18cmである。P5の上面は94×(40)cm、底面は80×38cm、深さ20cmである。

SK090号土坑 (第18・50図 図版8・29)

K24グリッドに位置する。北側は水道管に削平されている。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は長方形を呈している。覆土は7層に区分される。

SK093号土坑 (第19・53図 図版31)

AB21グリッドに位置する。北側は調査区外である。開口部平面形態は台形で底部は隅丸方形で断面形態は台形を呈している。覆土は5層に区分される。遺物は1～3層中より多量に出土した。

SK097号土坑 (第19・53図 図版31)

AB21・22グリッドに位置する。北側は水道管に削平されている。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は台形を呈している。覆土は3層に区分される。

SK100号土坑 (第20・53図 図版9・31)

R・S23グリッドに位置する。北側は水道管に削平されている。開口部平面形態は隅丸方形で底部は円形で断面形態は台形を呈している。覆土は4層に区分される。遺物は1～2層中より多量に出土した。

SK102号土坑 (第20・54図 図版9・32)

R・S23グリッドに位置する。西側はSK100に削平され、北側は水道管に削平されている。開口部平面形態は隅丸長方形で底部は円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は7層に区分される。復元出来た縄文土器は3個体である。1は4・5層中から出土し、3は2・3層中から出土した。

SK111号土坑 (第21・55図 図版9・33)

R23グリッドに位置する。西側はSK100・102に削平されている。南側は調査区外である。開口部平面形態は形態不明で底部は形態不明で断面形態は形態不明を呈している。覆土は4層に区分される。復元出来た縄文土器は1個体である。1層中から出土した。

SK121号土坑 (第21・55・56図 図版9・33・34)

AF・AG20・21グリッドに位置する。中央部を東側から西側にかけて水道管により削平されている。開口部平面形態は円形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は6層に区分される。ピットは東側及び西側よりそれぞれ1基ずつ、中央部東側に1基、南側に1基、計4基検出された。P1の上面は57×44cm、底面は50×

46cm、深さは55cmである。P2の上面は50×46cm、底面は49×48cm、深さは45cmである。P3の上面は25×18cm、底面は15×12cm、深さは19cmである。P4の上面は34×30cm、底面は17×14cm、深さは34cmである。北側に大量の礫の集中、南側に土器の集中が見られる。北側の礫集中部の最上部より蜂の巣石(8)が出土した。遺構の中央部底面より磨製石斧(7)が出土した。礫は4・5層中から出土し、土器は5層中から出土した。

SK124号土坑(第22・57図 図版35)

AH・AI20グリッドに位置する。南側を水道管に削平されている。開口部平面形態は円形で底部は隅丸方形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は6層に区分される。ピットは西側より1基検出された。P1の上面は64×40cm、底面は52×52cm、深さ38cmである。

SK125号土坑(第22・57図 図版9・35)

AH20・21グリッドに位置する。北側を水道管に削平され、南側は調査区外である。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は台形を呈している。覆土は6層に区分される。復元出来た縄文土器は2個体である。1は遺構のはほぼ中央、2は南側から出土した。

SK126号土坑(第23・58図 図版10・36)

AH・AI21グリッドに位置する。南側をSK127削平され、西側をSK125で削平されている。開口部平面形態は隅丸方形で底部は隅丸方形で断面形態は長方形を呈している。覆土は5層に区分される。

SK127号土坑(第23・58図 図版10・36)

AH・AI21グリッドに位置する。西側をSK125で削平され、南側を調査区外である。開口部平面形態は隅丸方形で底部は隅丸方形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は4層に区分される。ピットは南側より1基検出された。P1の上面は(73)×(36)cm、底面は(106)×(36)cm、深さは20cmである。P1中より復元出来た縄文土器は2個体である。

SK135号土坑(第23・59図 図版10・37)

AG・AI20グリッドに位置する。西側をSK134に、南側をSK137に削平され、北側は乱れで削平されている。北側は調査区外を呈している。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は形態不明である。覆土は5層に区分される。

SK143号土坑(第23・59・60図 図版10・37・38)

AI20・21グリッドに位置する。中央部を東側から西側にかけて水道管により削平されている。開口部平面形態は隅丸方形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は11層に区分される。復元出来た縄文土器は1個体である。縄文土器は南側の壁面より横倒しの状態で出土している。胴部より上の部位が出土した。接合できた土器片は同遺構内より出土している。

SK144号土坑(第24・60図 図版38)

AI21グリッドに位置する。南側は調査区外である。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は台形を呈している。覆土は6層に区分される。復元出来た縄文土器は1個体である。

SK147号土坑(第25・61図 図版10・39)

AK19・20グリッドに位置する。開口部平面形態は隅丸方形で底部は隅丸方形で断面形態は長方形を呈している。覆土は8層に区分される。ピットは東側より1基、南側より1基、中央部南側より1基、計3基検出された。P1の上面は59×35cm、39×31cm、深さ46cmである。P2の上面は48×38cm、底面は37×33cm、深さ42cmである。P3の上面は33×26cm、底面は16×14cm、深さ12cmである。

SK153号土坑(第25・62図 図版11・40)

AL20グリッドに位置する。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は7層に区分される。ピットは北側より1基、東側より1基、計2基検出された。P1の上面は51×45cm、底面は

30×28cm、深さは54cmである。P2の上面は39×35cm、底面は26×21cm、深さは45cmである。

SK154号土坑 (第26・62図 図版11・41)

AL・AM20グリッドに位置する。開口部平面形態は隅丸方形で底部は隅丸方形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は8層に区分される。

SK157号土坑 (第26・63・64図 図版11・41・42)

AD・AE21・22グリッドに位置する。北側を水道管に削平されている。南側は調査区外である。開口部平面形態は隅丸方形で底部は楕円形で断面形態は張り出し袋状である。覆土は13層に区分される。他の土坑と違い、覆土の土色は黄色系(ローム)が主体である。ピットは東側より2基、西側より1基、計3基検出された。P1の上面は35×32cm、深さは13cmである。P2の上面は45×43cm、底面は25×16cm、深さは15cmである。P3の上面は35×27cm、底面は19×19cm、深さは13cmである。

SK161号土坑 (第27・65図 図版43)

AD21・22グリッドに位置する。東側をSK157に削平されている。南側は調査区外である。開口部平面形態は形態不明で底部は形態不明で断面形態は台形を呈している。覆土は7層に区分される。

SK172号土坑 (第27・65図 図版43)

AI20グリッドに位置する。北側は調査区外である。開口部平面形態は長方形で底部は長方形で断面形態は張り出し袋状を呈している。覆土は15層に区分される。ピットは北側に1基、南側に1基、計2基検出された。P1の上面は63×42cm、底面は34×23cm、深さは18cmである。P2の上面は44×41cm、底面は37×27cm、深さは40cmである。

SK174号土坑 (第28・66図 図版44)

AB22グリッドに位置する。南側は調査区外である。開口部平面形態は楕円形で底部は楕円形で断面形態は長方形を呈している。覆土は2層に区分される。

SK179号土坑 (第28・66図 図版44)

AV・AW13グリッドに位置する。南側を擾乱に削平され、東側を水道管で削平されている。開口部平面形態は円形で底部は円形で断面形態は台形を呈している。覆土は9層に区分される。復元出来た縄文土器は1個体である。南側の壁面より出土した。3層中からである。

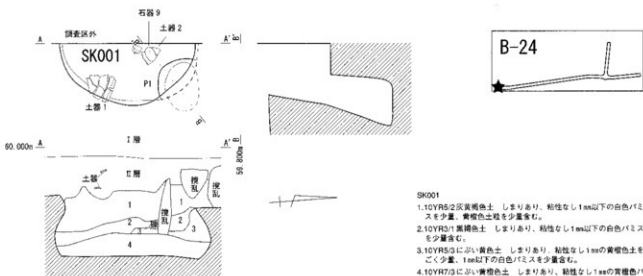
SK193号土坑 (第28・66図 図版44)

BF19・20グリッドに位置する。北側を水道管に削平されている。開口部平面形態は隅丸方形で底部は隅丸方形で断面形態は長方形を呈している。覆土は6層に区分される。

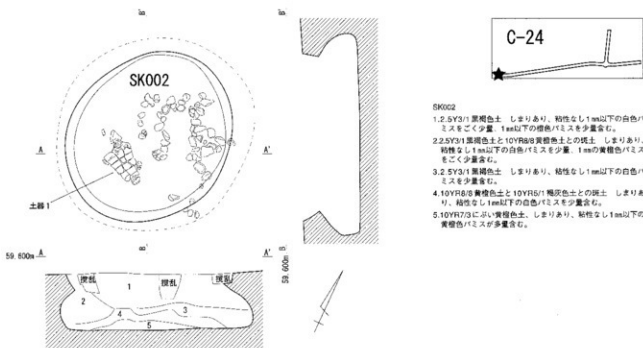
SX003号土坑 (第29・67図 図版11・45)

AB・AC21・22グリッドに位置する。西側は擾乱で削平され、中央部を東西に水道管で削平されている。北側は調査区外である。開口部平面形態は形態不明で底部は形態不明で断面形態は形態不明を呈している。覆土は9層に区分される。ピットは南側から1基、中央部から2基、北側から1基、計4基検出された。P1の上面は101×78cm、底面は64×61cm、深さは50cmである。P2の上面は38×28cm、底面は20×14cm、深さは18cmである。P3の上面は24×21cm、底面は13×11cm、深さは25cmである。P4の上面は26×22cm、底面は20×9cm、深さは24cmである。

第7図



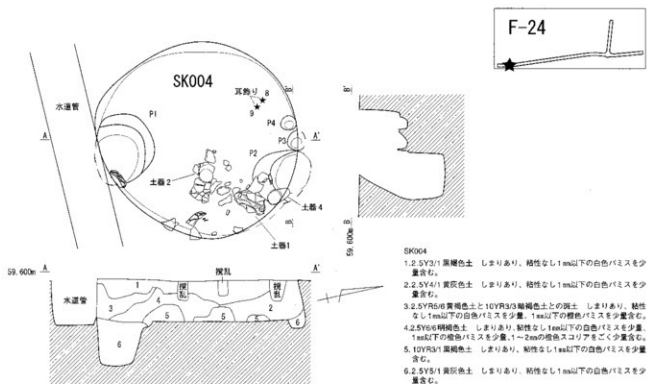
SK001号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



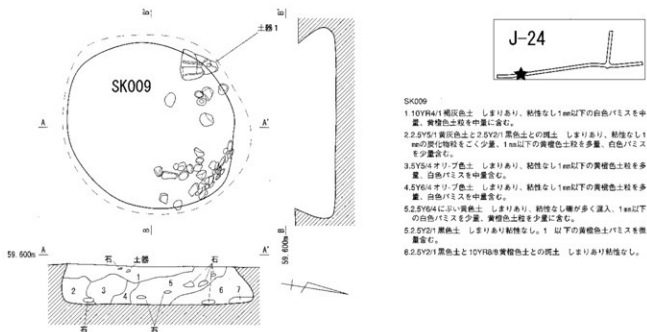
SK002号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

0 (S=1/40) 2m

第8図



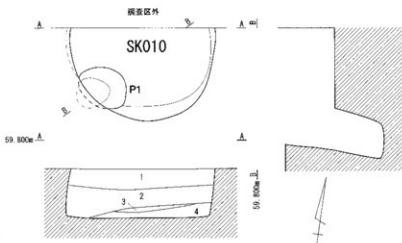
SK004号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



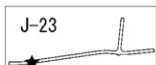
SK009号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

0 (S=1/40) 2m

第9図

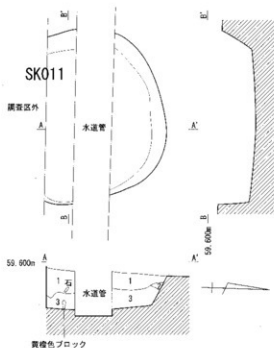


SK010号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

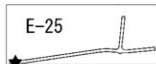


SK010

1. 2.5Y3/1 黒褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミス少量含む。
2. 10YR5/3に近い黄色土 しまりあり、粘性なし1m以下の黄褐色土粒もごく少量、1m以下の白色パミス少量含む。
3. 2.5Y3/1 黒褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の黄褐色パミス少量含む。
4. 10YR7/3に近い黄褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の黄褐色パミス少量含む。



SK011号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

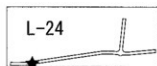
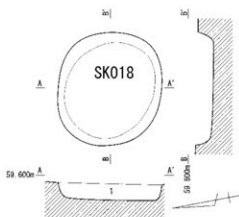


SK011

1. 10YR3/1 黒褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミス少量、黄褐色土粒を少量含む。
2. 2.5Y7/8 黄色土 しまりあり、粘性なし10YR3/1 黒褐色土が混入する。
3. 10YR3/1 黒褐色土と2.5Y7/8 黄色土との混土 しまりあり、粘性なし1m以下の黄褐色土粒を少量含む。

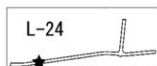
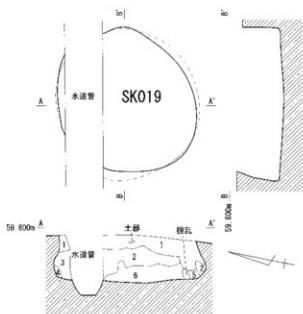
0 (S=1/40) 2m

第10図



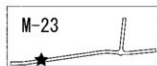
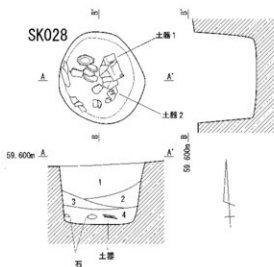
SK018
1.2.5Y3/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パリスを少量含む。

SK018号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



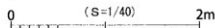
SK019
1.2.5Y3/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パリスを少量、黄褐色土粒を中量含む。
2.10YR7/3黄褐色土 しまりあり、粘性なし2.5Y3/1黄褐色土が混入、1m以下の七本型パリスが混入する。
3.2.5Y3/7黄褐色土と10YR6/5黄褐色土との混入 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パリスを少量、七本型パリスを少量含む。
4.10YR6/5黄褐色土 しまりあり、粘性なし。
5.2.5Y2/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし2.5Y2/1黄褐色土が混入する。
6.2.5Y2/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の浅黄色土ブロックを少量、1m以下の白色パリスを少量含む。

SK019号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

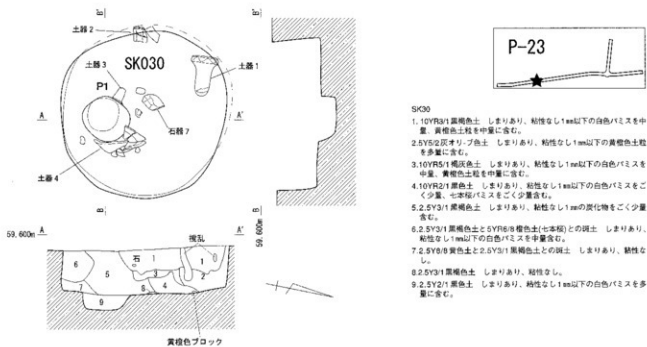


SK028
1.2.5Y3/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パリスを少量含む。
2.10YR3/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パリスを少量含む。
3.10YR4/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パリスを少量含む。
4.2.5Y2/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パリスを少量含む。

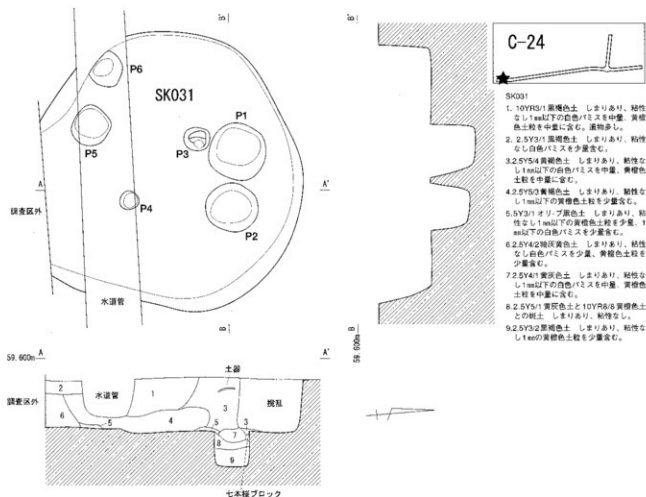
SK028号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



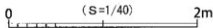
第11図



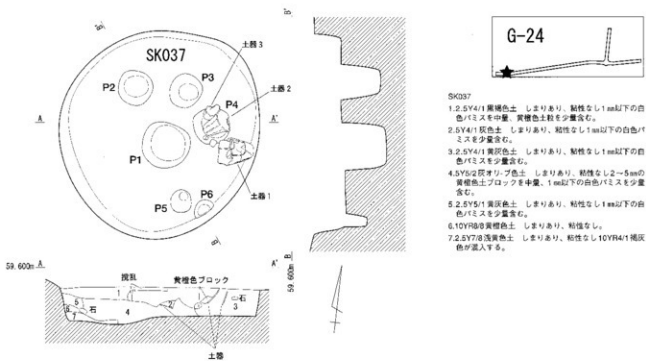
SK030号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



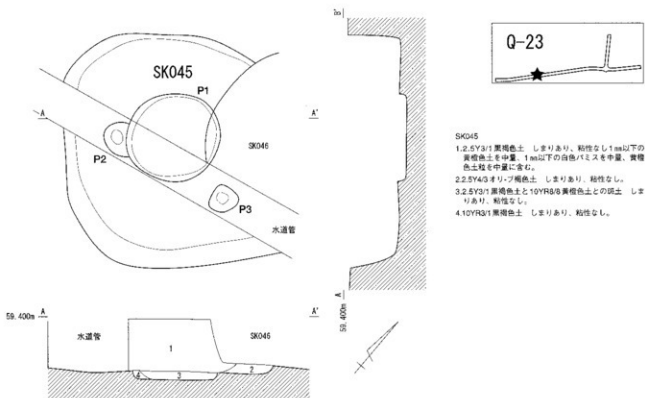
SK031号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



第12図



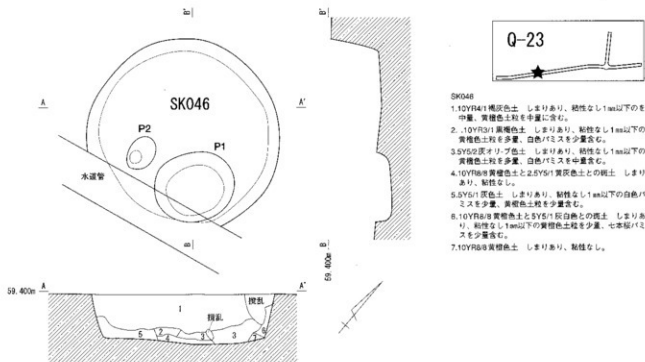
SK037号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



SK045号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

0 (S=1/40) 2m

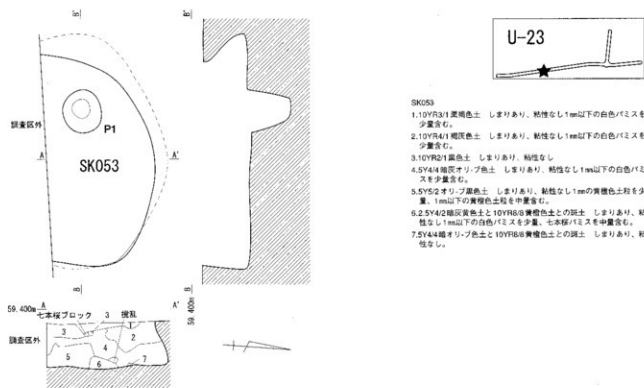
第13図



SK046

- 1.10YR4/1 褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下のを中量、黄褐色土粒を中量に含む。
- 2.10YR3/1 黄褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の黄褐色土粒を多量、白色パミスを少量含む。
- 3.5Y5/2 灰オリブ色土 しまりあり、粘性なし1m以下の黄褐色土粒を多量、白色パミスを中量含む。
- 4.10YR6/8 黄褐色土と2.5Y5/1 黄灰色土との混土 しまりあり、粘性なし。
- 5.5Y6/1 灰土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミスを少量、黄褐色土粒を少量含む。
- 6.10YR6/8 黄褐色土と5Y5/1 灰白土との混土 しまりあり、粘性なし1m以下の黄褐色土粒を少量、七本塚パミスを少量含む。
- 7.10YR6/8 黄褐色土 しまりあり、粘性なし。

SK046号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



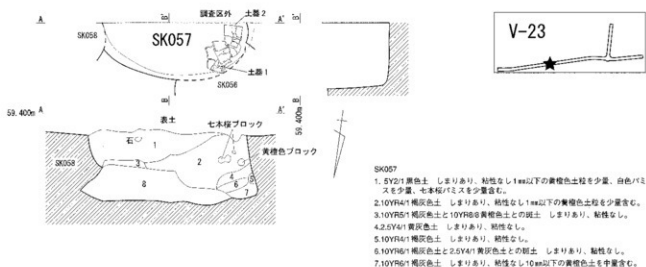
SK053

- 1.10YR3/1 黄褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミスを少量含む。
- 2.10YR4/1 褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミスを少量含む。
- 3.10YR2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし。
- 4.5Y4/4 暗灰オリブ色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミスを少量含む。
- 5.5Y5/2 オリブ黒色土 しまりあり、粘性なし1mの黄褐色土粒を少量、1m以下の黄褐色土粒を少量含む。
- 6.2.5Y4/2 暗黄褐色土と10YR6/8 黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミスを少量、七本塚パミスを中量含む。
- 7.5Y4/4 暗オリブ色土と10YR6/8 黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし。

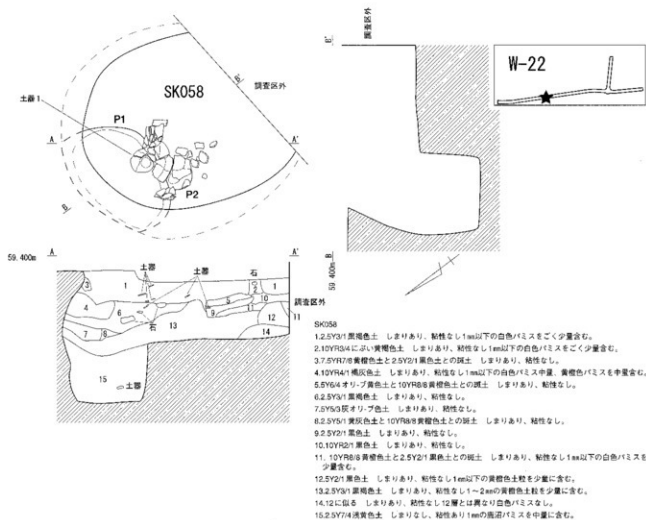
SK053号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

0 (S=1/40) 2m

第14図

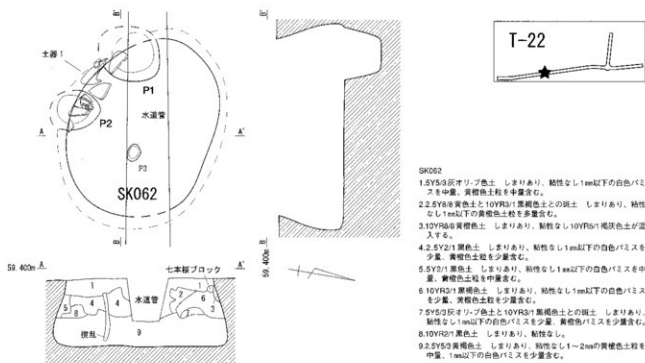


SK057号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



SK058号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40) 0 (S=1/40) 2m

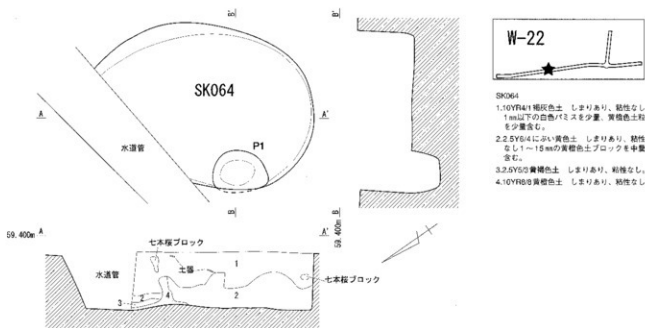
第15図



SK062号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

SK062

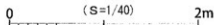
- 1.5Y5/8灰オリーブ色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の白色パミスの中量、黄褐色土粒を中量含む。
- 2.2.5Y8/8黄色土と10YR3/1黒褐色土との混土 しまりあり、粘性なし1cm以下の黄褐色土粒を多量含む。
- 3.10YR6/8黄褐色土 しまりあり、粘性なし10YR6/1褐色土が混入する。
- 4.2.5Y2/1黒色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の白色パミスを少量、黄褐色土粒を少量含む。
- 5.5Y2/1黒色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の白色パミスの中量、黄褐色土粒を少量含む。
- 6.10YR3/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の白色パミスを少量、黄褐色土粒を少量含む。
- 7.5Y5/8灰オリーブ色土と10YR3/1黒褐色土との混土 しまりあり、粘性なし1cm以下の白色パミスを少量、黄褐色土粒を少量含む。
- 8.10YR7/1黒色土 しまりあり、粘性なし。
- 9.2.5Y5/8黄褐色土 しまりあり、粘性なし1~2cmの黄褐色土粒を中量、1cm以下の白色パミスを少量含む。



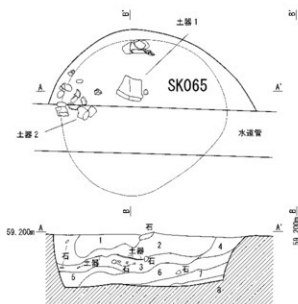
SK064号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

SK064

- 1.10YR4/1褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の白色パミスを少量、黄褐色土粒を少量含む。
- 2.2.5Y6/4に近い黄色土 しまりあり、粘性なし1~15mmの黄褐色土ブロックを中量含む。
- 3.2.5Y5/8黄褐色土 しまりあり、粘性なし。
- 4.10YR6/8黄褐色土 しまりあり、粘性なし。



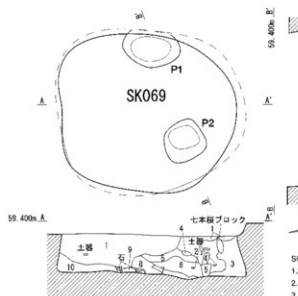
第16図



SK065

- 1.2.5Y3/1 黄褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス少量、黄褐色土粒を少量含む。
- 2.2.5Y2/2 黄褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス少量、黄褐色土粒を少量含む。
- 3.2.5Y3/1 黄褐色土 しまりあり、粘性なし1mmより明るい、1mm以下の黄褐色土粒を多量含む。
- 4.5Y4/1 灰褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土粒を多量含む。
- 5.2.5Y4/1 黄褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土粒を多量含む。
- 6.10YR8/8 黄褐色土 しまりあり、粘性なし2.5Y5/1 黄灰色土が混入する。
- 7.10YR5/1 褐灰色土 しまりあり、粘性なし2.5Y3/1 黄褐色土が混入する。
- 8.10YR8/8 黄褐色土と2.5Y3/1 黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスごく少量含む。

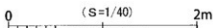
SK065号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



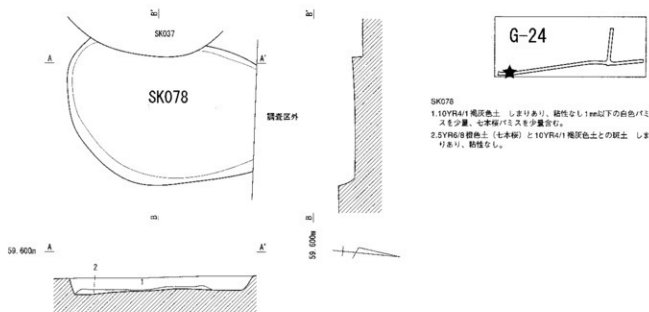
SK069

- 1.2.5Y3/1 黄褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス少量含む。
- 2.10YR2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス少量、七本板パミス少量含む。
- 3.10YR2/1 黒色土と2.5Y3/1 黄灰色土との混土 しまりあり、粘性なし5mmの黄褐色土粒を少量、1mm以下の黄褐色土粒を少量含む。
- 4.7.5Y2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし。
- 5.7.5Y7/8 黄褐色土 しまりあり、粘性なし2.5Y5/1 黄灰色土が混入する。
- 6.10YR4/1 褐灰色土と2.5Y5/4 黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし1mmの炭化物を少量、1mm以下の七本板パミス少量含む。
- 7.10YR5/2 灰黄褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土粒を多量、七本板パミス少量含む。
- 8.2.5Y5/2 輪灰黄色土 しまりあり、粘性なし10YR8/8 黄褐色土が混入している。
- 9.10YR5/1 褐灰色土と10YR8/8 黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス少量含む。
- 10.2.5Y6/2 灰黄色土と2.5Y5/1 黄灰色土との混土 しまりあり、粘性なし。

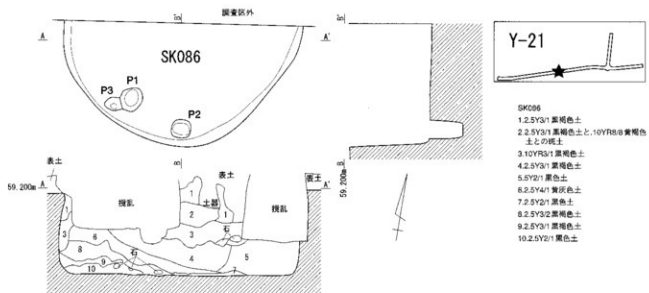
SK069号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



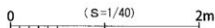
第17図



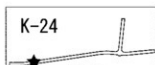
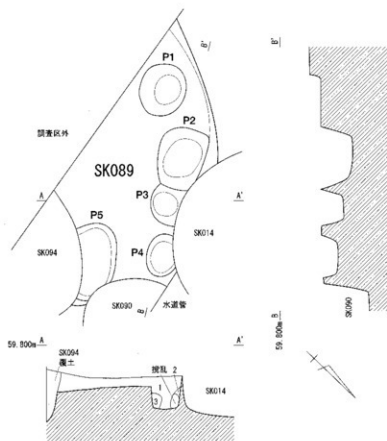
SK078号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



SK086号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



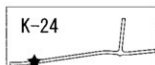
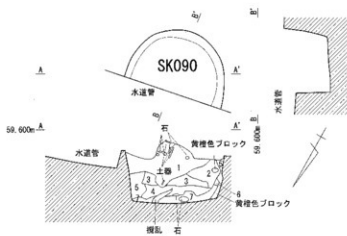
第18図



SK089

1. 10YR3/1 黒褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
2. 2.5Y3/1 黒褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
3. 10YR2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし。

SK089号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



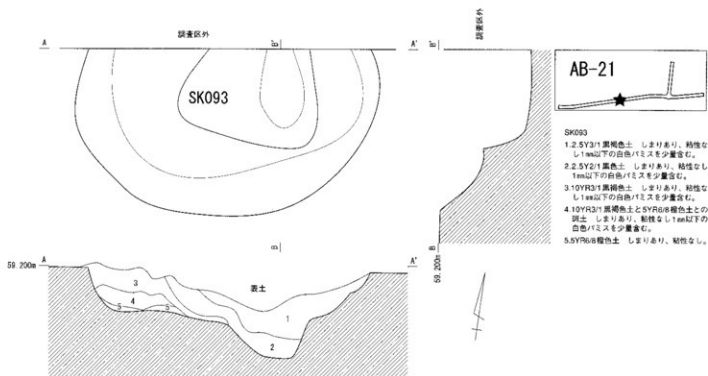
SK090

1. 2.5Y3/1 黒褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。1mm以下の白色パミスを多量、黄褐色土粒を多量に含む。
2. 2.5Y2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量、七色灰パミスを少量、炭化物を少量含む。
3. 7.5Y2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量、黄褐色土粒を少量に含む。
4. 10YR2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスをごく少量含む。
5. 10YR8/8 黄褐色土と2.5Y3/1 黒褐色土との混土 しまりあり、粘性なし。
6. 2.5Y2/1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり 10YR8/8 黄褐色土が混入する。
7. N5/0 灰色と2.5Y2/1 黒褐色土との混土 しまりあり、粘性なし。

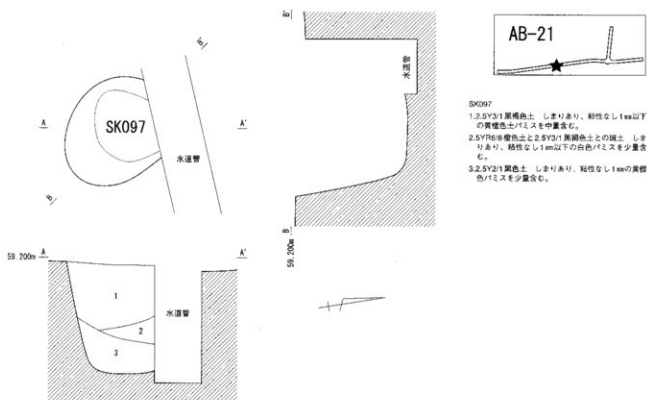
SK090号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

0 (S=1/40) 2m

第19図



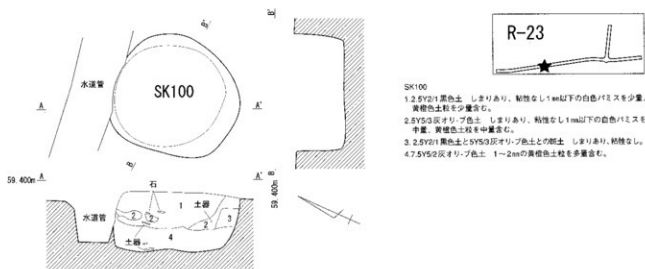
SK093号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



SK097号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

0 (S=1/40) 2m

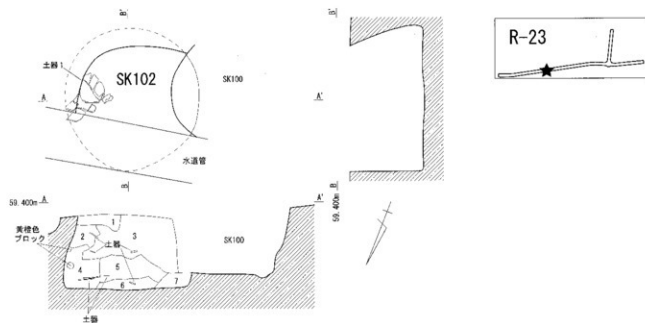
第20図



SK100号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

SK100

- 1.2.5Y2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス少量、黄褐色土粒を少量含む。
- 2.5Y5/3 灰オリブ色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス中量、黄褐色土粒を中量含む。
- 3.2.5Y2/1 黒色土と5Y5/3 灰オリブ色土との混土 しまりあり、粘結なし。
- 4.7.5Y5/2 灰オリブ色土 1~2mmの黄褐色土粒を多量含む。

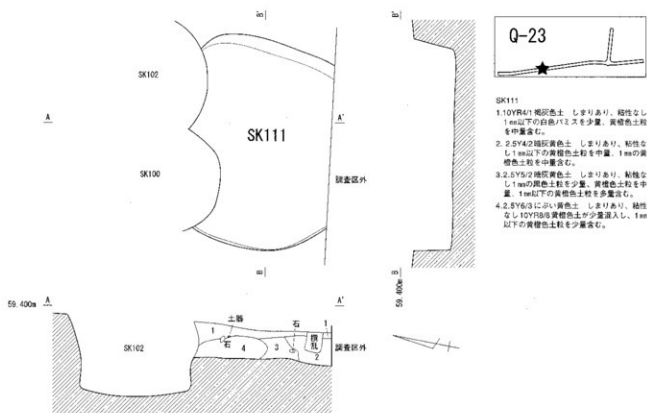


- SK102
- 1.5Y4/1 灰黄色土 しまりあり、粘結なし1mm以下の白色パミス中量、黄褐色土粒を中量含む。
 - 2.10YR4/1 褐灰色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土粒を多量、白色パミス少量含む。
 - 3.2.5Y2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス少量、黄褐色土粒を少量含む。
 - 4.2.5Y4/1 黄灰色土 しまりあり、粘性なし1mmの黄褐色土粒を中量、1mm以下の白色パミス中量、黄褐色土粒を中量含む。
 - 5.2.5Y6/3 濃い黄灰色土 しまりあり、粘性なし1mmの黄褐色土粒を少量、1mm以下の黄褐色土粒を中量含む。
 - 6.2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土粒を中量、白色パミスを少量含む。
 - 7.2.5Y3/1 黒褐色土 しまりあり、粘性なし1mmの黄褐色土粒を中量、1mm以下の黄褐色土粒を中量、白色パミスを少量含む。

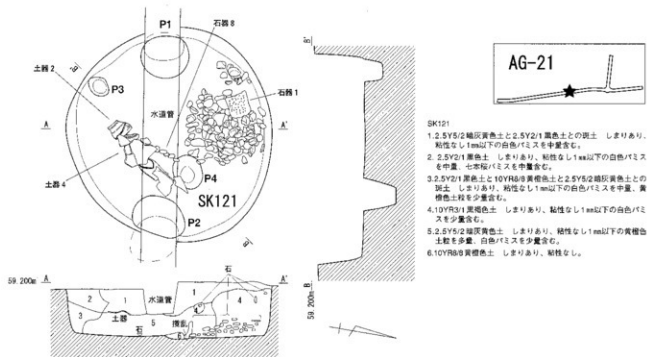
SK102号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

0 (S=1/40) 2m

第21図



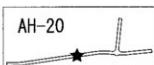
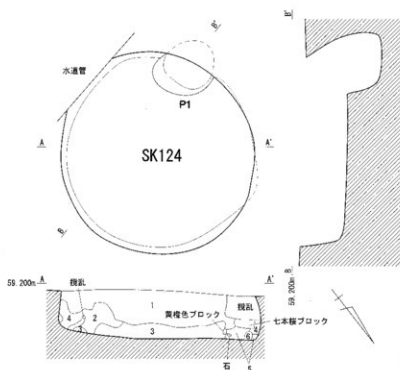
SK111号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



SK121号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

0 (S=1/40) 2m

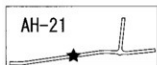
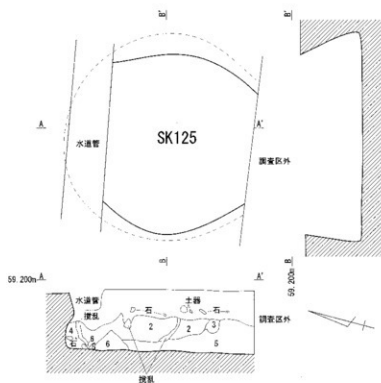
第22図



SK124

1. 2.5Y2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の七本塚パミス少量、白色パミスを少量含む。
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色土 しまりあり、粘性なし1mmの黄褐色土粒を少量、1mm以下の白色パミスを少量、黄褐色土粒を少量含む。
3. 2.5Y5/1 暗灰黄色土と2.5Y2/1 黒色土との混土 しまりあり、粘性なし10mm以下の黄褐色土ブロックを少量含む。
4. 10YR6/8 黄褐色土と5YR5/6 褐色土（七本塚）との混土 しまりあり、粘性なし。
5. 5Y2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
6. 2に似る。しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土粒を多量に含む。

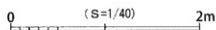
SK124号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



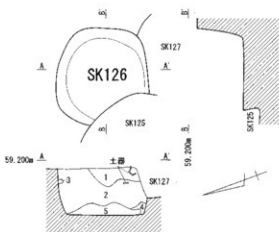
SK125

1. 2.5Y2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを多量、黄褐色土粒を多量に含む。
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色土 しまりあり、粘性なし10mmの黄褐色土ブロックを多量、七本塚ブロックを少量含む。
3. 2.5Y2/1 黒色土と2.5Y5/2 暗灰黄色土との混土 しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土ブロックを多量に含む。
4. 10YR6/8 黄褐色土と2.5Y2/1 黒色土との混土 しまりあり、粘性なし、1mm以下の白色パミスを少量含む。
5. 2.5Y5/2 暗灰黄色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土粒を少量、七本塚パミスを少量含む。
6. 2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土粒を中量含む。

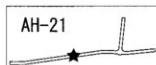
SK125号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



第23図

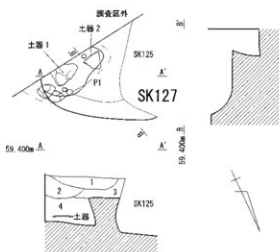


SK126号土坑・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



SK126

1. 5V2/1 黄灰色土 しまりあり、粘性なし1m以下の黄褐色土粒を中量含む。
2. 2.5Y4/1 黄灰色土 しまりあり、粘性なし1mmの黄褐色土粒を少量、1m以下の黄褐色土粒を多量に含む。
3. 5YR6/8 黄褐色土 (七本堀) しまりあり、粘性なし2.5Y4/1 黄灰色土が混入する。
4. 2.5Y5/1 黄灰色土 しまりあり、粘性なし1m以下の黄褐色土粒を中量含む。
5. 10YR6/8 黄褐色土 しまりあり、粘性なし。

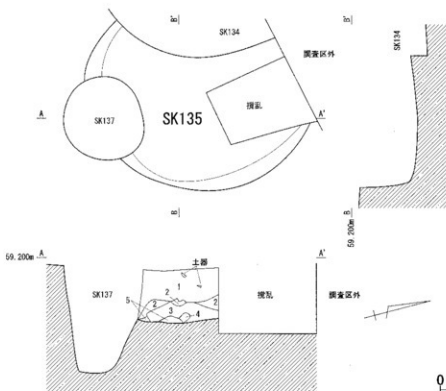


SK127号土坑・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



SK127

1. 2.5 Y 2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし。
2. 5 Y 2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし。
3. 2.5 Y 3/1 黒褐色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミス少量、黄褐色土粒を少量含む。
4. 2.5 Y 4/1 黄灰色土 しまりあり、粘性なし20cmの黄褐色土粒を少量、1m以下の黄褐色土粒を中量含む。



SK135号土坑・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

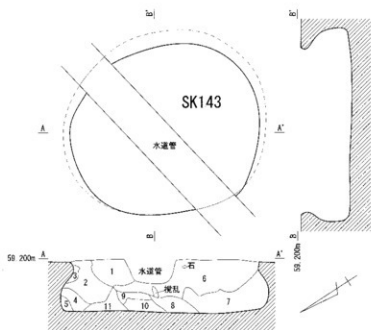


SK135

1. 2.5Y2/1 黒色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミスを少量含む。
2. 2.5Y3/1 黒褐色土と2.5Y5/2 暗灰黄色土との混土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミスを少量含む。
3. 2.5Y5/2 暗灰黄色土 しまりあり、粘性なし1m以下の白色パミスを少量含む。
4. 2.5Y5/1 黄灰色土 しまりあり、粘性なし。
5. 2.5Y4/1 黄灰色土 しまりあり、粘性なし5mmの黄褐色ブロックを中量含む。

0 (S=1/40) 2m

第24図

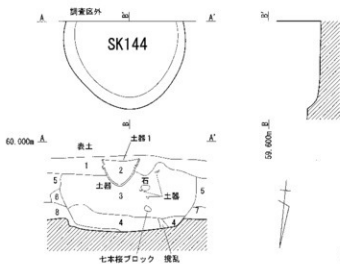


SK143号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

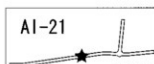


SK143

1. 2.5Y5/3暗灰黄色土と2.5Y2/1黒色土との混土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス多量、黄褐色土粒を少量含む。
2. 2.5Y4/1黄灰色土 しまりあり、粘性なし50mm七本椽ブロックを中量、1mm以下の白色パミス多量、黄褐色土粒を少量含む。
3. 5YR6/8褐色土 (七本椽) と2.5Y2/1黒色土との混土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
4. 10YR8/8黄褐色土と2.5Y4/1黄灰色土との混土 しまりあり、粘性なし1mm以下の七本椽パミスを少量含む。
5. 5YR5/8褐色土 (七本椽) しまりあり、粘性なし。
6. 2.5Y3/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを中量、七本椽パミスを少量含む。
7. 2.5Y5/3暗灰黄色土と2.5Y3/1黒褐色土との混土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス多量を含む。
8. 10YR8/8黄褐色土 しまりあり、粘性なし2.5Y2/1黒色土が混入する、1mm以下の七本椽パミスを少量含む。
9. 2.5Y6/2灰黄色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスごく少量含む。
10. 10YR8/8黄褐色土と2.5Y5/2暗灰黄色土との混土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
11. 10YR8/8黄褐色土 しまりあり、粘性なし。

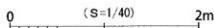


SK144号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

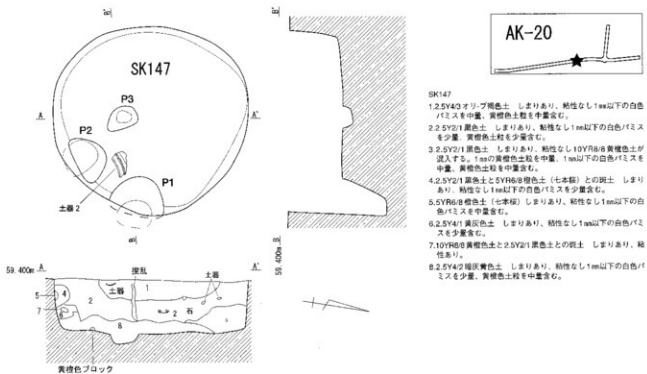


SK144

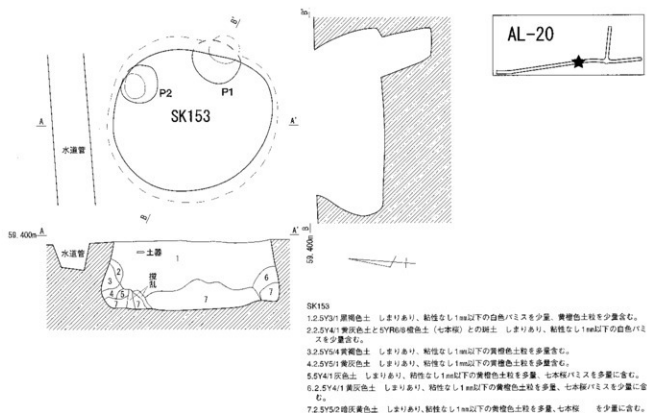
1. 2.5Y4/1黄灰色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
2. 2N2/0黒色土 しまりあり、粘性なし。
3. 10YR2/1黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
4. 2.5Y2/1黒色土 しまりあり、粘性なし10mmの七本椽ブロックを少量含む、1mm以下の白色パミス中量、七本椽パミスを少量含む。
5. 2.5Y3/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
6. 10YR3/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスをごく少量含む。
7. 2Y3/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし5mmより薄い、5mmの七本椽ブロックを少量含む、1mm以下の七本椽パミス少量、白色パミスをごく少量含む。
8. 2.5Y3/1黒褐色土と10YR8/8黄褐色土と5YR6/8褐色土 (七本椽) との混土しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミス中量含む。



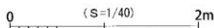
第25図



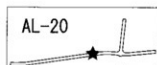
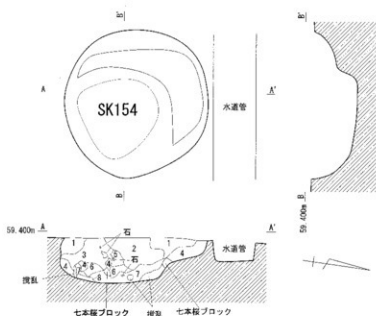
SK147号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



SK153号土坑平面・遺物出土状態・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



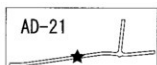
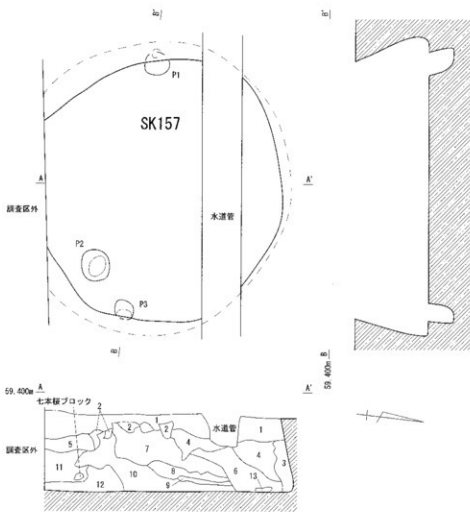
第26図



SK154

1. 5Y2/1黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを中量、黄褐色土粒を中量含む。
2. 5Y2/1黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
3. 10YR2/1黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
4. 5Y2/1黒色土と5YR8/8褐色土（七本椋）との混土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
5. 5Y2/1黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
6. 5Y2/1黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
7. 2.5Y3/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土粒を中量含む。
8. 10YR8/8黄褐色土 しまりあり、粘性なし

SK154号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



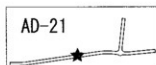
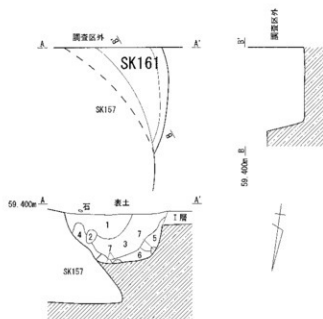
SK157

1. 2.5Y2/1黒色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量、黄褐色土粒を少量含む。
2. 5Y2/1黒色土と10YR8/8黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを少量含む。
3. 2.5Y4/1黄灰色土 しまりあり、粘性なし20mm以下の七本椋ブロックを中量、1mm以下の黄褐色土粒を中量含む。
4. 5Y6/2灰オリブ色土 しまりあり、粘性なし20mm以下の七本椋ブロックを少量、10mmの黄褐色土ブロックを少量、1mm以下の黄褐色土粒を少量含む。
5. 2.5Y8/1黄灰色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の白色パミスを中量、黄褐色土粒を中量含む。
6. 2.5Y6/3に近い黄褐色土 しまりあり、粘性なし30mmの黄褐色土ブロックを少量、10mmの七本椋ブロックを中量、5mmの黒色土ブロックを少量含む。
7. 5Y6/3に近い黄褐色土と10YR8/8黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし30mmの七本椋ブロックを少量、1mm以下の七本椋パミスを少量含む。
8. 2.5Y6/4に近い黄褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の七本椋パミスを少量、黒色土粒を少量含む。
9. N 2の黒色土と2.5Y6/4に近い黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし30mmの七本椋ブロックを少量、1mm以下の七本椋パミスを少量含む。
10. 10YR7/8黄褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の七本椋パミスを中量含む。
11. 2.5Y4/1黄灰色土 しまりあり、粘性なしN2の黒色土が混入し、1mm以下の七本椋パミスを少量含む。
12. 2.5Y6/3に近い黄褐色土 しまりあり、粘性なし1mm以下の黄褐色土粒を少量含む。
13. N2の黒色土 しまりあり、粘性なし10mmの黄褐色土粒を少量含む。

SK157号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

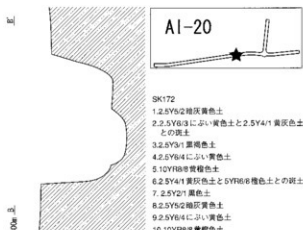
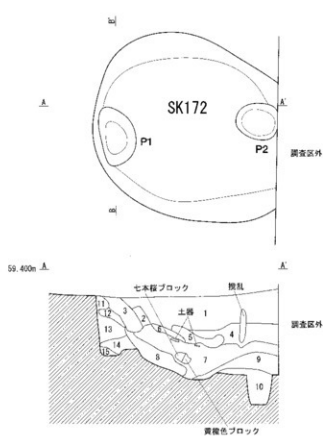
0 (S=1/40) 2m

第27図



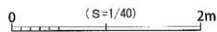
- SK161
1. 2.5Y3/1 黒褐色土 しまりあり、粘粒なし1mm以下の白色パミス少量、黄褐色土粒を少量含む。
 2. 2.5Y6/8 黄褐色土 しまりあり、粘粒なし。
 3. 2.5Y2/1 黒色土 しまりあり、粘粒なし1mm以下の白色パミス少量、黄褐色土粒を中量含む。
 4. 10YR6/8 明黄褐色土 しまりあり、粘粒なし1mm以下の七本塚パミスを少量含む。
 5. 2.5Y3/1 黒褐色土と5YR6/8 橙褐色土（七本塚）との混土 しまりあり、粘粒なし。
 6. 2.5Y3/1 黒褐色土と2.5Y5/2 暗灰黄色土との混土 しまりあり、粘粒なし1mm以下の黄褐色土粒を少量含む。
 7. 10YR6/8 黄褐色土 しまりあり、粘粒なしブロック状に混入している。

SK161号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

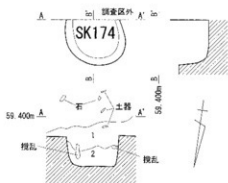


- SK172
1. 2.5Y6/2 暗黄褐色土
 2. 2.5Y6/3 ぶい黄褐色土と2.5Y4/1 黄灰色土との混土
 3. 2.5Y3/1 黒褐色土
 4. 2.5Y6/4 ぶい黄褐色土
 5. 10YR8/8 黄褐色土
 6. 2.5Y4/1 黄灰色土と5YR6/8 橙褐色土との混土
 7. 2.5Y2/1 黒色土
 8. 2.5Y5/2 暗灰黄色土
 9. 2.5Y6/4 ぶい黄褐色土
 10. 10YR8/8 黄褐色土
 11. 2.5Y3/1 黒褐色土と2.5Y6/3 ぶい黄褐色土との混土
 12. 5Y6/3 オリーブ黄褐色土
 13. 2.5Y6/3 ぶい黄褐色土
 14. 2.5Y7/9 黄褐色土
 15. 10YR6/8 黄褐色土と10YR5/1 暗灰色土との混土

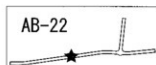
SK172号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)



第28図

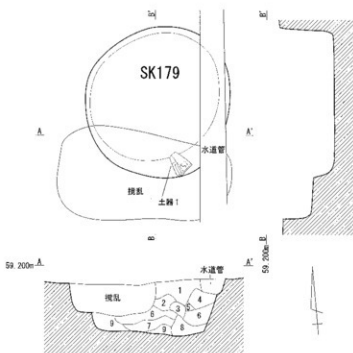


SK174号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

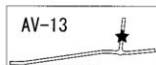


SK174

- 2.5Y2/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の七草層パミスを少量、黄褐色土粒を中量含む。
- 2.5Y3/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし1cmの七草層パミスを少量、1cm以下の七草層を中量含む。

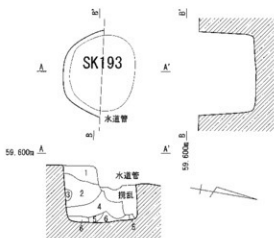


SK179号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

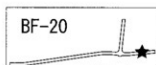


SK179

- 2.5Y3/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の白色パミスを少量、黄褐色土粒を中量含む。
- 2.5Y5/3黄褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の黄褐色土粒を少量含む。
- 2.5Y3/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の黄褐色土粒を少量含む。
- 10YR/2灰黄褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の黄褐色土粒を中量含む。
- 10YR6/3濃い黄褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の黄褐色土粒を中量含む。
- 10YR8/8黄褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の七草層パミスを中量含む。
- 2.5Y4/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし2mmの炭化物粒を少量含む1cm以下の黄褐色土粒を中量含む。
- 2.5Y4/2暗灰黄褐色土 しまりあり、粘性なし5mmの黄褐色土ブロックを少量含む1cmの黄褐色土粒を中量含む。
- 10YR2/8黄褐色土と10YR8/4に近い黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし1cm以下の七草層パミスを少量含む。

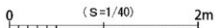


SK193号土坑平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

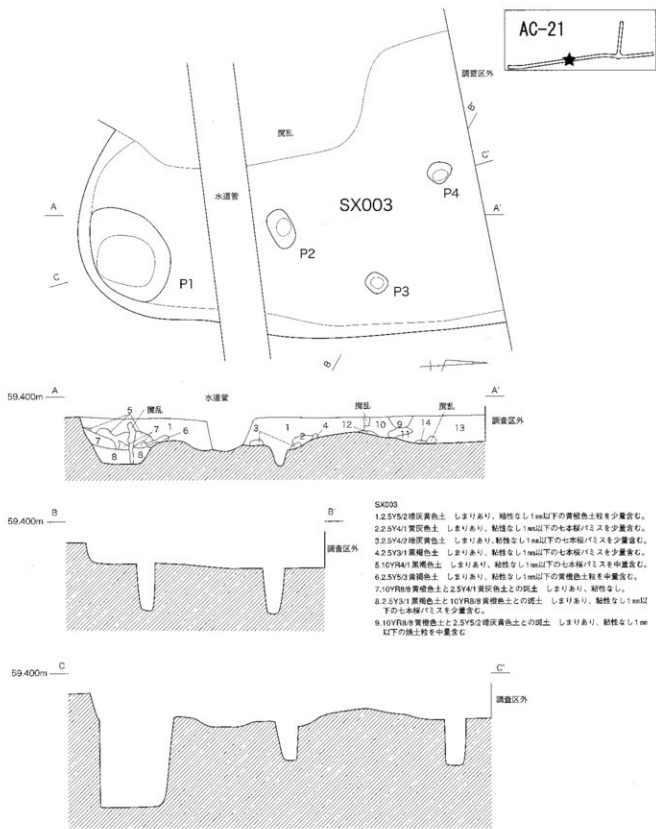


SK193

- 10YR3/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の白色パミスを中量、黄褐色土粒を中量含む。
- 2.5Y3/1黒褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の白色パミスを中量、黄褐色土粒を中量含む。
- 10YR8/8黄褐色土と2.5Y5/2暗灰黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし。
- 2.5Y3/1黄褐色土 しまりあり、粘性なし1cm以下の白色パミスを少量、黄褐色土粒を少量含む。
- 2.5Y5/2暗灰黄褐色土 しまりあり、粘性なし2.5Y3/1黒褐色土が混入する。
- 10YR8/8黄褐色土と2.5Y5/2暗灰黄褐色土との混土 しまりあり、粘性なし。



第29図



SX003号遺構平面・土層断面図・エレベーション図 (1/40)

第2表 遺構観察表及び出土遺物表(1)

遺構番号	棟図/図版	開口部平面形態	底部形態	断面形態	開口部	底部	高さ	時期	石葺総数	土葺総数
SK001	第7・30図 図版4・12	円形	円形	張り出し 袋状	143	143	65	加曾利E1 (大木8b)	19	217
SK002	第7・31図 図版4・13	楕円形	楕円形	張り出し 袋状	192	216	61	加曾利E1	37	351
SK003		楕円形	楕円形	半楕円形	66.5	39	18.5		0	0
SK004	第8・32・33図 図版4・14	円形	円形	張り出し 袋状	207.6	192.4	45	加曾利E1	33	176
SK005		隅丸方形	隅丸方形	台形	103.5	40.5	37	加曾利E1	3	66
SK006		円形	楕円形	半楕円形	120	89	26.2	加曾利E1	0	44
SK007		円形	楕円形	台形	108	74.5	22.5	加曾利E1	0	10
SK008		楕円形	楕円形	張り出し 袋状	151	159	49.5	加曾利E1	9	110
SK009	第8・33図 図版4・15	楕円形	楕円形	張り出し 袋状	194	209	44	加曾利E1	19	164
SK010	第9・34図 図版4・15	円形	円形	張り出し 袋状	152.5	149.5	52.5	加曾利E1	0	46
SK011	第9・34図 図版15	隅丸方形	隅丸方形	台形	181	160	44	加曾利E1	1	49
SK012		円形	円形	台形	229	214.5	20	加曾利E1	7	48
SK013		長方形	長方形	台形	228.3	208.4	38	加曾利E1	4	150
SK014		長方形	長方形	形態不明	157.5	132	42	加曾利E2	2	23
SK015		円形	円形	台形	83	62	23	加曾利E2	3	30
SK016		楕円形	楕円形	台形	123.5	102.5	48	加曾利E2	1	27
SK017		楕円形	楕円形	長方形	155.5	119.1	52.2	中期	1	83
SK018	第10・34図 図版5・16	楕円形	楕円形	長方形	120	102	19	加曾利E3	2	80
SK019	第10・35図 図版5・16	楕円形	楕円形	張り出し 袋状	153	159.5	51	加曾利E1 (大木8a)	12	184
SK020		楕円形	楕円形	長方形	157.5	142.5	41	加曾利E2	10	10
SK021		楕円形	隅丸方形	台形	125	98	20.5	称名寺	2	49
SK022		隅丸方形	隅丸方形	張り出し 袋状	174.5	181	98	加曾利E3	9	209
SK023		隅丸方形	隅丸方形	張り出し 袋状	110.5	128.9	98	加曾利E1	16	159
SK024		形態不明	形態不明	形態不明	(187.5)	(167.5)	87	加曾利E2	0	25
SK025		隅丸方形	隅丸方形	台形	142	110	30.8	中期	4	18
SK026		楕円形	楕円形	形態不明	202	186	66		10	0
SK027		円形	隅丸方形	台形	94	30	107		0	0
SK028	第10・36図 図版5・17	楕円形	楕円形	長方形	91	84.5	85	竊取1	8	203
SK029		楕円形	楕円形	張り出し 袋状	82	107	104.5	加曾利E1	10	275
SK030	第11・37・38図 図版5・18	隅丸方形	円形	張り出し 袋状	172	175	52	加曾利E1	14	229
SK031	第11・38図 図版5・19	楕円形	楕円形	長方形	292	266	61	加曾利E3	61	606
SK032		形態不明	形態不明	形態不明	(67)	(37)	37	加曾利E2	6	36

第2表 遺構観察表及び出土遺物表(2)

遺構番号	神図/図版	開口部平面形態	底部形態	断面形態	開口部	底部	深さ	時期	石器総数	土器総数
SK033		楕円形	楕円形	台形	118	98	22.5	加曾利E1	7	147
SK034		形態不明	形態不明	長方形	(68)	(54.5)	21.2	後期	0	11
SK035		楕円形	楕円形	台形	196	173	54	中期	9	1
SK036		形態不明	形態不明	長方形	(88)	(84)	45		0	0
SK037	第12・39回 図版6・19	楕円形	楕円形	張り出し 袋状	219	205.5	40	加曾利E1	15	169
SK038		楕円形	楕円形	長方形	126.5	118	76	加曾利E1	8	33
SK039		楕円形	楕円形	張り出し 袋状	(71)	(74)	68	加曾利E1	2	18
SK040		円形	円形	半楕円形	132	104.2	22	後期	1	34
SK041		隅丸方形	隅丸方形	長方形	91.5	81	38.8	後期	0	10
SK042		楕円形	楕円形	台形	158.5	141	75	加曾利E4	3	59
SK043		隅丸方形	隅丸方形	長方形	(118)	(100)	52		0	0
SK044		隅丸方形	隅丸方形	長方形	(95)	(84)	54		0	0
SK045	第12・40回 図版6・20	隅丸方形	隅丸方形	長方形	246	222	65	加曾利E1~E4	9	161
SK046	第13・41回 図版6・21	円形	円形	台形	204	180	52	加曾利E1	8	126
SK047		隅丸長方形	隅丸方形	台形	78	51.3	23		0	0
SK048		形態不明	形態不明	長方形	149	124	40.5		0	0
SK049		隅丸長方形	隅丸長方形	半楕円形	85	56	16		0	0
SK050		楕円形	隅丸方形	台形	89	68.5	48.8	称名寺	0	5
SK051		円形	円形	台形	166	144	64.8	加曾利E1	7	96
SK052		形態不明	形態不明	半楕円形	92	66.5	23.5		2	2
SK053	第13・42回 図版6・21	隅丸方形	隅丸方形	張り出し 袋状	218	232	49	加曾利E1	9	55
SK054		隅丸方形	隅丸方形	長方形	140	70.5	54.5	称名寺	5	22
SK055		形態不明	形態不明	長方形	104	93	63		0	0
SK056		楕円形	楕円形	長方形	106	91.6	46.5	加曾利E4	2	18
SK057	第14・43回 図版22	長方形	長方形	張り出し 袋状	(159)	150	80	加曾利E1	0	519
SK058	第14・44回 図版7・23	楕円形	楕円形	張り出し 袋状	185	226	75	加曾利E1	35	682
SK059		楕円形	楕円形	台形	122	85	61	称名寺	2	43
SK060		隅丸長方形	楕円形	長方形	136	116	41		0	0
SK061		円形	円形	張り出し 袋状	78	56	63	加曾利E1	1	25
SK062	第15・45回 図版7・24	楕円形	楕円形	張り出し 袋状	195	219	72.5	加曾利E2	9	155
SK063		隅丸方形	隅丸方形	台形	104	81	21		0	0
SK064	第15・46回 図版7・25	楕円形	楕円形	長方形	168	157.5	62	加曾利E2 (大木9a)	11	116
SK065	第16・47回 図版7・25	楕円形	楕円形	台形	219.5	174.5	58	加曾利E1	16	150
SK066		形態不明	形態不明	長方形	107	74.5	23.5		0	0

第2表 遺構観察表及び出土遺物表 (3)

遺構番号	棟図/図版	開口部平面形態	底部形態	断面形態	開口部	底部	深さ	時期	石段総数	土器総数
SK067		楕円形	楕円形	長方形	199	23.5	53.7	加曾利E1	18	91
SK068		円形	円形	張り出し袋状	(205)	300	82	称名寺	0	6
SK069	第16・48図 図版8・26	隅丸方形	隅丸方形	張り出し袋状	185	198.5	48.5	加曾利E1	21	174
SK070		楕円形	楕円形	長方形	93.5	79	102.5	加曾利E2	11	25
SK071		楕円形	楕円形	台形	116.6	87	36.5	加曾利E3	6	20
SK072		隅丸方形	隅丸方形	長方形	104	93	35	加曾利E2 連弧文	1	16
SK073		隅丸方形	三角形	長方形	149	113	66	称名寺	4	117
SK074		隅丸方形	隅丸方形	張り出し袋状	142.5	123	32	中期?	0	0
SK075		形態不明	形態不明	長方形	156	169	60.5		0	0
SK076		形態不明	形態不明	形態不明	51	24.5	50.5		0	0
SK077		三角形	三角形	台形	98	87	29	加曾利E3	1	18
SK078	第17・49図 図版8・27	楕円形	楕円形	台形	(195)	(187)	20	加曾利E2	6	69
SK079		楕円形	楕円形	長方形	225	189	39	加曾利E1	6	121
SK080		隅丸長方形	隅丸長方形	長方形	158	134	57.5	加曾利E2	2	37
SK081		楕円形	楕円形	半楕円形	127	104	61	加曾利E1	9	57
SK082		楕円形	楕円形	長方形	136	114	56	加曾利E3	7	76
SK083		隅丸長方形	隅丸長方形	長方形	136	129	50	加曾利E2	2	16
SK084		楕円形	楕円形	長方形	125	117	50	加曾利E3	0	7
SK085		円形	円形	台形				加曾利E3	6	12
SK086	第17・50図 図版8・28	楕円形	楕円形	張り出し袋状	250	234.5	90	加曾利E1 (大木8b)	15	82
SK087		隅丸方形	隅丸方形	台形					0	0
SK088		円形	円形	台形	63	34	40.5	加曾利E2	0	5
SK089	第18・50図 図版8・28	形態不明	形態不明	形態不明	(222)	(207)	22	大木7b (五願ヶ台)	4	6
SK090	第18・51図 図版8・29	楕円形	楕円形	長方形	107	89.5	56	称名寺 彌取	17	284
SK091		形態不明	形態不明	形態不明	(24.1)	(12)	39.5		0	0
SK092		楕円形	楕円形	張り出し袋状	158	168.5	81	中期?	0	0
SK093	第19・52図 図版8・30	台形	隅丸方形	台形	318	46	95	加曾利E1	38	246
SK094		楕円形	楕円形	張り出し袋状	128	109	83.5	称名寺	5	212
SK095		形態不明	形態不明	形態不明	72.5	53.5	26.5	加曾利E1	1	20
SK096		楕円形	楕円形	台形	117	81	89		0	0
SK097	第19・53図 図版31	楕円形	楕円形	台形	113	71	118	堀之内1	21	438
SK098		隅丸長方形	隅丸長方形	長方形	56.5	36	20.5		0	0

第2表 遺構観察表及び出土遺物表(4)

遺構番号	挿図/図版	開口部平面形態	底部形態	断面形態	開口部	底部	深さ	時期	石葺総数	土葺総数
SK099		隅丸長方形	隅丸長方形	長方形	120	107.5	61	称名寺	6	8
SK100	第20・53図 図版9・31	隅丸方形	円形	台形	125.5	109	64.5	加曾利E2	21	228
SK101		隅丸方形	隅丸方形	半楕円形	135.5	42.5	40	加曾利E1	6	72
SK102	第20・54図 図版9・32	隅丸長方形	円形	張り出し 袋状	(99)	132	80.5	称名寺	6	179
SK103		楕円形	楕円形	半楕円形	(123)	(114)	40		0	0
SK104		楕円形	楕円形	長方形	64	54	58.5	加曾利E3	6	33
SK105		長方形	長方形	台形	189	173	128	加曾利E2	17	177
SK106		楕円形	楕円形	長方形	84.5	67	23.5	加曾利E4	0	6
SK107		円形	円形	長方形	73	56	25	加曾利E4	1	9
SK108		楕円形	楕円形	半楕円形	67	32	31		0	0
SK109		円形	隅丸方形	長方形	62	52	23		0	0
SK110		隅丸方形	円形	半楕円形	71	10.5	34		1	0
SK111	第21・55図 図版9・33	形態不明	形態不明	形態不明	224	208	44	加曾利E1	10	124
SK112		楕円形	楕円形	長方形	116	97	39	中期	1	2
SK113		楕円形	楕円形	張り出し 袋状	133	164	65	加曾利E2	2	56
SK114		楕円形	楕円形	台形	(106.5)	(96.5)	53	加曾利E3	12	35
SK115		楕円形	楕円形	台形	54	28.5	91	加曾利E1	0	2
SK116		円形	円形	台形	116.5	98	62		0	0
SK117		楕円形	楕円形	台形	116	81.5	33.9	加曾利E4	3	3
SK118		楕円形	楕円形	台形	88	69.8	22.3	加曾利E1	0	1
SK119		円形	円形	台形	78.5	59.5	37.5	後期	0	5
SK120		形態不明	形態不明	形態不明	151.5	139	41	加曾利E1	11	55
SK121	第21・55・56図 図版9・33・34	円形	円形	張り出し 袋状	227	209	61	加曾利E1	49	115
SK122		楕円形	楕円形	台形	82.7	77.9	10	加曾利E1	0	4
SK123		隅丸方形	楕円形	台形	83.5	67	19.2	称名寺	2	5
SK124	第22・57図 図版35	円形	隅丸方形	張り出し 袋状	216	202	52.5	加曾利E1	12	83
SK125	第22・57図 図版9・35	楕円形	楕円形	台形	191	219	69.5	加曾利E1	20	100
SK126	第23・58図 図版10・36	隅丸方形	隅丸方形	長方形	94.5	80	51	加曾利E1	11	109
SK127	第23・58図 図版10・36	隅丸方形	隅丸方形	張り出し 袋状	(91.5)	(74)	53	加曾利E1	6	73
SK128		楕円形	楕円形	半楕円形	63.8	41	13		0	0
SK129		隅丸方形	楕円形	台形	51.5	18	73.5	称名寺	3	9
SK130		楕円形	円形	台形	40.5	11.5	75		0	7
SK131		楕円形	円形	長方形	76.5	30.5	62	中期	0	2
SK132		楕円形	円形	台形	65	31.5	32.5	加曾利E2	0	12
SK133		楕円形	楕円形	台形	67.4	14	62		0	2

第2表 遺構観察表及び出土遺物表 (5)

遺構番号	挿図/図版	開口部平面形態	底部形態	断面形態	開口部	底部	高さ	時期	石器総数	土器総数
SK134		楕円形	楕円形	張り出し袋状	208	223.2	63.5	加曾利E1	6	70
SK135	第23・59図 図版10・37	楕円形	楕円形	形態不明	(140)	(130)	62	加曾利E1	15	119
SK136		楕円形	楕円形	長方形	51	31	56		0	0
SK137		楕円形	隅丸方形	台形	83	30.5	115		0	0
SK138		形態不明	形態不明	長方形	(18.5)	(14)	9		0	0
SK139		楕円形	楕円形	半楕円形	75	59	9	加曾利E1	1	3
SK140		形態不明	形態不明	長方形					0	0
SK141		隅丸長方形	楕円形	長方形	47.8	34.5	50.5		1	1
SK142		形態不明	形態不明	形態不明	72	42.5	22		0	0
SK143	第24・59・60図 図版10・37・38	隅丸方形	楕円形	張り出し袋状	190	199	58	加曾利E1	14	79
SK144	第24・60図 図版38	楕円形	楕円形	台形	128.5	108	81	加曾利E1	2	57
SK145		楕円形	楕円形	張り出し袋状	138	161	59	中期?	1	0
SK146		隅丸方形	隅丸方形	長方形	133.5	125	46.3	加曾利E1	2	20
SK147	第25・61図 図版10・39	隅丸方形	隅丸方形	長方形	206	191	59.5	加曾利E1	7	118
SK148		形態不明	形態不明	半楕円形	222	151	144	加曾利E3	1	40
SK149		楕円形	楕円形	台形	67	31.8	72.5		0	0
SK150		楕円形	楕円形	長方形	67.5	48.8	24.5		0	0
SK151		楕円形	楕円形	台形	48.5	30.8	38.5		0	0
SK152		円形	円形	半楕円形	60.5	40.5	90.5		0	0
SK153	第25・62図 図版11・40	楕円形	楕円形	張り出し袋状	165.5	178.5	75	加曾利E1 (大木8t)	21	103
SK154	第26・63図 図版11・41	隅丸方形	隅丸方形	張り出し袋状	153.5	79.5	48	加曾利E2 (遠弧文)	12	84
SK155		隅丸方形	隅丸方形	張り出し袋状	113	134.8	38	加曾利E1	3	12
SK156		楕円形	円形	半楕円形	208.2	144	30.7		0	0
SK157	第26・63・64図 図版11・41・42	隅丸方形	楕円形	張り出し袋状	276	306	86	加曾利E4	17	40
SK158		円形	円形	半楕円形	53.9	27	11		0	0
SK159		楕円形	楕円形	半楕円形	80.8	62	15.2		0	0
SK160		楕円形	楕円形	形態不明	186.5	189	72.5	加曾利E1	12	79
SK161	第27・65図 図版43	形態不明	形態不明	台形	(70)	(56.5)	55.5	加曾利E4	7	9
SK162		楕円形	長方形	半楕円形	103	56.3	21.3	加曾利E3	5	15
SK163		楕円形	隅丸方形	台形	67.5	26.2	51.5		0	0
SK164		形態不明	円形	台形	41	24.2	34.5		1	0
SK165		楕円形	楕円形	台形	(33)	18.2	63.3		0	0
SK166		形態不明	形態不明	形態不明	106.5	85	47		0	0

第2表 遺構観察表及び出土遺物表 (6)

遺構番号	棟図/図版	開口部平面形態	底部形態	断面形態	開口部	底部	深さ	時期	石部総数	土器総数
SK167		楕円形	隅丸方形	台形	(28)	31	28.5		0	0
SK168		円形	楕円形	台形	51.5	29.9	37		0	5
SK169		楕円形	楕円形	台形	42.5	19.5	40.5		0	0
SK170		楕円形	楕円形	半楕円形	72	44	51	加曾利E3	9	47
SK171		楕円形	楕円形	半楕円形	248	202	58		0	0
SK172	第27・65図 図版43	長方形	長方形	長方形	220	160	96	加曾利E1～E3	27	211
SK173		楕円形	円形	台形	(62)	34	61.5		0	1
SK174	第28・66図 図版44	楕円形	楕円形	長方形	62	47.5	33	竊取	3	57
SK175		楕円形	楕円形	半楕円形	128	93	33	加曾利E3	6	34
SK176	図版11	楕円形	楕円形	台形	73	58	34.5	称名寺	0	18
SK177		形態不明	形態不明	長方形	104	99.5	40.5		0	0
SK178		楕円形	円形	長方形	104.4	83	37		0	0
SK179	第28・66図 図版44	円形	円形	台形	160	133.5	60.5	堀之内1	0	6
SK180		楕円形	円形	長方形	101	88.7	47.5		0	0
SK181		形態不明	形態不明	形態不明	136	128	26.5		0	0
SK182		形態不明	形態不明	台形	93.5	76.2	48.5		0	1
SK183		楕円形	楕円形	台形	110	79.2	28		0	0
SK184		楕円形	円形	長方形	113.2	92.8	43		7	12
SK185		隅丸方形	楕円形	台形	161.2	142	43.5		0	0
SK186		楕円形	隅丸長方形	長方形	107.3	87	78		1	0
SK187		円形	円形	長方形	219	90	60		0	0
SK188		楕円形	楕円形	長方形	91	40	49		0	0
SK189	図版11	楕円形	楕円形	張り出し 袋状	149	128	108	中期?	1	7
SK190		形態不明	形態不明	長方形	113	95.2	75		0	0
SK191		長方形	長方形	半楕円形	188	145	33.2	加曾利E4	0	6
SK192		楕円形	楕円形	台形	181.5	169	15.5		0	1
SK193	第28・66図 図版44	隅丸方形	隅丸方形	長方形	92	80.5	61	称名寺	1	14
SK194		形態不明	形態不明	長方形	85	76.3	63		0	0
SK195		楕円形	楕円形	長方形	135.8	118.5	52.5	称名寺	0	3
SK196		形態不明	形態不明	台形	117	85	49		0	0
SK197		形態不明	形態不明	長方形	111.8	101	14.5		0	0
SK198		円形	楕円形	長方形	99.7	81.2	72.5		0	0
SK199		円形	円形	長方形	313	107.2	72.5		2	2
SK200		楕円形	楕円形	長方形	92	80	30.5		0	0
SK201		楕円形	楕円形	半楕円形	166	154	30		0	0
SK202		形態不明	形態不明	長方形	(160)	(149.5)	52		0	0
SK203		楕円形	楕円形	台形	94	74.5	24.7		0	0
SK204		楕円形	楕円形	台形	85	58.3	60	後期?	0	0
SK205		形態不明	形態不明	長方形	433	38.5	20.5		0	0
SK206		楕円形	楕円形	台形	125.8	91.2	59.5		0	0

第2表 遺構観察表及び出土遺物表(7)

遺構番号	挿図/図版	開口部平面形態	底部形態	断面形態	開口部	底部	深さ	時期	石葺総数	土葺総数
SK207		楕円形	楕円形	台形	209	111	72		0	0
SK208		楕円形	楕円形	長方形	63.5	8	21.5		0	0
SK209		形態不明	形態不明	台形	107.3	89	47.5		0	0
SK210		形態不明	形態不明	長方形	103	69	26		0	0
SK211		楕円形	隅丸方形	台形	78.2	59	41.2		0	0
SK212		楕円形	楕円形	長方形	64	55.7	23.3		0	0
SK213		楕円形	楕円形	台形	45	34.8	26		0	0
SK214		楕円形	楕円形	長方形	95	80	35.5		0	0
SK215		形態不明	形態不明	長方形	65	49.6	25		0	0
SK216		形態不明	形態不明	台形	103.3	76.8	19		0	0
SK217		形態不明	形態不明	長方形	57.7	49	23.5		0	0
SK218		隅丸方形	隅丸方形	長方形	99	91	72	加曾利E3	0	11
SK219		楕円形	楕円形	長方形	69.5	52.5	18.3		0	0
SK220		形態不明	形態不明	半楕円形	214	152.5	36		0	1
SK221		形態不明	形態不明	形態不明	187.5	155	23.5		0	1
SK222		隅丸長方形	隅丸長方形	長方形	99	93	53	弥名寺	1	12
SK223		楕円形	楕円形	長方形	53.5	37	49	加曾利E4	9	24
SK224		隅丸長方形	隅丸長方形	長方形	82.5	73.1	15.5		0	0
SK225		楕円形	隅丸方形	長方形	104	90	44		0	0
SK226		楕円形	楕円形	長方形	82	72	16	後期初頭	1	9
R0001								後期初頭	5	25
R0002								加曾利E4	18	69
SX001		形態不明	形態不明	長方形	304.5	302	48		7	2
SX002		楕円形	楕円形	半楕円形				中期	10	76
SX003	第29・67図 図版11・45	形態不明	形態不明	形態不明	426	414	49	加曾利E2	61	160
PT004		円形	円形	U字形	24.8	12	14		0	1
PT006		楕円形	隅丸方形	U字形	36	16	45		0	7
PT008		円形	円形	U字形	31.2	16	28		1	3
PT013		楕円形	楕円形	U字形	58	28	44		0	3
PT016		円形	楕円形	U字形	22	11	37		1	1
PT017		楕円形	円形	U字形	50	30	51		0	8
PT020		楕円形	円形	U字形	32	12	33		1	1
PT021		形態不明	形態不明	U字形	32	14	57		0	1
PT030		円形	楕円形	U字形	36	16	58		0	2
PT032		楕円形	楕円形	U字形	50	22	88		1	0
PT044		円形	円形	U字形	30	15.2	23		0	1
PT059		円形	楕円形	U字形	50	32	36		2	0
PT111		楕円形	隅丸方形	U字形	28	18	31		0	1
SD001		長方形	長方形	半楕円形	198.5	186	20.5		0	0
SD002				半楕円形	352	320	41		1	0
SD003				長方形	785	750	37.5		0	4
SD004				半楕円形	(76.9)	66.5	13		0	0

第3章 遺物

本調査によって、出土した遺物は、全体で26,835点を数える。これらは、縄文時代各期に帰属する土器20,915点、石器1,658点、石製品2点、土製品31点、礫4,207点（各土坑内出土のものが、大半を占める）、古代・中世・近世に帰属するもの22点に分かれる。遺構内外の数量については、遺構内、16,802点、遺構外10,011点に分かれ、各遺構別の数量については、土坑（中期・後期）総数 16,160点、ピット39点、炉跡173点、時期不明遺構423点、溝7点に分かれる。

土器（第30図～69図 図版12～50）

本節で扱う土器は縄文時代に属するもので、出土点数が本調査で最も多い。縄文時代以降の遺物については、第5章、第71図、図版51で扱っている。土器はすべて破片の状態で出土し、完形のは1点も存在しないが、復元作業によって器形を窺い知ることのできる固体が複数存在する。縄文時代に属する土器は、おおよそ以下のように分けられる。

縄文時代前期／黒浜式期（第68-1図 図版46-1）、

縄文時代中期／五領ヶ台式期 大木7b式期（第50図、図版28）・加曾利E1～E4式期・大木8a式期（第35図、図版16）・8b式期（第30図、図版12）・9a式期（第46図、図版25）・曾利式期（第59図、図版37）・連風文式期（第63図、図版41）・火炎式期（第46図、図版25）・梶山式期、（第65図、図版43）

縄文時代後期／称名寺式期・綱取式期・堀之内式期（第53図 図版31）・加曾利B式期、三十桶場式期（第53図、図版31）

縄文時代晩期／安行3a式期（第69-1図 図版47-1）

これら各型式の土器の内、前期／黒浜式期、中期／五領ヶ台式期・大木7b・8a・8b式期・曾利式期・連風文式期・火炎式期・梶山式期、後期／綱取式期・堀之内式期については、当該各期の土坑内から出土しているものが少数認められる。出土点数が最も多い時期は、中期／加曾利E1～E3式期で8,877点（これらの内、加曾利E1式期が最多を占め6,487点を数える）が挙げられ、後期／称名寺式期702点がこれに続く。出土の状態は加曾利E各期のほとんどが土坑内からのもので、称名寺式期以降については遺構外からの出土が大半を占め、本来の出土位置を示していない。この出土状態の相異は、おそらくは、中期土坑群の上部に存在した後期以降の遺構・包含層等が、後世の攪乱等により破壊された事に起因していると思われる。

土製品

土器片利用の円盤が26点、同じく土器片利用の鎌2点、土棒1点（石棒を模倣した土製品か）、土製耳飾り2点の計31点が出土している。

石器（第30～31・33～36・38～42・44～67・70図 図版12～21・23～45・48）（第3表）

石器は、調査区全体で11,660点を数える。各器種は、石鏃（18点）・石槍（2点）・石錐（8点）・石匙（3点）・二次加工剥片（82点）・石核（54点）・打製石斧（84点）・打製円形石器（1点）・ヘラ状石器（2点）・磨製石斧（4点）・礫器（33点）・磨石（187点）・敲石（87点）・擦石（4点）・磨敲石（101点）・磨擦石（4点）・敲擦石（2点）・磨敲擦石（3点）・原石分割素材素材（68点）・原石（22点）・剥片（816点）・石皿（54点）・砥石（7点）・石錘（5点）・石棒（2点）・環状石製品（1点）・有孔石製品（1点）・盲孔を有する石器（3点）・線状痕を有する石器（1点）・不明（1点）の、30器種に分れる。これらの内、最も出土点数の多い石器としては、剥片が挙げられ、磨・敲石類、二次加工剥片等がこれに続く。

使用石材 黒曜石（1点）・石英斑岩（1点）・玄武岩（9点）・閃緑岩（48点）・安山岩（158点）・流紋岩61点）・花崗岩（24点）・浮石凝灰岩（3点）・頁岩（63点）・粘板岩（54点）・凝灰岩（80点）・砂岩（359点）・ホルンフェルス（108点）・片麻岩（1点）・雲母片岩（4点）・緑泥片岩（2点）石英脈岩（4点）・蛇紋岩（2点）・チャート（264点）・玉髓（216点）・瑪瑙（110点）・赤玉石（84点）・珪化木（1点）、不明（3点）の24種が確認された。これらの内、最も出土点数の多い石材としては、砂岩（359点）、瑪瑙・玉髓（326点）が挙げられ、チャート（264点）等がこれに続く。

第1節 遺構内出土遺物（第30～67図 図版12～45）（第3表）

SK 001号土坑（第30図1～9 図版12）（第3表）

本土坑から出土した遺物は、総数260点。土器217点、石器19点、小型土器1点に分れる。1～4は復元個体である。1・2は、加曾利E1式期に属する鉢形土器で、1は口径約42.4cm、残存高240cmを測り、2は口径約38.0cm、残存高20.0cmを測る。3は大木8b式期に属する深鉢形土器で、口径約32.6cm、残存高14.8cmを測る。4は小形土器で、指頭による庄痕が著しい。口径約6.0cm、残存高1.3cm、底径約4.5cmを測る。石器は、石鎌1点、二次加工剥片1点、打製石斧2点、擦・敲・磨石類4点、石核1点、剥片10点に分れ、他に礫23点が出土している。5は石鎌で右下端部を欠損する。6・7は、打製石斧である。6は刃部のみ、7は平面が楕円形で、両面に磨痕あり。8は敲石。9は擦・磨痕が認められる。

SK 002号土坑（第31図1～8 図版13）（第3表）

本土坑から出土した遺物は、総数498点。土器351点、石器37点に分れる。1～4は復元個体である。すべて深鉢形土器で、4点ともに加曾利E1式期に属する。1は口径18.0cm、残存高43.6cm、底径9.8cm、2は残存高26.0cm、3は口径約19.6cm、残存高26.4cm、4は口径16.0cm、器高25.2cm、底径8.0cmをそれぞれ測る。これらの内、1・2は口縁部に、粘土紐による剣先状の貼り付けが付加される。石器は、ヘラ状石器1点、二次加工剥片1点、石核3点、擦・敲・磨石類13点、原石1点、石皿1点、剥片17点に分れ、他に礫110点が出土している。5はヘラ状石器で緻密で光沢のある赤玉石（碧玉）を使用している。6・7は板状素材を使用した石核である。8は、両面・両端部・両側面に擦・敲・磨痕が認められる。

SK 004号土坑（第32図1～9・第33図10～14 図版14）（第3表）

本土坑から出土した遺物は、総数225点。土器176点、石器33点、土製品2点、土器片壺3点に分れる。1～4は、ともに深鉢形土器の復元個体である。1は口径29.4cm、器高41.8cm、底径10.6cm、2は口径約20.0cm、残存高24.8cm、3は口径約25.2cm、残存高25.2cm、4は破片上部径約17.6cm、残存高24.8cm、底径10.4cmをそれぞれ測り、1・2・4は加曾利E1式期に、3は大木8b式期に属する。5～7は土器破片を転用した、いわゆる土器片壺である。8・9は土製の耳輪である。2点ともに鼓状を呈する。石器は、二次加工剥片1点、打製石斧1点、石核2点、敲石1点、石皿2点、剥片26点に分れ、他に礫11点が出土している。第33図10は石鎌で、平面は二等辺三角形形状を呈する。11は打製石斧の刃部、12は厚い縦長剥片を素材とした石核、13は平面が楕円形を呈するもので、全面に磨痕、下部端部に敲痕が認められる。14は石皿の欠損したもので、研面に回転による5個の盲孔が認められる。

SK 009号土坑（第33図1～5 図版15）（第3表）

本土坑から出土した遺物は、総数253点。土器164点、石器19点に分れる。1は唯一、復元された個体で加曾利E1式期に属する深鉢形土器である。口径約25.8cm、残存高26.4cmを測る。石器は、打製石斧1点、石核2点、敲・磨石類5点、石皿1点、剥片10点に分れ、他に礫70点が出土している。2は打製石斧で両側縁に挟入部を作出する。3は石核で、打面を傾斜に転移し、横長の剥片を剥離している。4も石核で、打面を複数回、転移し、横長の剥片を剥離している。5は、長方形形状を呈する敲・磨石で下端、一側縁に敲痕、片面に磨痕が認められる。

SK 010号土坑（第34図1～5 図版15）

本土坑から出土した遺物は、総数46点。土器45点、土器片壺1点に分れる。石器、礫等は出土していない。1は加曾利E1式期に属する深鉢形土器の復元個体で、口径18.4cm、器高26.8cm、底径7.2cmを測る。地文には縄文を使用し、その上部に集合条線を直線もしくは曲線状に垂下させている。なお2～5は胴部の破片である。

SK 011号土坑（第34図1～5 図版15）

本土坑から出土した遺物は、総数50点。土器49点、石器1点に分れる。石器は剥片1点のみ。1は復元個体で、深鉢形を呈し加曾利E1式期に属する。口径約13.2cm、器高17.4cm、底径7.6cmを測る。2～5は、3・4が口縁部、2・5が胴部の破片である。

SK 018号土坑（第34図1～7 図版16）（第3表）

本土坑から出土した遺物は、総数88点。土器80点、石器2点、土製品1点に分れる。土器は、すべて、破片の状態出土し、復元個体は存在しない。1・2は口縁部、3～5はすべて胴部の破片である。全点とも加曾利E1式期に属する。石器は、擦・敲石1点、剥片1点に分れ、他に礫5点が出土している。6は平面が楕円形を呈する擦・敲石である。7は土棒で上下端部を欠損している。

SK 019号土坑 (第35図1～7 図版16) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数218点。土器184点、石器12点に分れる。1・2はともに復元個体である。1は加曾利E1式期に属する深鉢形土器で、残存高約30.3cm、底径9.0cmを測る。2は大木8a式期に属し口径約30.0cm、残存高23.6cmを測る。3は「S」字状の取手である。石器は、石鏃1点、二次加工剥片1点、敲・磨石類3点、原石1点、剥片6点に分かれ、他に礫22点が出土している。

SK 028号土坑 (第36図1～7 図版17) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数240点。土器203点、石器8点に分れる。1・2はともに復元個体で、深鉢形を呈する。1は口径約35.6cm、残存高24.8cm、2は口径約13.6cm、器高22.4cm、底径6.2cmを測る。石器は、二次加工剥片1点、打製石斧3点、礫器1点、敲・磨石類2点、石皿1点に分かれ、他に礫29点が出土している。

SK 030号土坑 (第37図1～4、第38図5～7 図版18) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数336点。土器229点、石器14点に分れる。1の復元個体は、深鉢形を呈するもので加曾利E1式期に属する。口径23.2cm、器高37.6cm、底径8.4cmを測る。縄文を地文として口縁部に粘土紐による波状曲線が付加されたもの。2の復元個体は、深鉢形を呈するもので、大木8aもしくは8b式期に属する。口径約26.0cm、器高28.6cm、底径8.2cmを測る。3の復元個体は、深鉢形を呈するもので文様は縄文のみが施されている。口径約13.0cm、器高16.6cm、底径6.4cmを測る。4の復元個体は、鉢形を呈するもので加曾利E1式期に属する。口唇上部に沈線による文様が施される。口径約43.6cm、残存高20.2cmを測る。なお本復元個体の器内・外面には赤色顔料が残存する。石器は、石核1点、敲石2点、石皿2点、砥石1点、剥片8点に分かれ、他に礫93点が出土している。5の砥石は方形板状を呈し、全体に磨痕が観察され片面の中央に複数の条線が認められる。

SK 031号土坑 (第38図1～6 図版19) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数723点。土器606点、石器61点に分れる。1は復元個体で、鉢形を呈する。縄文のみ施文で口径約37.6cm、残存高12.8cmを測る。なお本復元個体の器内・外面には赤色顔料がわずかに残存する。2は復元個体で深鉢形を呈する。縄文を地文とし垂下する2本一組の沈線によって文様が構成されるもので、口径約26.4cm、残存高23.0cmを測る。2点ともに加曾利E3式期に属する。石器は、二次加工剥片7点、石核1点、打製石斧5点、礫器1点、敲・磨石類5点、原石1点、剥片41点、他に礫56点が出土している。

SK 037号土坑 (第39図1～8 図版19) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数240点。土器169点、石器15点に分れる。1・2はともに復元個体で加曾利E1式期に属し深鉢形を呈する。1は残存高34.2cm、底径13.2cm、2は残存高26.2cm、底径11.2cmを測る。3は復元個体で大木8aもしくは8b式期に属する深鉢形土器である。口径約13.4cm、器高23.6cm、底径6.4cmを測る。石器は二次加工剥片2点、磨石7点、剥片6点に分れ、他に礫56点が出土している。

SK 045号土坑 (第40図1～5 図版20) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数241点。土器161点、石器9点、土器片円盤1点に分れる。1・2は復元個体である。ともに加曾利E4式期に属し、深鉢形を呈する。1は口径約36.0cm、残存高28.3cm、2は残存高19.2cmをそれぞれ測る。3は土器破片を転用した土器片円盤である。石器は、打製石斧1点、礫器1点、敲・磨石類2点、原石1点、石皿2点、剥片2点に分れる。他に礫70点が出土している。

SK 046号土坑 (第41図1～12 図版21) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数186点。土器126点、石器8点に分れる。1～9ともに加曾利E1式期に属し、1は復元個体で深鉢形を呈する。口径約18.9cm、残存高23.7cmを測る。2～7は口縁部破片、8・9は胴部の破片である。なお7の口縁部破片表・裏には赤色顔料が残存する。石器は敲・磨石類3点、剥片5点に分れ、他に礫52点が出土している。

SK 053号土坑 (第42図1～7 図版21) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数84点。土器55点、石器9点に分れる。1・2は復元個体で、ともに深鉢形を呈し加曾利E1式期に属する。1は口径約26.1cm、残存高17.7cm、2は口径約24.6cm、残存高14.7cmをそれぞれ測る。石器は、石鏃1点、打製石斧1点、敲・磨石類2点、原石分割素材2点、原石1点、剥片2点に分れ、他に礫20点が出土している。なお6の原石分割素材については表面(晶洞内に成長した水晶群によってその全面が覆われたもの)には複数ヶ所打撃による円形の窪みが観察される。

SK 057号土坑 (第43図1～2 図版22)

本土坑から出土した遺物は、総数521点。土器519点、石器は1点も出土していない。1は復元個体で口径35.0cm、器高56.0cm、底径12.2cmを測る大形の土器。地文に縄文を使用し、口縁部に粘土紐の付加による文様帯を構成して大

形の取手が4ヶ所に認められる。2は口径約35.2cm、残存高52.0cm、底径11.2cmを測るやはり大形の土器で、口縁部文様帯及び器形等が1に極めてよく類似する。他に礫2点が出土している。

SK 058号土坑 (第44図1~10 図版23) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数776点。土器682点、石器35点に分れる。1・2は復元個体で鉢形を呈し、ともに加曾利E1式期に属する。1は残存高12.8cm、破片上部径44.8cm、底部14.6cmを測る。2は口径約24.0cm、残存高15.2cmを測る。石器は、二次加工剥片1点、石核3点、打製石斧2点、磨石3点、原石分割素材2点、原石2点、剥片22点に分れ、他に礫59点が出土している。なお6・7の石核は打面を複数回、転移し横長の剥片を剥離したものが、9は土坑内からともに出土した厚い剥片2点が、横位で接合している。他に礫59点が出土している。

SK 062号土坑 (第45図1~7 図版24) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数186点。土器155点、石器9点に分れる。1・2は復元個体で、ともに深鉢形を呈する。1は口縁約25.6cm、器高42.8cm、底径約8.0cmを測り、加曾利E2式期に属する。2は残存高22.6cm、底径6.6cmを測り、加曾利E3式期に属する。石器は、打製石斧1点、敲・磨石類3点、原石分割素材1点、石棒1点、剥片3点に分れ、他に礫22点が出土している。なお6の原石分割素材は2点が接合したものである。正面右側の素材1点は(S・T22・23)区から出土したもので、本土坑との距離は約30m離れている。

SK 064号土坑 (第46図1~10 図版25) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数187点。土器116点、石器11点に分れる。1は復元個体で深鉢形を呈し加曾利E2式期に属する。口径約20.1cm、残存高13.8cmを測る。2~6はすべて土器胴部破片である。3・5の破片が大木9a式期に属し、6は火災式期に属する。石器は、二次加工剥片1点、石核2点、磨石1点、石皿1点、剥片6点に分れ、他に礫60点が出土している。なお9の石核は右面原石面を打面として、横長の剥片を複数枚剥離し、さらに打面を180度転移し、横長の剥片を剥離したものの。

SK 065号土坑 (第47図1~7 図版25) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数258点。土器150点、石器16点に分れる。1・2はともに深鉢形を呈し、加曾利E1式期に属する。1は口径約22.8cm、残存高16.5cmを測る。2は残存高19.7cm、底径7.2cmを測る。石器は二次加工剥片1点、石核4点、打製石斧1点、磨石2点、剥片8点に分れ、他に礫92点が出土している。

SK 069号土坑 (第48図1~7 図版26) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数319点。土器173点、石器21点、器台1点に分れる。1・2はともに加曾利E1式期に属するもので深鉢形を呈する。1は残存高32.0cm、底径約12.0cmを測り、2は残存高26.6cm、底径約10.8cmを測る。3は破損した器台である。2ヶ所に円形の切り込みが観察される。残存高5.4cm、底径約28.2cmを測る。石器は、石核1点、磨石5点、剥片15点に分れ、他に礫124点が出土している。

SK 078号土坑 (第49図1~6 図版27) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数82点。土器69点、石器6点に分れる。1は復元個体で、鉢形を呈し加曾利E2式期に属する。口径約29.1cm、器高14.3cm、底径8.4cmを測る。2・3はともに深鉢形を呈するもので、胴部破片である。2は残存高18.6cm、3は残存高22.3cm、破片上部径28.5cmを測る。なお1の土器内面には、赤色顔料がわずかに残存する。石器は、敲・磨石1点、剥片5点に分れ、他に礫7点が出土している。

SK 086号土坑 (第50図1~11 図版28) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数153点。土器82点、石器15点に分れる。土器はすべて破片の状態で出土し、復元個体は存在しない。1~4はすべて同一個体と思われ、加曾利E1式期(大木8a式期の可能性あり)に属する。1が口縁部、2・3が口縁部に近接した胴部破片である。LR及びRRLの異原体を縦位施文して羽状を構成し、その上部に粘土紐を付加し文様を構成している。5・6は胴部及び口縁部の破片である。石器は、打製石斧1点、礫器1点、敲・磨石類9点、剥片4点に分れ、他に礫56点が出土している。

SK 089号土坑 (第50図1~8 図版28) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数12点。土器6点、石器4点に分れる。土器はすべて破片の状態で出土し復元個体は皆無である。1~4は1・3が口縁部、2・4が胴部破片で、大木7b式期(五領ヶ台式期)に属する。石器は、礫器1点、磨石2点、原石分割素材1点、他に礫2点が出土している。

SK 090号土坑 (第51図1~9 図版29) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数585点。土器284点、石器16点、土器片円盤1点、石製品1点に分れる。1~4は、4点ともに口縁部の破片で、網取式期及び称名寺式期に属する。すべて破片の状態で出土している。5は土器片を転用

した土器片円盤である。石器は、二次加工剥片2点、敲・磨石2点、石皿2点、盲孔を有する石器1点、剥片9点に分れ、他に礫283点が出土している。なお9は平面が長方形を呈する垂飾具と思われ、上端部に穿孔が1ヶ所認められる。

SK 093号土坑 (第52図1~12 図版30) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数306点。土器246点、石器38点に分れる。1~4はともに加曾利E1式期に属し、1は底部のみ残存している。深鉢形土器と思われ、残存高13.5cm、底径10.8cm、破片上部径19.5cmを測る。なお2の取手部表面に赤色顔料がわずかに残存する。石器は、石鏃1点、ヘラ状石器1点、二次加工剥片3点、礫器1点、敲・磨石類13点、原石1点、剥片18点に分れる。他に礫22点が出土している。

SK 097号土坑 (第53図1~10 図版31) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数529点。土器438点、石器21点に分れる。土器はすべて破片の状態出土し、復元個体は存在しない。1~4はすべて胴部の破片で、1~3が堀之内1式期、4は三十稲埦式期に属する。石器は、二次加工剥片4点、石核1点、磨製石斧1点、敲・磨石類8点、原石1点、剥片6点に分れ、他に礫70点が出土している。なお4の石核は打面を複数回、転移し横長に近い形状の剥片を剥離したものの、6の磨製石斧は刃部両面に、使用による縦方向の条線が複数観察される。

SK 100号土坑 (第53図1~10 図版31) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数279点。土器227点、石器20点、器台1点、石棒1点に分れる。1~4は加曾利E2式期に属し、2が口縁部、他はすべて胴部の破片である。4は器台である。器面には楕円形に近い形状の透かしが2ヶ所観察される。残存高3.0cm、上径約13.2cmを測る。石器は、石匙1点、二次加工剥片1点、敲・磨石類6点、石皿1点、石棒1点、剥片10点に分れ、他に礫30点が出土している。なお10の石棒は頭部のみ出土で、全体に打撃による形成が著しい。

SK 102号土坑 (第54図1~8 図版32) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数208点。土器179点、石器6点、土器片円盤1点に分れる。1~3は復元個体で、すべて称名寺式期に属する、深鉢形土器である。1は残存高42.0cm、底径6.4cm、2は口径約21.2cm、残存高14.0cm、3は口径約21.0cm、残存高26.8cmをそれぞれ測る。4は土器片を転用した土器片円盤である。石器は、敲・磨石類2点、原石分割素材1点、剥片3点に分れ、他に礫22点が出土している。

SK 111号土坑 (第55図1~7 図版33) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数228点。土器124点、石器10点に分れる。1~5はすべて、加曾利E1式期に属し、1は深鉢形を呈する復元個体である。口径約25.8cm、残存高34.5cmを測る大形の土器である。石器は二次加工剥片1点、打製石斧1点、剥片8点に分れ、他に礫94点が出土している。

SK 121号土坑 (第55図1・56図2~11 図版33・34) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数501点。土器115点、石器49点、器台1点、土器片円盤1点に分れる。2~4は復元個体で、3点ともに加曾利E1式期に属する。2は口径31.2cm、器高40.4cm、底径約10.6cmを測る大形の土器である。3は口径約24.4cm、残存高30.4cm、4は残存高25.2cmをそれぞれ測る。5は土器片を転用した土器片円盤である。石器は、二次加工剥片7点、石核2点、打製石斧2点、磨製石斧1点、礫器4点、敲・磨石類6点、石皿5点、剥片10点に分れ、他に礫335点が出土している。なお1の石皿は表・裏面に複数の回転による盲孔が認められる。10の剥片は接合資料で、上部が本土坑から、下部がSK147号土坑から出土したものである。

SK 124号土坑 (第57図1~8 図版35) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数126点。土器83点、石器12点に分れる。土器はすべて加曾利E1式期に属し1は大形の取手部である。石器は、二次加工剥片1点、石核1点、敲石1点、原石分割素材1点、剥片8点に分れ、他に礫31点が出土している。なお7の原石分割素材は接合資料で左側の素材が本土坑から、右側の素材が(AJ-20)区から出土している。

SK 125号土坑 (第57図1~6 図版35) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数313点。土器100点、石器20点に分れる。1・2は復元個体である。ともに加曾利E1式期に属する。1は深鉢形土器で口径12.0cm、器高20.1cm、底径6.1cmを測る。2は鉢形土器で口径約32.4cm、残存高14.1cmを測る。石器は、二次加工剥片1点、石核1点、打製石斧1点、礫器4点、敲・磨石類18点、剥片4点に分れ、他に礫193点が出土している。

SK 126号土坑 (第58図1~9 図版36) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数132点。土器109点、石器11点に分れる。1~5はすべて加曾利E1式期に属し、

1は浅鉢形を呈する復元土器である。口径約37.0cm、器高15.8cm底径約11.0cmを測る。石器は、石錘1点、石核1点、砥石1点、剥片8点に分れ、他に礫12点が出土している。

SK 127号土坑 (第58図1～6 図版36) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数89点。土器73点、石器7点に分れる。1・2ともに加曾利E1式期に属する。復元個体1は、深鉢形を呈する土器で口径約21.2cm、残存高23.2cmを測る。復元個体2は、鉢形土器である。口径約31.6cm、残存高13.6cmを測る。石器は、磨石4点、盲孔を有する石器1点、剥片2点に分れ、他に礫9点が出土している。

SK 135号土坑 (第59図1～9 図版37) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数182。土器119点、石器15点に分れる。土器は、1～4が加曾利E1式期に、5・6が曾利式期に属する。1・2は復元個体である。1は鉢形を呈し、口径約19.8cm、器高15.1cm底径約8.2cmを測る。石器は、二次加工剥片1点、打製石斧1点、敵・磨石類2点、原石分割1点、剥片10点に分れる。他に礫48点が出土している。

SK 143号土坑 (第59図1・60図2～14 図版37・38) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数194点。土器79点、石器14点に分れる。土器は1～8ともに加曾利E1式期に属する。1は深鉢形を呈する復元個体で、口径15.0cm、器高29.4cm、底径約8.8cmを測る。本個体は、いわゆる北関東の加曾利E1式期として特徴づけられたものである。8は鉢形土器で口径約16.6cm、残存高6.3cmを測り、土器口唇上面及び、器面の表裏面に赤色顔料が残存する。石器は、打製石斧2点、敵・磨石類3点、原石分割素材2点、剥片7点に分れ、他に礫101点が出土している。なお9・10の打製石斧については、2点ともに表裏面及び刃部に著しい磨痕が観察される。

SK 144号土坑 (第60図1 図版38)

本土坑から出土した遺物は、総数59点。土器57点、石器2点に分れる。1は加曾利E1式期に属する復元個体で、深鉢形を呈する。残存高34.8cm、破片上部径34.0cmを測る。石器は、二次加工剥片1点、打製石斧1点に分れる。

SK 147号土坑 (第61図1～11 図版39) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数149点。土器118点、石器7点に分れる。土器はすべて破片の状態で出土し、復元個体は存在しない。1～6はすべて土器破片で加曾利E1式期に属する。石器は、二次加工剥片1点、石核2点、剥片24点に分れ、他に礫24点が出土している。なお11は接合資料である。縦長で厚い剥片が2点接合したもので、上部が本土坑から、下部がSK121号土坑から出土している。

SK 153号土坑 (第62図1～8 図版40) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数167点。土器103点、石器21点に分れる。1は深鉢形を呈する復元個体で、加曾利E1式期(大木8b式期)に属する残存高17.7cm、破片上部径28.5cmを測る。2は深鉢形を呈する復元個体で、加曾利E2式期に属する。残存高21.3cm、底径8.4cm、破片上部径19.2cmを測る。石器は、石槍1点、打製石斧3点、礫器2点、敵・磨石8点、剥片7点に分れ、他に礫43点が出土している。

SK 154号土坑 (第63図1～7 図版41) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数111点。土器84点、石器12点に分れる。1～4ともに加曾利E2式期に属し、1はいわゆる連弧文土器と称されるものに、よく類似する。1は復元個体で深鉢形を呈する。口径約17.1cm、残存高22.2cmを測る。石器は、磨石2点、原石分割素材1点、石皿1点、剥片8点に分れ、他に礫15点が出土している。

SK 157号土坑 (第63図1・64図2～7 図版41・42) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数199点。土器40点、石器17点に分れる。1～3の復元個体は、すべて加曾利E4式期に属する。3点ともに深鉢形を呈する大形の土器である。1は口径約42.2cm、残存高48.8cm、2は口径約43.6cm、残存高36.8cm、3は口径約50.4cm、残存高27.2cmをそれぞれ測る。石器は、磨石3点、原石1点、剥片13点に分れる。他に礫142点が出土している。

SK 161号土坑 (第65図1～9 図版43) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数20点。土器9点、石器7点に分れる。土器はすべて破片の状態で出土し復元個体は存在しない。1は口縁部の破片で、2～5は胴部の破片である。2～5はともに加曾利E4式期に属するが、4は梶山式期に属する。石器は、石錘1点、打製石斧1点、磨石1点、原石分割素材1点、砥石1点、剥片2点に分れ、他に礫4点が出土している。なお6の石錘は完形で縦径・横径の紐掛け痕が観察され、7の砥石は板状を呈し両面に研磨痕が観察される。

SK 172号土坑 (第65図1～9 図版43) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数279点。土器210点、石器27点、器台1点に分れる。土器はすべて破片の状態で

加曾利E1式期からE3式期に至るまでの土器破片が出土し、土器の時期決定が判然としなない。1～3は土器口縁部の破片で、4は器台である。残存高5.1cm、底径約20.7cmを測る。楕円を呈する透かし部が2ヶ所確認される。石器は、二次加工剥片2点、石核1点、礫器1点、敲・磨石類5点、原石分割素材1点、原石2点、剥片15点に分れ、他に礫41点が出土している。

SK 174号土坑 (第66図1～3 図版44) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数62点。土器57点、石器3点に分れる。1は復元個体で、深鉢形土器である。縄取式期に属し、口径22.8cm、残存高25.3cmを測る。石器は、原石分割素材1点、石皿1点、剥片1点に分れ、他に礫2点が出土している。

SK 179号土坑 (第66図1 図版44)

本土坑から出土した遺物は、総数6点。すべて土器の破片で、復元された個体となった。1は復元個体で深鉢形を呈する。堀之内1式期に属し、口径13.5cm、器高21.0cm、底径5.4cmを測る。口唇上部に2個の波状突起を持つ。

SK 193号土坑 (第66図1～11 図版44) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数17点。土器14点、石器1点、土器片円盤1点に分れる。土器はすべて破片の状態出土し、復元個体は存在しない。1・2が口縁部の破片。他はすべて胴部の破片である。全点ともに称名寺式期に属する。10は土器破片を転用した土器片円盤である。石器は、11の1点のみで平面形態は楕円形に近い形状を呈し、上端右側面に3条の線状痕が観察される。他に礫1点が出土している。

SX 003号遺構 (第67図1～9 図版45) (第3表)

本土坑から出土した遺物は、総数293点。土器160点、石器61点に分れる。土器は1・2ともに加曾利E1式期に属し、1は鉢形を呈する復元土器である。残存高23.1cm、底部約10.2cmを測る。石器は、石錘1点、二次加工剥片2点、石核1点、打製石斧2点、礫器2点、擦・敲・磨石類14点、原石分割素材4点、石皿1点、剥片34点に分れ、他に礫72点が出土している。

第2節 遺構外出土遺物 (第68～70図 図版46～48-1) (第3表)

遺構外から出土した遺物を一括した。表土及び遺構上層の包含層から出土したもので、時期は複数期に渡っている。土器については、個別の破片で文様等から帰属時期の明確なものを掲載した。石器、石製品については、縄文時代に帰属すると思われるものを中心に掲載している。

縄文時代前期の土器 (第68図-1・1～6 図版46-1・1～6)

おもに調査区西側端部からすべて破片の状態出土したものである。1は口縁部で他はすべて胴部の破片である。すべて縄文を施文し胎土には繊維の混入が認められる。

縄文時代中・後期の土器 (第68図-2・1～11 図版46-2・1～11)

縄文時代中期及び後期の土器を図示した。

1は復元個体で中期に属すると思われる。小形の鉢形土器で、口径約14.7cm、器高6.0cm、底径約8.2cmを測る。2・4・7・8は加曾利E4式期のいわゆる瓢箪形土器で、4～8は鋳付土器の口縁部破片で、4・8には口縁部下の隆帯にそれぞれ1ヶ所の穿孔が認められる。2は瓢箪形土器の蓋と思われ、完形である。3・5・6・9～11は後期の土器である。縄文時代後・晩期の土器 (第69図-1・1～11 図版47-1・1～11)

1～6は縄文時代後期の土器で2～6は口縁部の破片である。加曾利B式期に属すると思われる。7はやはり加曾利B式期に属し、台付鉢形土器の台部と思われ、台部上面鉢部の底部にあたる部分に、網状痕が観察される。

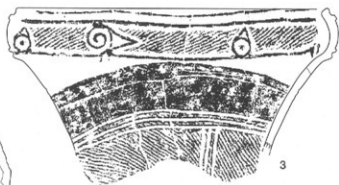
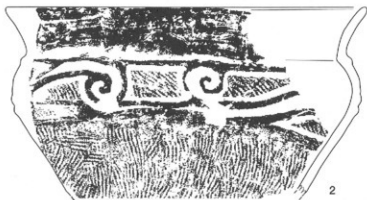
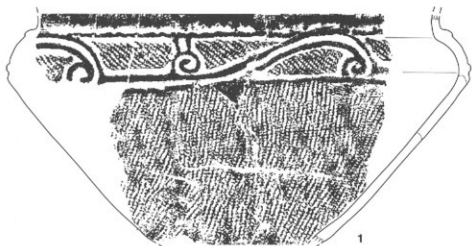
遺構外出土の土器片円盤 (第69図-2・1～9 図版47-2・1～9)

1～9は、遺構外の表土及び包含層から、出土した土器片転用の土器片円盤である。9点を掲載した。

遺構外出土の石器 (第70図1～12 図版48-1・1～12)

表土及び遺物包含層から出土した石器を一括した。各石器の帰属時期については、判然としなないが、平面形態及び作成手法などから、そのほとんどが中期以降の所産と考えられる。1～4は石鎌である。1・2・3は二等辺三角形を呈し、2・3の底縁には浅い抉入部が認められる。4は両側縁が平行に延びるもので、底縁には浅い抉入部が認められる。5・6は石錘、7は石匙である。8・9は磨製石斧で、ともに全面が研磨され刃部には縦位、斜位の使用痕が認められる。10・11は石錘である。2点とも全面に浅い研磨が認められ、擦切り技法によって、紐掛け用の条痕が横位に確認される。12は環状石製品である。下端を火はげにより欠損している。両面全周縁に、縦位の線状研磨痕が認められる。中央部の円形穿孔は両面から穿たれ、穿孔内面には、多くの線状痕が確認される。

第30图



0 (S=2/3) 5cm



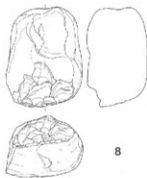
5 (1/1)



6



7



8

0 (S=1/4) 10cm

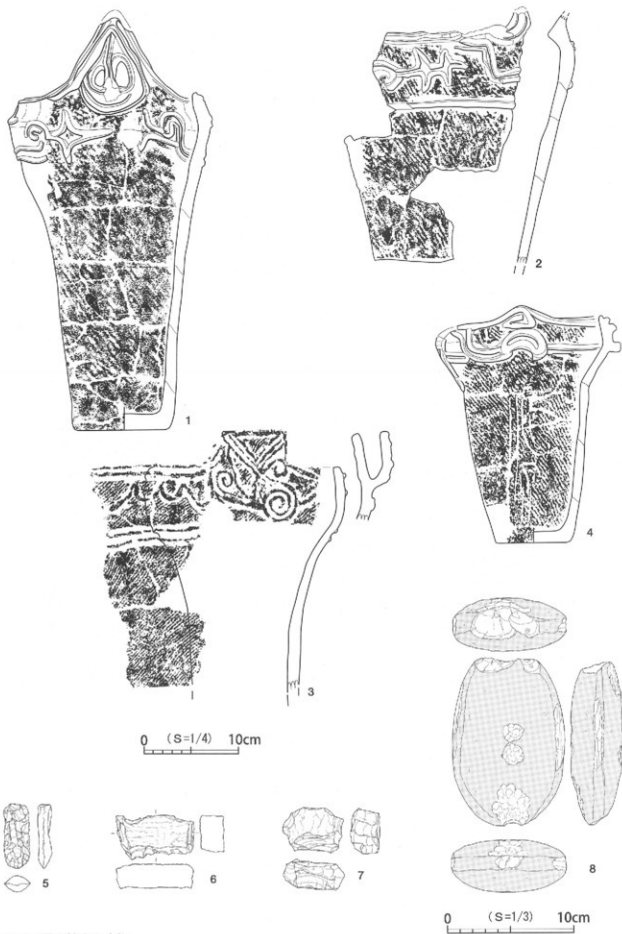
0 (S=1/3) 10cm



9

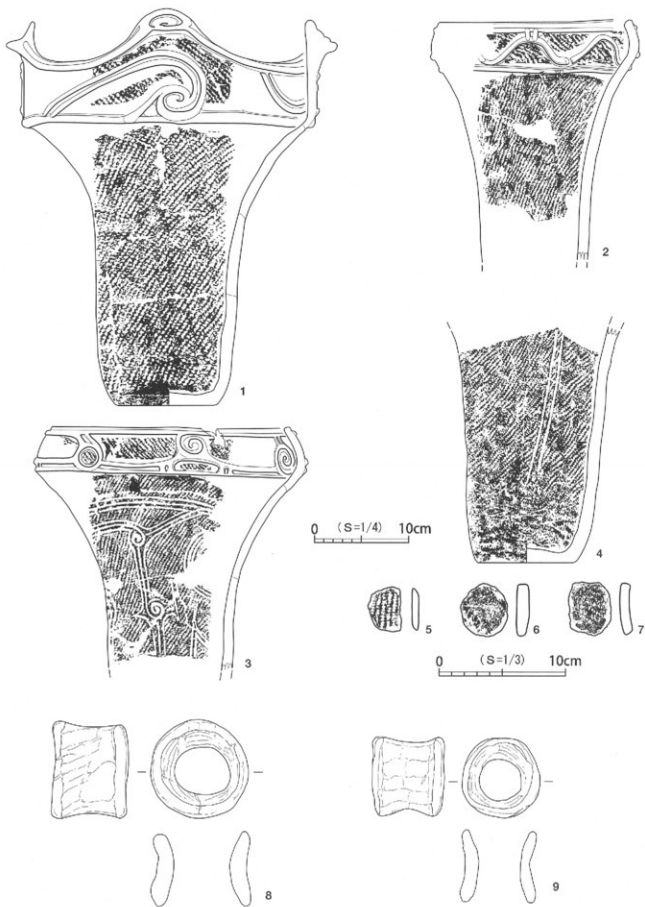
SK001号土坑出土遺物

第31图



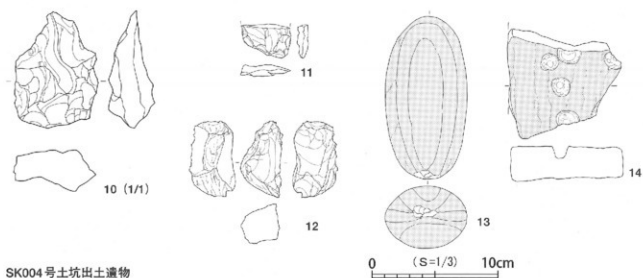
SK002号土坑出土遗物

第32図

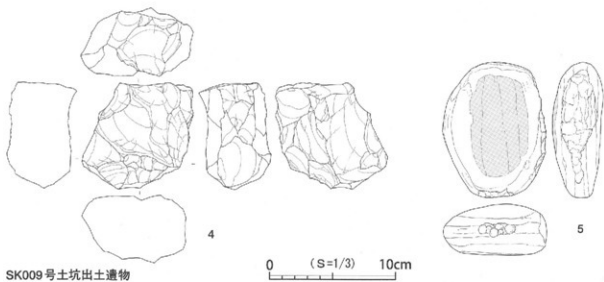
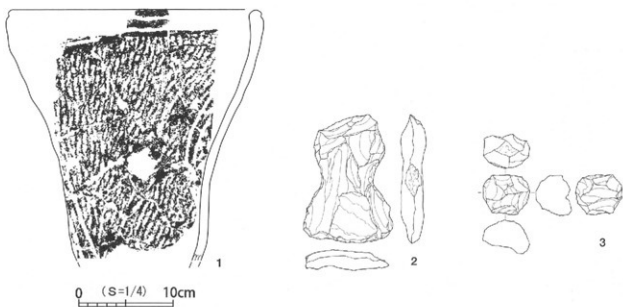


SK004号土坑出土遺物

第33図

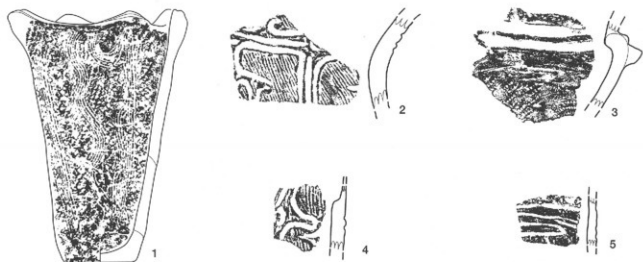


SK004号土坑出土遺物



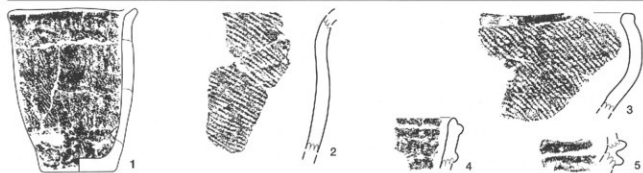
SK009号土坑出土遺物

第34图



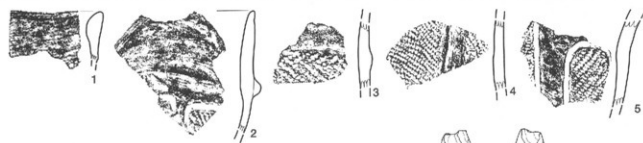
SK010号土坑出土遗物 0 (S=1/4) 10cm

0 (S=1/3) 10cm



SK011号土坑出土遗物 0 (S=1/4) 10cm

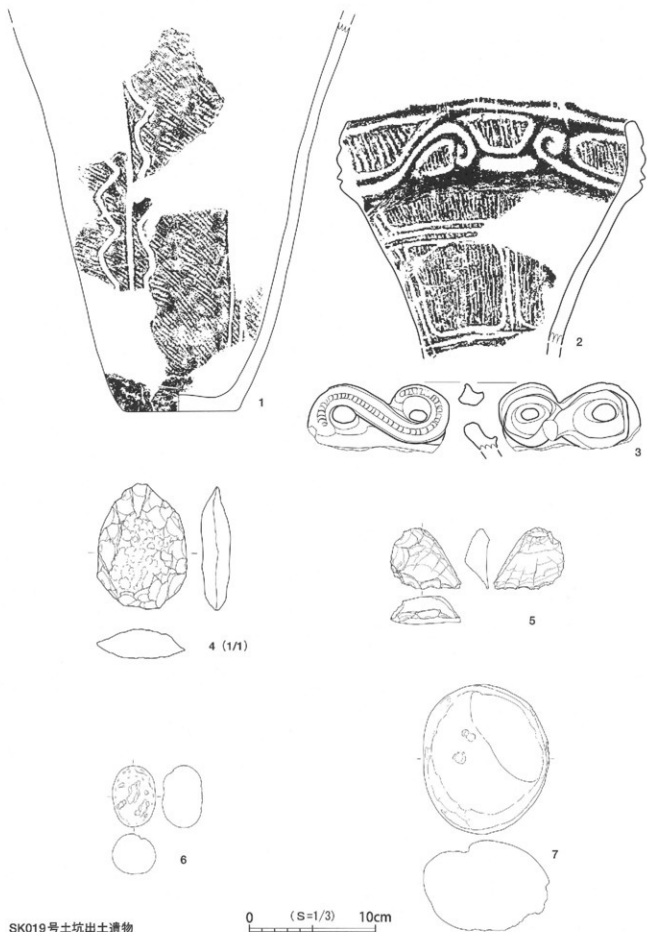
0 (S=1/3) 10cm



0 (S=1/3) 10cm

SK018号土坑出土遗物

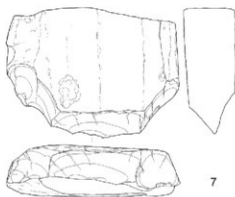
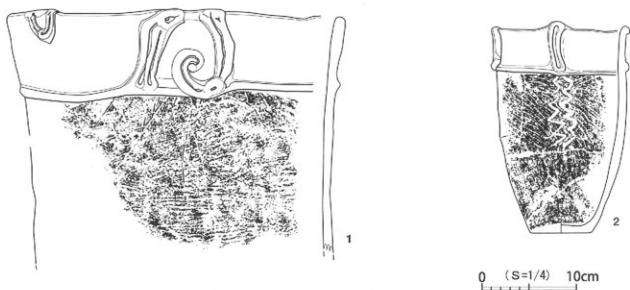
第35图



SK019号土坑出土遺物

0 (S=1/3) 10cm

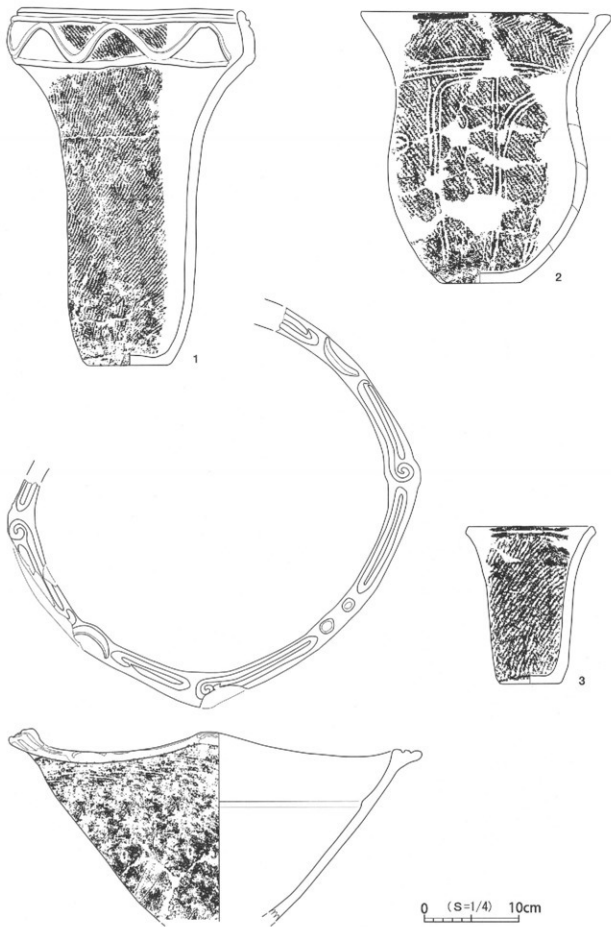
第36图



0 (S=1/3) 10cm

SK028号土坑出土遺物

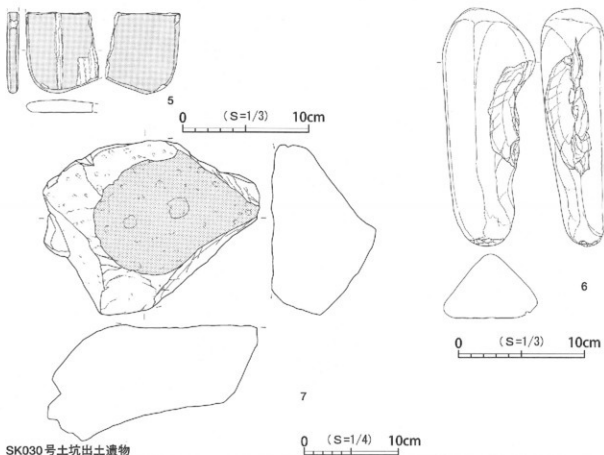
第37图



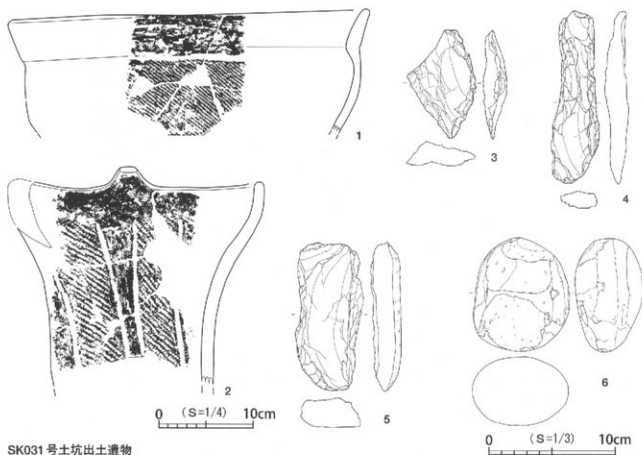
SK030号土坑出土遺物

4

第38図

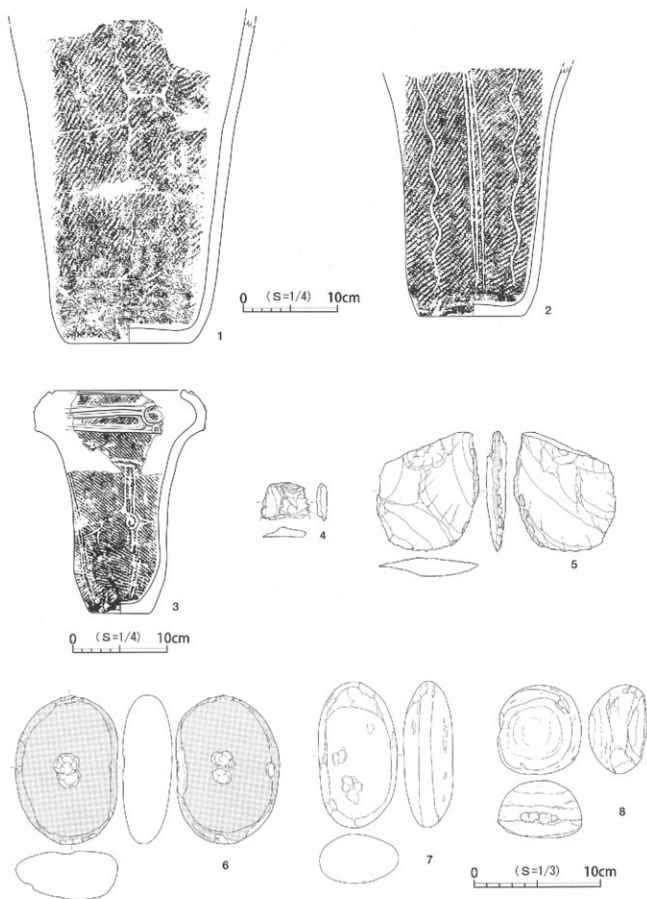


SK030号土坑出土遺物



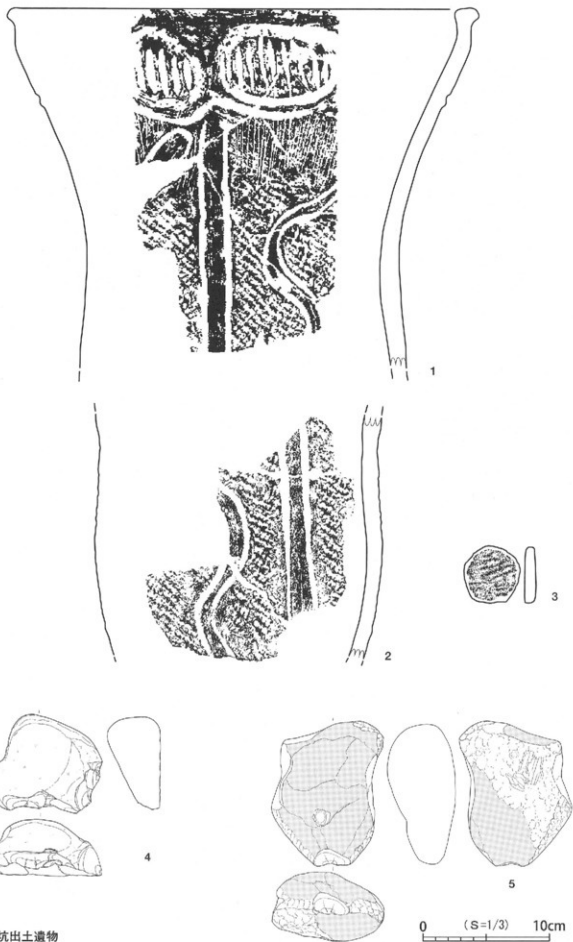
SK031号土坑出土遺物

第39図



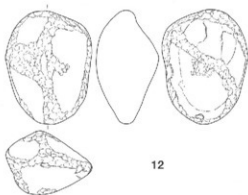
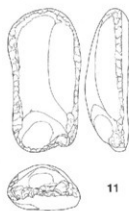
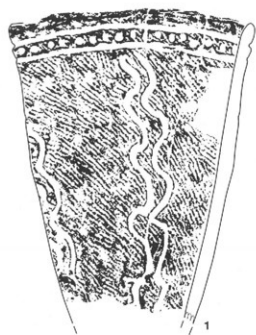
SK037号土坑出土遺物

第40図



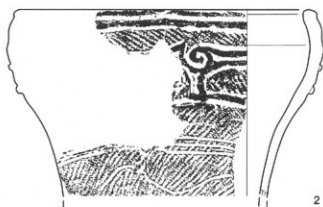
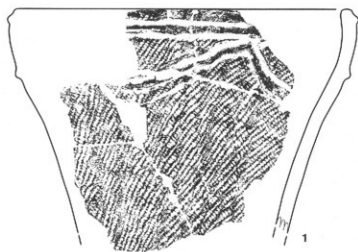
SK045号土坑出土遺物

第41図



0 (S=1/3) 10cm

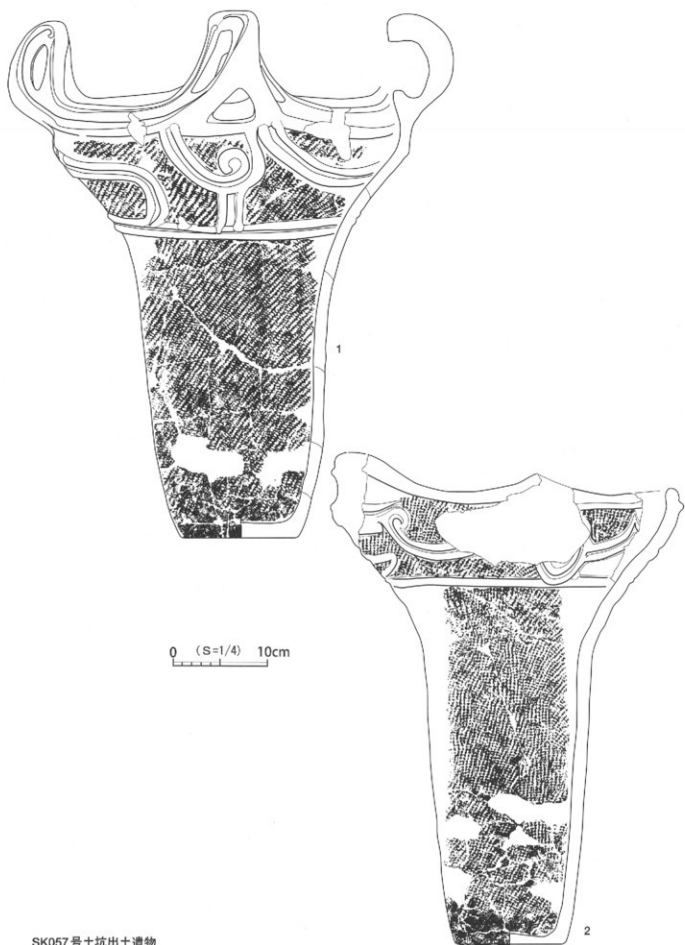
第42図



0 (S=1/3) 10cm

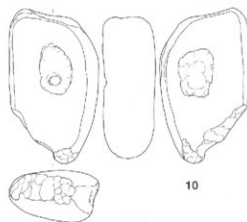
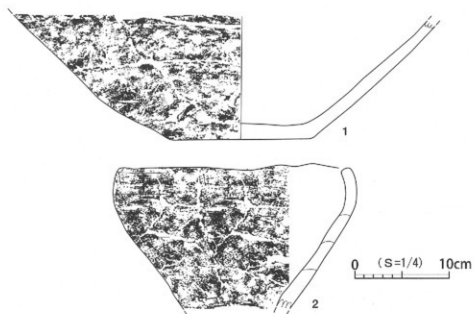
SK053号土坑出土遺物

第43図



SK057号土坑出土遺物

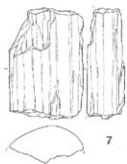
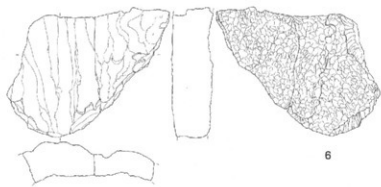
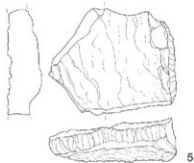
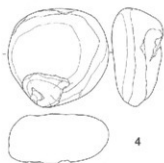
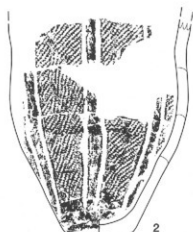
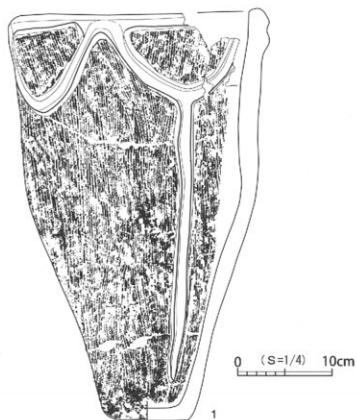
第44図



0 (S=1/3) 10cm

SK058号土坑出土遺物

第45図

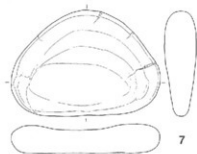


0 (S=1/4) 10cm

0 (S=1/3) 10cm

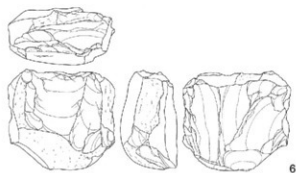
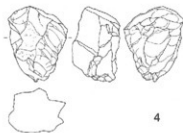
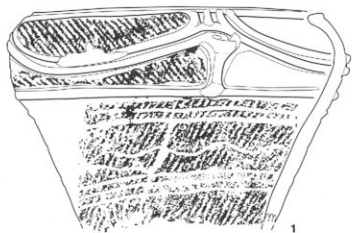
SK062号土坑出土遺物

第46図



0 (S=1/3) 10cm

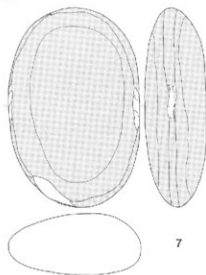
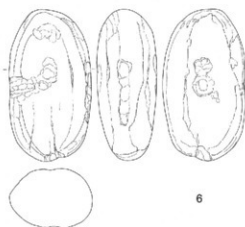
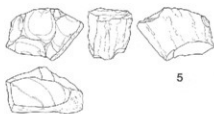
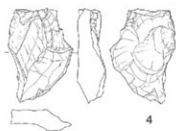
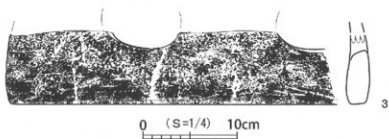
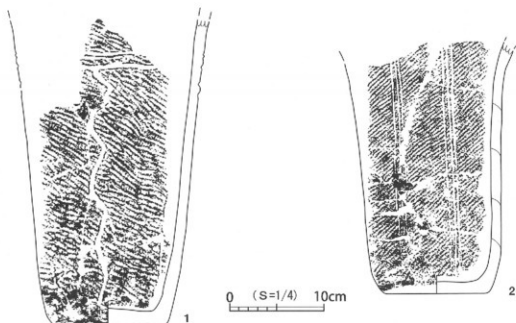
第47図



0 (S=1/3) 10cm

SK065号土坑出土遺物

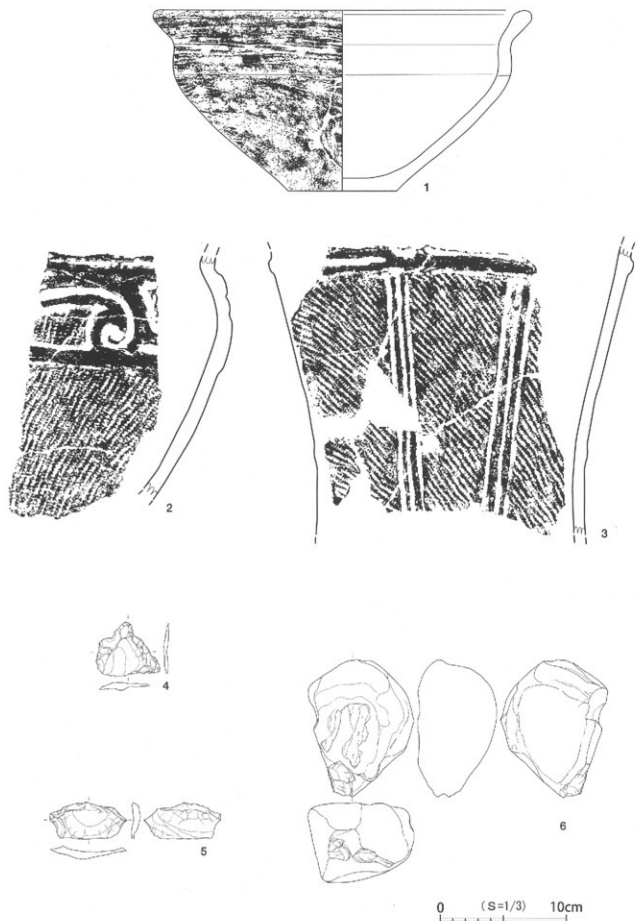
第48图



SK069号土坑出土遗物

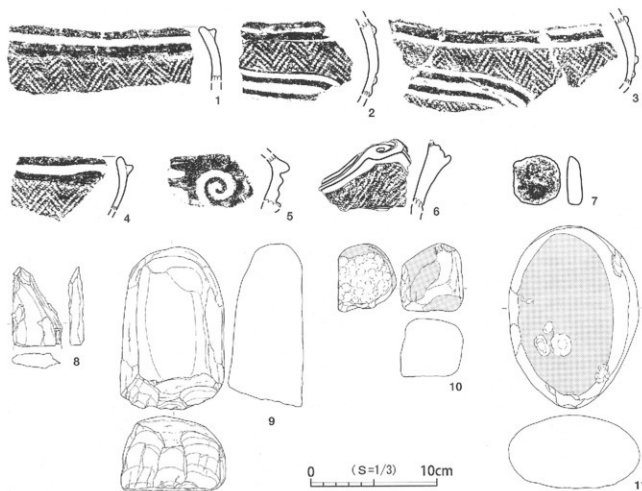
0 (S=1/3) 10cm

第49図

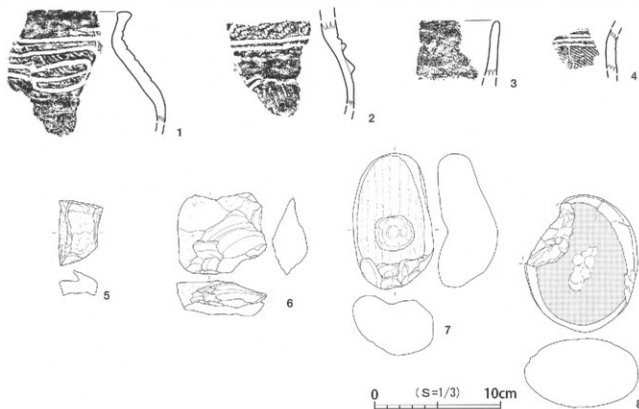


SK078号土坑出土遺物

第50图

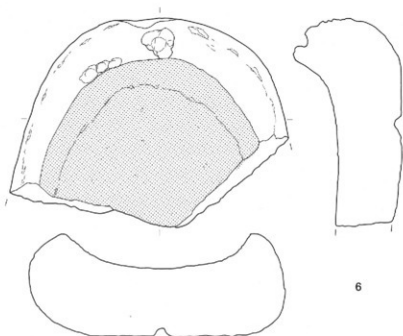


SK086号土坑出土遗物



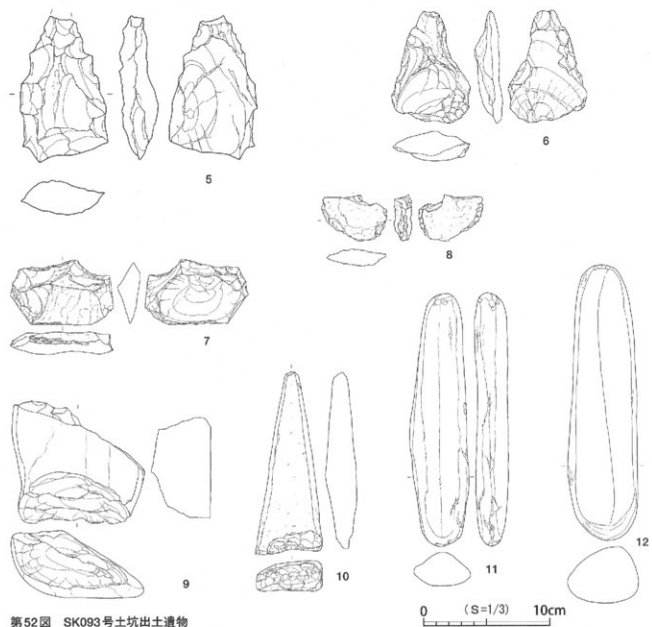
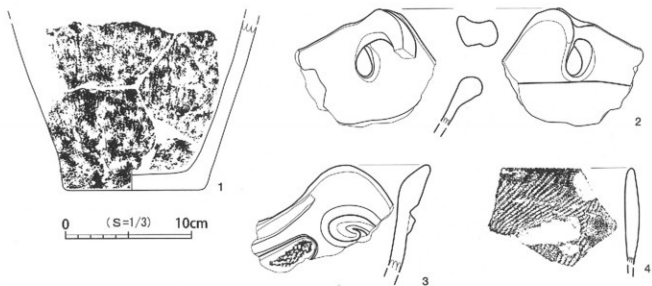
SK089号土坑出土遗物

第51図



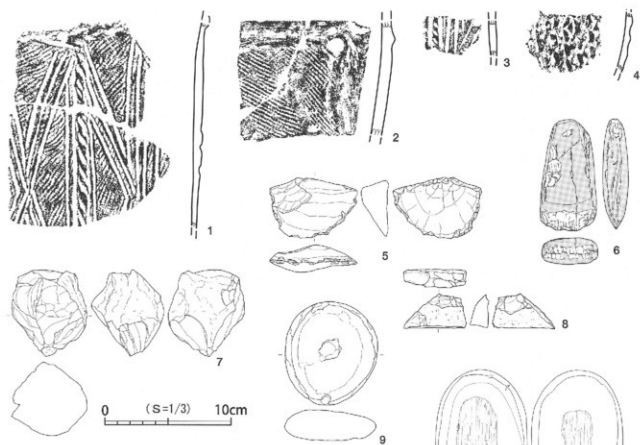
0 (S=1/3) 10cm

第52図

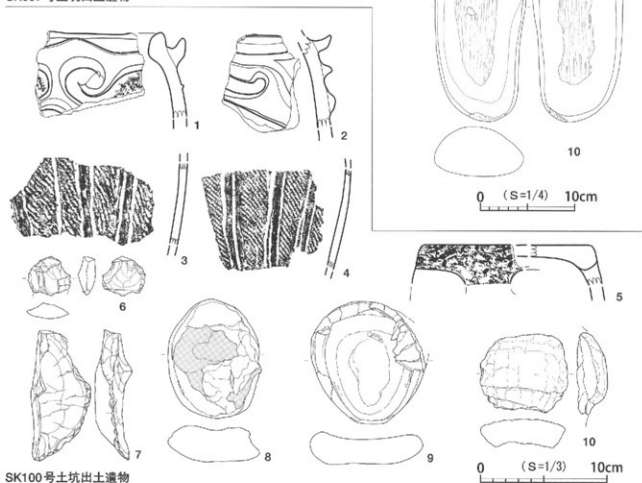


第52図 SK093号土坑出土遺物

第53図

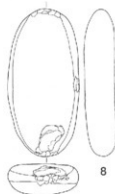
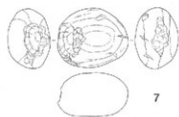
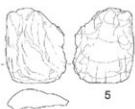
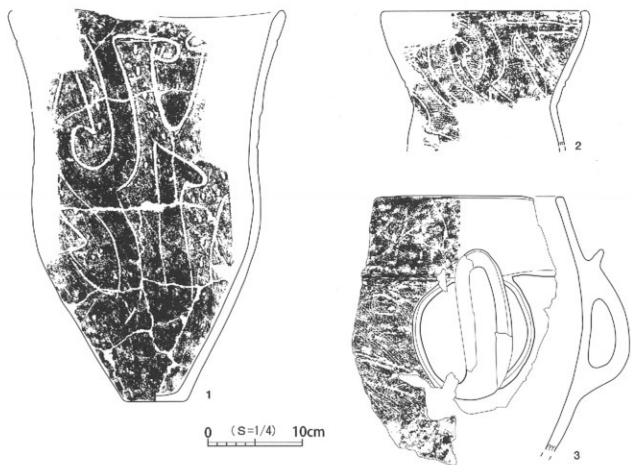


SK097号土坑出土遺物



SK100号土坑出土遺物

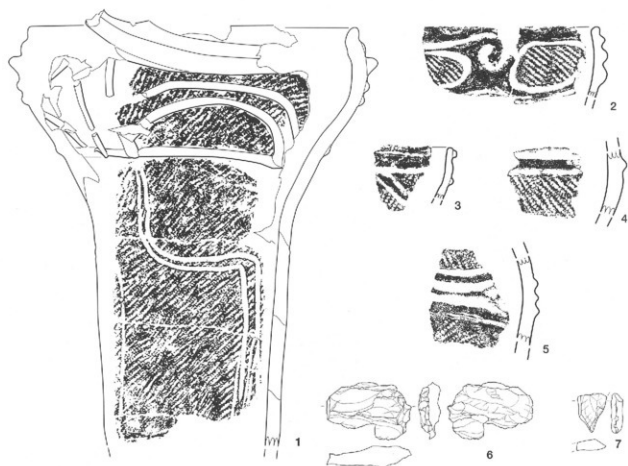
第54図



0 (S=1/3) 10cm

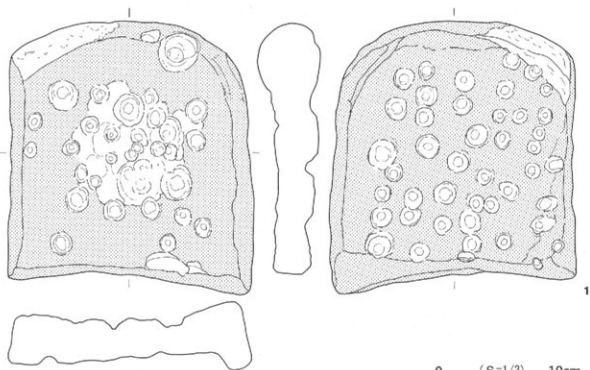
SK102号土坑出土遺物

第55図



SK111号土坑出土遺物

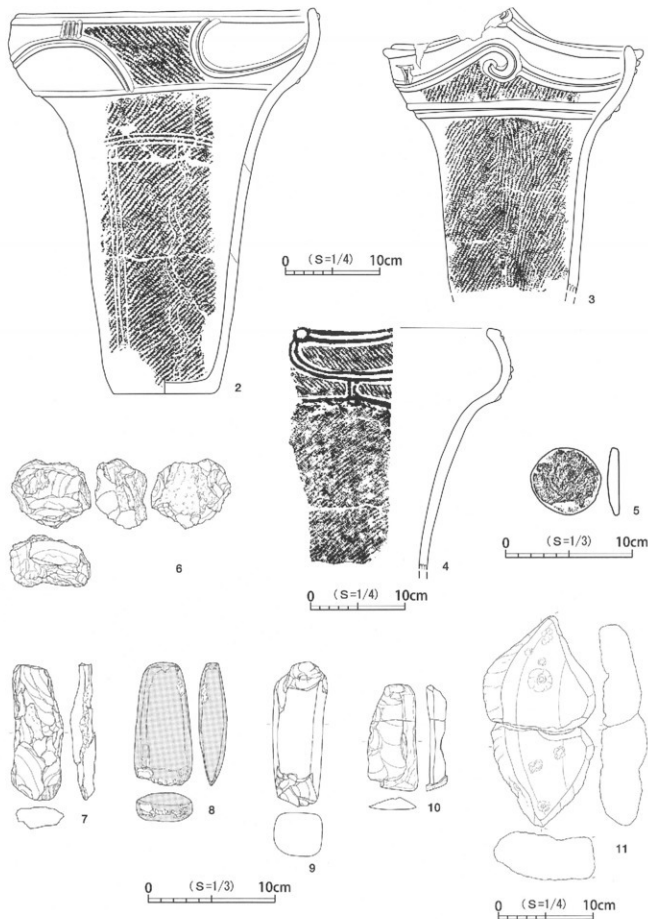
0 (S=1/3) 10cm



SK121号土坑出土遺物

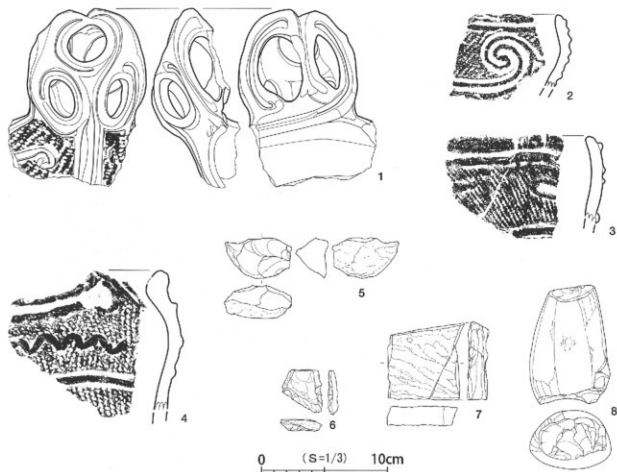
0 (S=1/3) 10cm

第56图

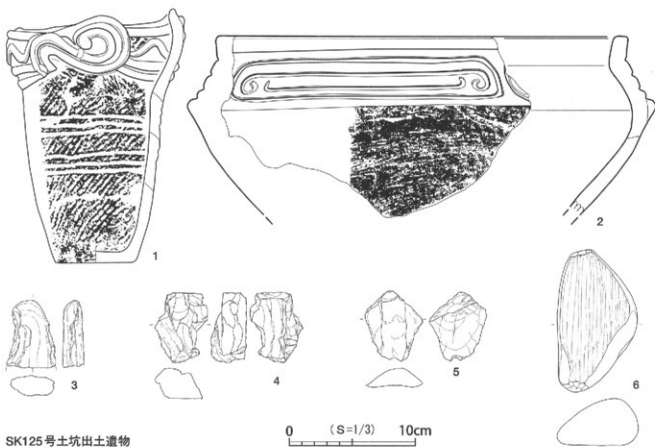


SK121号土坑出土遺物

第57图

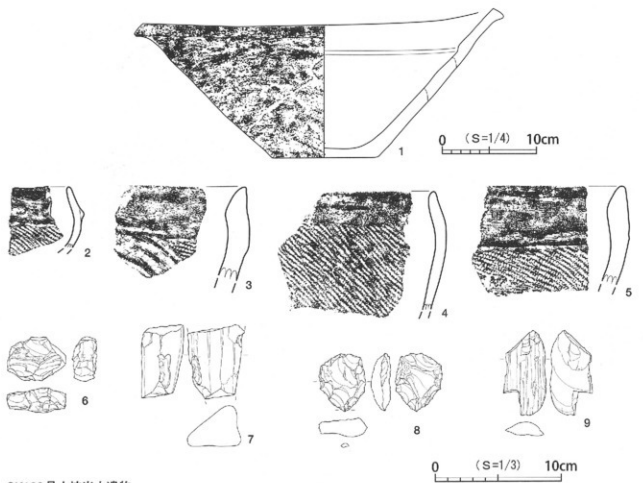


SK124号土坑出土遗物

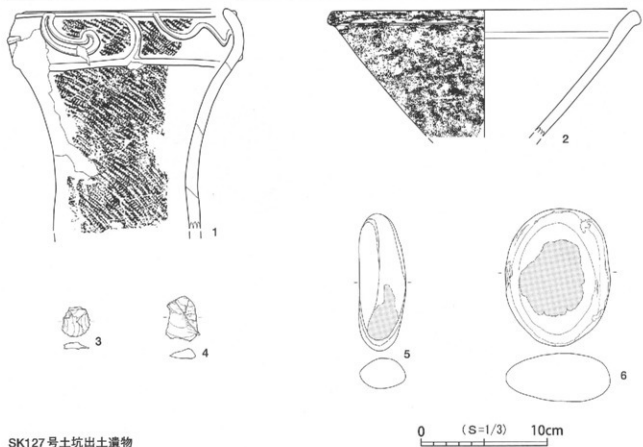


SK125号土坑出土遗物

第58图

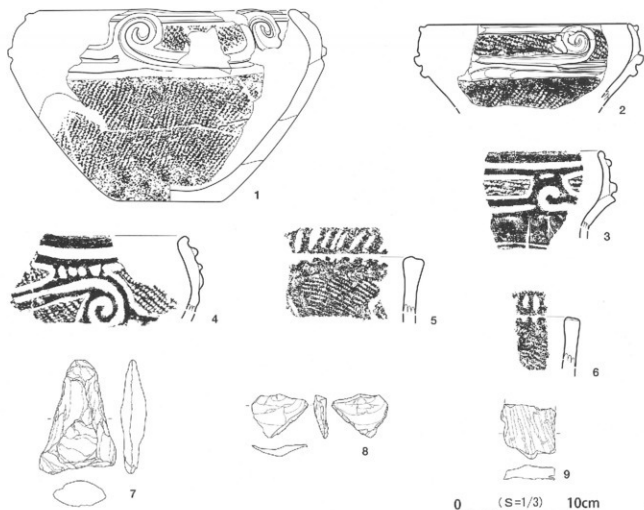


SK126号土坑出土遗物

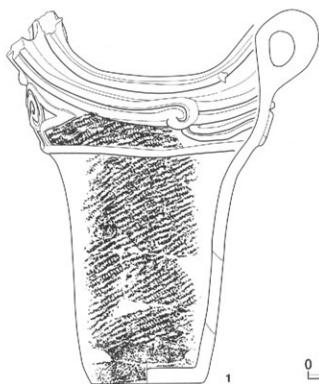


SK127号土坑出土遗物

第59図

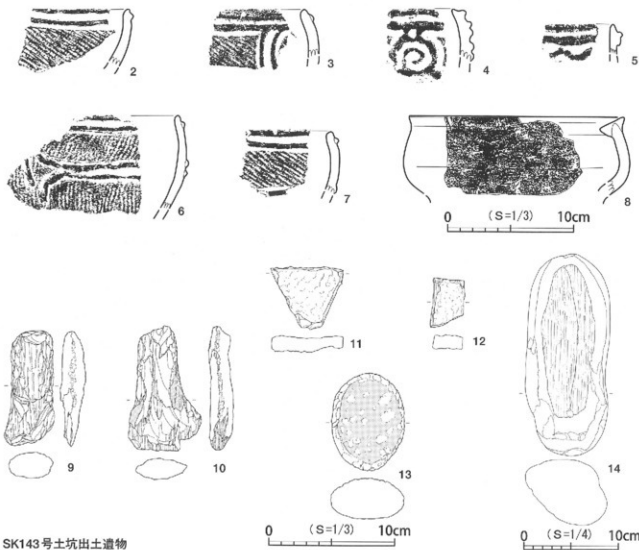


SK135号土坑出土遺物

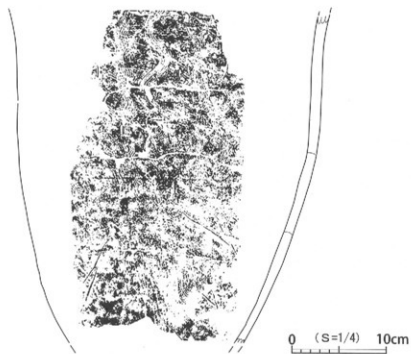


SK143号土坑出土遺物

第60图

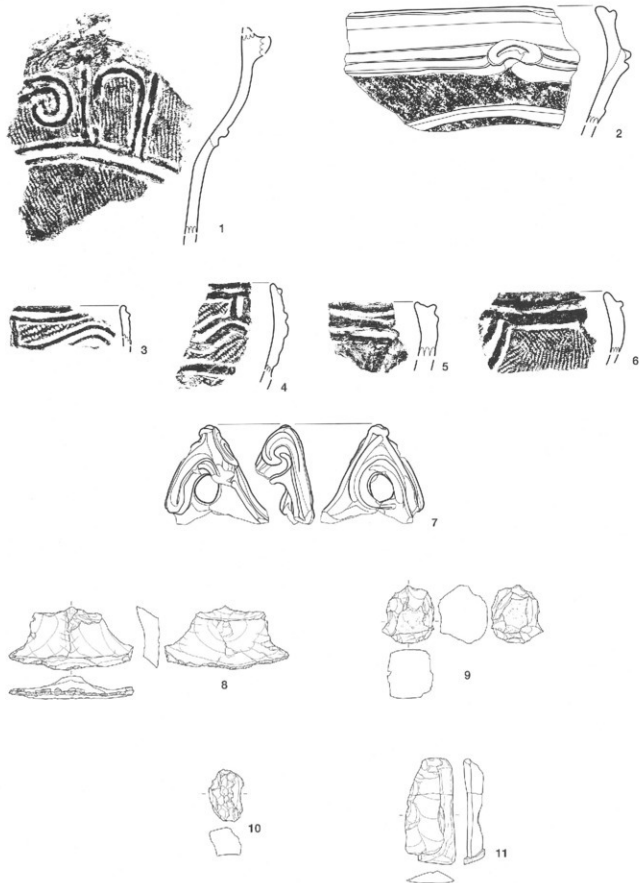


SK143号土坑出土遗物



SK144号土坑出土遗物

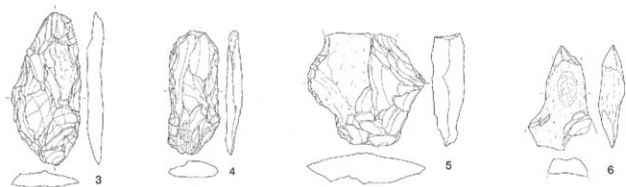
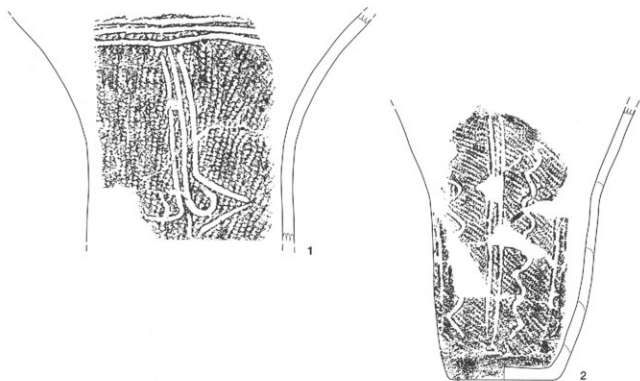
第61図



SK147号土坑出土遺物

0 (S=1/3) 10cm

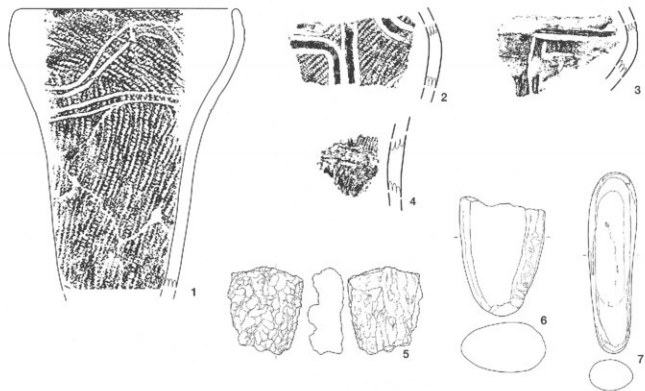
第62図



SK153号土坑出土遺物

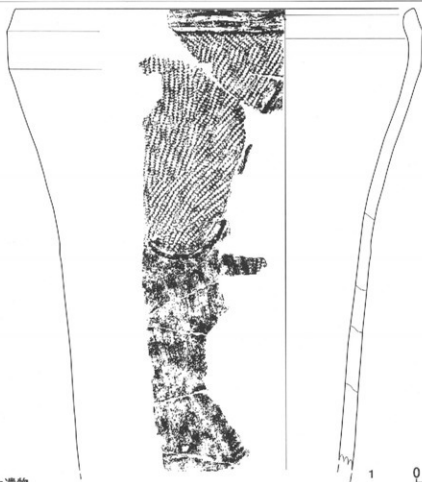
0 (S=1/3) 10cm

第63図



0 (S=1/3) 10cm

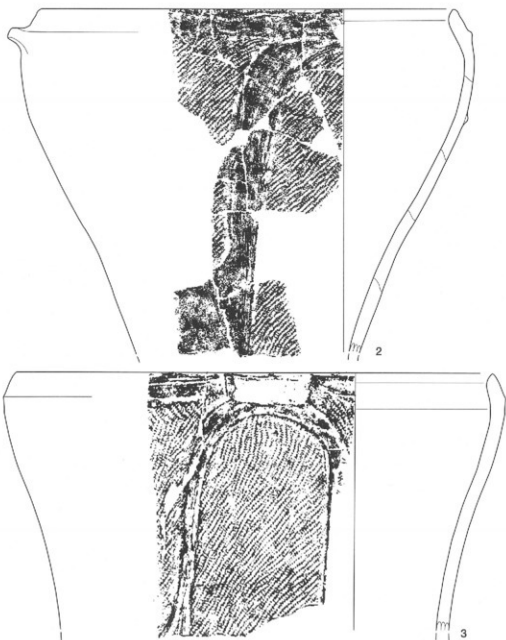
SK154号土坑出土遺物



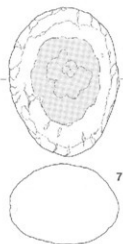
0 (S=1/4) 10cm

SK157号土坑出土遺物

第64図



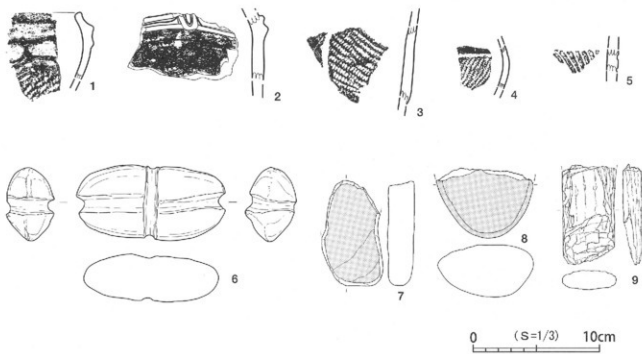
0 (S=1/4) 10cm



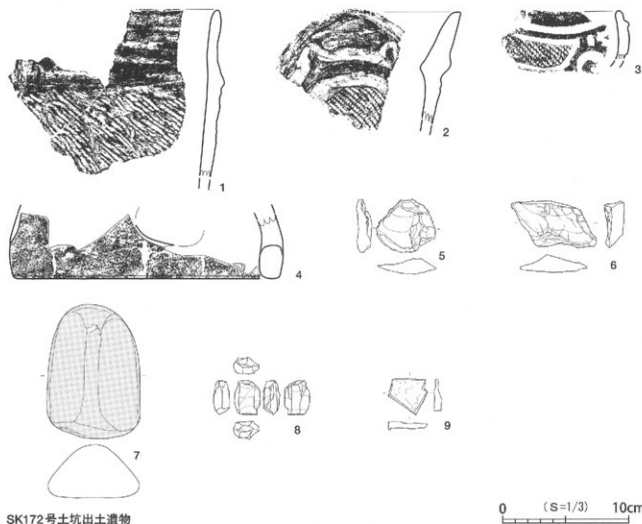
0 (S=1/3) 10cm

SK157号土坑出土遺物

第65図



SK161号土坑出土遺物

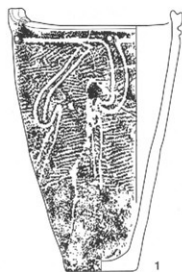
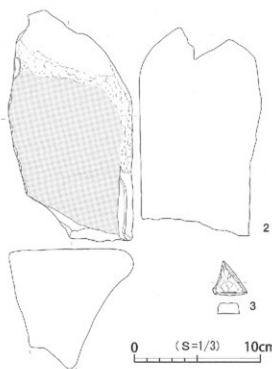


SK172号土坑出土遺物

第66図

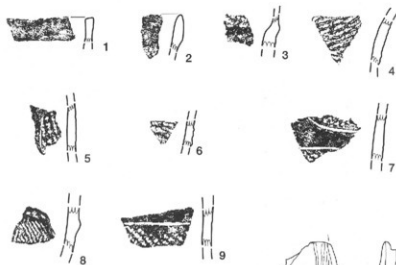


SK174号土坑出土遺物



0 (S=1/3) 10cm

179号土坑出土遺物

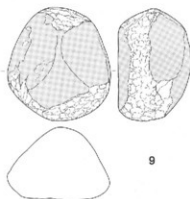
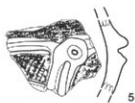
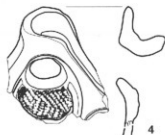
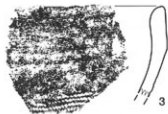


0 (S=1/3) 10cm

SK193号土坑出土遺物



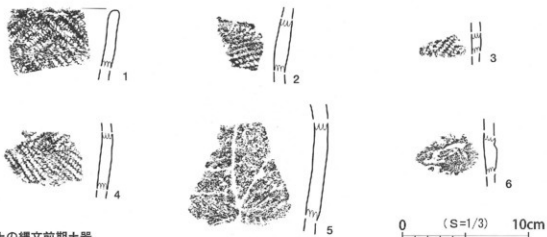
第67図



SX003遺構出土遺物

0 (S=1/3) 10cm

第68図

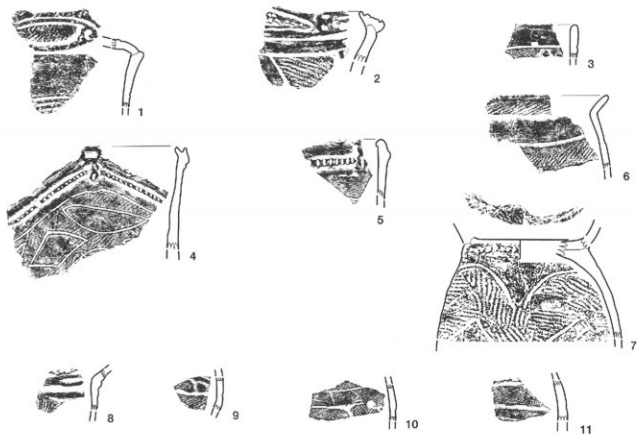


1 遺構外出土の縄文前期土器



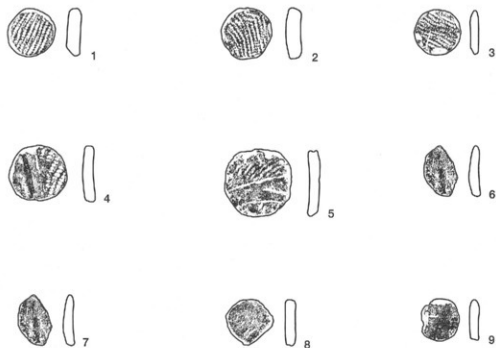
2 遺構外出土の中・後期土器

第69図



0 (S=1/3) 10cm

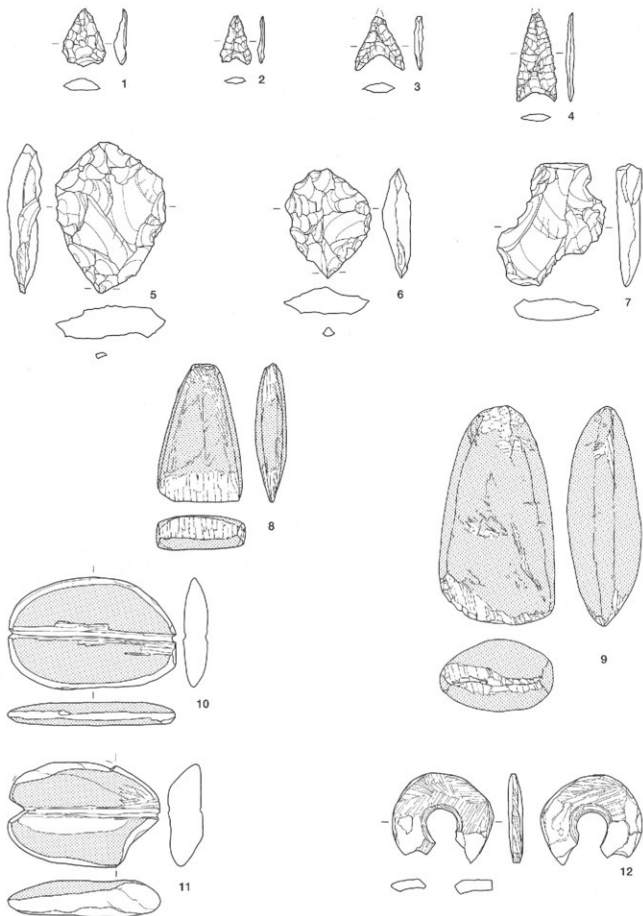
1 遺構外出土の縄文後・晩期土器



0 (S=1/3) 10cm

2 遺構外出土の土器片円盤

第70図



遺構外出土の石器 (2/3)

0 (S=2/3) 5cm

第3表 石器観察表(1)

挿図	図版	NO	遺構名	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	完/欠	備考
30	12	5	SK001	石鏃	赤玉石	2.6	2.2	0.7	4	欠	
		6	SK001	打製石斧	ホルンフェルス	4.4	6.4	1.8	50	欠	
		7	SK001	打製石斧	ホルンフェルス	11.0	4.9	2.0	128	完	
		8	SK001	敲石	チャート	7.9	5.5	4.9	332	完	
		9	SK001	磨・擦石	安山岩	16.3	10.4	5.7	945	完	被熱
31	13	5	SK002	ヘラ状石器	赤玉石	5.2	2.1	1.3	14	完	
		6	SK002	石核	瑪瑙	4.9	3.7	2.4	55	-	
		7	SK002	石核	玉髓	6.1	3.5	1.9	54	-	
		8	SK002	磨・敲・擦石	安山岩	13.1	9.0	4.3	655	完	
33	14	10	SK004	二次加工剥片	黒曜石	3.2	2.3	1.4	6	-	
		11	SK004	打製石斧	安山岩	2.7	4.0	1.0	8	欠	
		12	SK004	石核	チャート	6.0	3.5	3.1	73	-	
		13	SK004	敲石	閃緑岩	13.0	6.5	4.9	560	完	
		14	SK004	石皿	砂岩	7.5	9.2	2.7	254	欠	回転盲孔複数有
33	15	2	SK009	打製石斧	頁岩	10.3	7.1	2.2	152	完	
		3	SK009	石核	チャート	3.2	3.7	2.8	36	-	
		4	SK009	石核	砂岩	8.5	9.0	5.7	456	-	
		5	SK009	敲石	安山岩	10.8	8.2	4.1	492	完	
34	16	6	SK018	磨・擦石	安山岩	7.0	5.7	4.8	238	完	
35	16	4	SK019	石鏃	玉髓	3.3	2.4	0.8	5	完	被熱
		5	SK019	二次加工剥片	流紋岩	4.9	5.5	2.2	48	-	
		6	SK019	磨石	浮石凝灰岩	4.9	3.4	3.2	13	完	
		7	SK019	磨石	安山岩	11.9	10.0	7.1	870	完	
36	17	3	SK028	二次加工剥片	玉髓	4.4	5.2	1.2	22	-	
		4	SK028	打製石斧	ホルンフェルス	7.3	3.8	1.7	60	完	
		5	SK028	打製石斧	流紋岩	5.0	4.5	1.5	37	欠	
		6	SK028	打製石斧	ホルンフェルス	8.0	6.0	1.7	78	完	
		7	SK028	礮器	砂岩	10.4	13.8	4.2	880	-	
38	18	5	SK030	板状砥石	砂岩	6.5	5.9	1.0	58	欠	
		6	SK030	敲石	凝灰岩	18.9	7.3	5.1	840	完	
		7	SK030	石皿	砂岩	18.4	22.7	12.3	4,600	欠	被熱
38	19	3	SK031	二次加工剥片	玉髓	5.4	8.6	1.9	57	-	
		4	SK031	打製石斧	粘板岩	13.7	3.9	1.9	82	完	
		5	SK031	打製石斧	安山岩	11.8	5.4	2.4	204	完	
		6	SK031	磨・敲石	安山岩	9.0	7.7	5.4	486	完	
39	19	4	SK037	二次加工剥片	粘板岩	3.0	3.8	0.8	10	-	
		5	SK037	二次加工剥片	砂岩	9.5	8.1	1.6	124	-	
		6	SK037	磨石	安山岩	11.8	8.2	3.9	520	完	
		7	SK037	磨石	安山岩	11.5	6.3	3.9	406	完	

第3表 石器観察表(2)

挿図	図版	NO	遺構名	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	完/欠	備考		
39	19	8	SK037	磨石	安山岩	7.1	6.7	4.6	312	完			
40	20	4	SK045	礫器	凝灰岩	7.8	9.4	4.3	336	-			
		5	SK045	磨・蔽石	砂岩	11.5	9.0	5.5	660	完			
41	21	10	SK046	剥片	チャート	2.2	4.4	1.2	10	-			
		11	SK046	蔽石	砂岩	11.4	5.8	3.6	284	完			
		12	SK046	蔽石	砂岩	9.0	6.9	5.0	320	完			
42	21	3	SK053	石錐	粘板岩	4.9	3.8	0.7	16	欠			
		4	SK053	打製石斧	砂岩	4.0	5.7	2.0	40	欠			
		5	SK053	原石分割	瑪瑙	4.3	3.7	1.0	20	-			
		6	SK053	原石分割	玉髓	6.7	8.9	2.9	220	-			
		7	SK053	磨・蔽石	砂岩	10.4	7.1	4.3	376	欠			
44	23	3	SK058	二次加工剥片	頁岩	6.0	4.0	1.4	30	-			
		4	SK058	打製石斧	ホルンフェルス	7.8	4.4	1.2	41	完			
		5	SK058	打製石斧	粘板岩	11.0	5.6	2.2	108	完			
		6	SK058	石核	玉髓	1.9	1.7	1.6	7	-			
		7	SK058	石核	赤玉石	4.8	4.4	3.6	66	-			
		8	SK058	原石分割	玉髓	4.9	5.4	2.2	78	-			
		9	SK058	石核	瑪瑙	5.0	10.1	4.5	88	-			
		10	SK058	磨石	安山岩	12.5	7.1	4.2	515	完			
		45	24	3	SK062	打製石斧	粘板岩	10.9	7.7	2.3	180	欠	
				4	SK062	磨・蔽石	凝灰岩	7.8	7.9	4.0	348	完	
5	SK062			原石分割	瑪瑙	10.1	8.4	3.5	332	-			
6	SK062			原石分割	瑪瑙	13.6	16.8	4.2	1,006	-	SK099と接合		
7	SK062			石棒	雲母片岩	8.8	5.8	3.0	218	欠			
46	25	7	SK064	石皿	凝灰岩	8.4	11.8	2.5	168	完			
		8	SK064	石核	瑪瑙	5.7	6.3	4.2	164	-			
		9	SK064	石核	頁岩	2.5	4.3	2.8	35	-			
		10	SK064	二次加工剥片	チャート	3.0	4.6	1.7	22	-			
47	25	3	SK065	打製石斧	ホルンフェルス	8.3	4.3	2.0	90	欠			
		4	SK065	石核	赤玉石	6.0	4.8	4.8	100	-			
		5	SK065	原石分割	瑪瑙	6.7	5.2	2.4	110	-			
		6	SK065	石核	凝灰岩	7.9	8.5	4.5	392	-			
		7	SK065	石核	瑪瑙	6.5	3.5	2.0	61	-			
48	26	4	SK069	剥片	流紋岩	7.5	5.1	1.9	70	-			
		5	SK069	石核	赤玉石	4.2	6.0	3.6	84	-			
		6	SK069	磨石	安山岩	12.0	6.6	4.8	500	完			
		7	SK069	磨石	安山岩	15.8	10.5	4.9	1,200	完			
49	27	4	SK078	剥片	流紋岩	4.3	5.0	0.4	8	-			
		5	SK078	剥片	流紋岩	3.0	6.1	0.6	13	-			

第3表 石器観察表(3)

挿図	図版	NO	遺構名	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	完/欠	備考
49	27	6	SK078	磨・蔽石	砂岩	10.9	8.4	6.4	665	完	
		8	SK086	打製石斧	粘板岩	6.3	4.1	1.2	36	欠	
		9	SK086	礫器	不明	13.7	8.3	6.0	980	欠	
50	28	10	SK086	磨・蔽石	砂岩	5.4	5.0	4.6	184	完	
		11	SK086	磨石	安山岩	15.5	10.4	5.9	1,015	完	
		5	SK089	原石分割	玉髓	5.3	3.5	2.0	39	-	
		6	SK089	礫器	ホルンフェルス	6.5	7.2	2.8	144	-	
		7	SK089	磨石	砂岩	10.8	6.5	4.7	340	完	
		8	SK089	磨石	安山岩	10.9	8.9	5.4	640	欠	
		6	SK090	石皿	玄武岩	16.7	21.9	8.2	2,250	欠	
		7	SK090	二次加工剥片	チャート	1.7	2.7	0.4	2	-	
51	29	8	SK090	二次加工剥片	流紋岩	5.0	6.4	1.5	40	-	
		9	SK090	有孔石製品	浮石凝灰岩	6.3	4.8	3.1	12	完	
		5	SK093	石鏃	チャート	3.8	2.4	1.0	8	欠	
		6	SK093	ヘラ状石器	流紋岩	8.9	6.2	2.3	89	完	
		7	SK093	二次加工剥片	流紋岩	5.2	8.2	1.8	78	-	
52	30	8	SK093	二次加工剥片	玉髓	3.7	5.2	1.3	25	-	
		9	SK093	礫器	凝灰岩	9.7	10.6	4.7	645	-	
		10	SK093	蔽石	砂岩	14.5	5.3	2.4	192	完	
		11	SK093	蔽石	ホルンフェルス	20.2	4.6	2.7	322	完	被熱
		12	SK093	磨石	凝灰岩	21.8	5.6	4.5	675	完	
		5	SK097	二次加工剥片	粘板岩	4.8	7.0	2.2	52	-	
		6	SK097	磨製石斧	蛇紋岩	8.8	4.4	2.1	146	完	
		7	SK097	石核	チャート	6.9	6.0	5.8	230	-	
53	31	8	SK097	二次加工剥片	瑪瑙	2.8	5.0	1.5	22	-	
		9	SK097	磨石	安山岩	7.3	8.3	2.4	220	完	
		10	SK097	磨・蔽石	砂岩	22.7	9.7	6.0	1,800	完	
		6	SK100	石匙	赤玉石	3.1	3.4	1.3	11	欠	
		7	SK100	二次加工剥片	砂岩	10.4	4.8	3.0	116	-	
53	31	8	SK100	磨石	凝灰岩	9.6	7.4	3.0	278	完	
		9	SK100	石皿	凝灰岩	9.7	9.1	2.7	124	完	
		10	SK100	石棒	緑泥片岩	6.4	7.0	2.5	132	欠	
		5	SK102	剥片	チャート	5.9	4.9	1.7	54	-	
		6	SK102	原石分割	玉髓	9.1	4.6	1.5	74	-	
54	32	7	SK102	蔽石	砂岩	5.6	4.8	3.4	112	完	
		8	SK102	磨石	閃緑岩	11.8	5.6	2.5	236	完	
		6	SK111	二次加工剥片	流紋岩	4.5	6.7	1.7	37	-	
55	33	7	SK111	打製石斧	砂岩	3.1	2.4	1.0	7	欠	
55	33	1	SK121	石皿	凝灰岩	21.4	19.4	5.2	1,900	欠	

第3表 石器観察表(4)

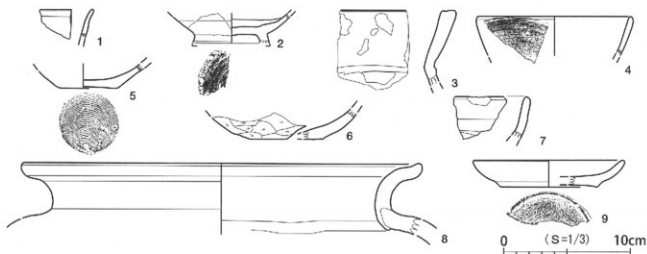
挿図	図版	NO	遺構名	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	完/欠	備考
56	34	6	SK121	石核	瑪瑙	5.5	6.3	4.1	148	-	
		7	SK121	打製石斧	頁岩	10.9	4.2	1.8	99	完	
		8	SK121	磨製石斧	凝灰岩	9.8	4.7	2.3	178	欠	
		9	SK121	蔽石	頁岩	11.6	4.3	3.5	286	欠	
		10	SK121	剥片	チャート	5.6	4.0	1.7	46	-	SK147-11と接合
		11	SK121	石皿	凝灰岩	22.4	11.8	5.2	1,025	欠	被熱
57	35	5	SK124	石核	赤玉石	3.3	5.3	2.6	40	-	
		6	SK124	二次加工剥片	チャート	3.4	3.3	0.9	10	-	
		7	SK124	原石分割	瑪瑙	6.1	6.1	1.6	84	-	グリットAJ20と接合
		8	SK124	蔽石	安山岩	9.4	6.4	4.6	412	欠	
57	35	3	SK125	打製石斧	ホルンフェルス	5.3	4.0	1.7	47	欠	
		4	SK125	石核	チャート	5.5	4.2	2.8	66	-	
		5	SK125	剥片	流紋岩	5.5	4.5	1.6	28	-	
		6	SK125	蔽石	閃緑岩	11.4	6.4	3.8	344	完	
58	36	6	SK126	石核	瑪瑙	3.6	4.7	2.0	40	-	
		7	SK126	蔽石	砂岩	5.9	4.5	3.2	98	欠	
		8	SK126	石錐	玉髓	4.6	3.8	1.5	25	完	
		9	SK126	剥片	桂化木	6.8	3.4	1.1	20	-	
58	36	3	SK127	剥片	チャート	2.4	2.2	0.6	4	-	
		4	SK127	剥片	チャート	3.7	2.7	0.8	7	-	
		5	SK127	磨石	閃緑岩	10.9	3.9	2.5	172	完	
		6	SK127	磨石	安山岩	11.0	8.4	3.8	490	完	
59	37	7	SK135	打製石斧	ホルンフェルス	9.1	6.0	2.1	90	完	
		8	SK135	二次加工剥片	チャート	3.4	4.4	1.0	11	-	
		9	SK135	原石分割	玉髓	4.4	4.4	1.1	25	-	
60	38	9	SK143	打製石斧	チャート	9.2	4.0	2.1	88	完	
		10	SK143	打製石斧	粘板岩	9.9	5.9	1.8	100	完	
		11	SK143	原石分割	玉髓	4.9	5.8	1.3	49	-	
		12	SK143	原石分割	玉髓	4.0	2.7	1.1	16	-	
		13	SK143	磨石	安山岩	8.0	5.8	3.2	188	完	
		14	SK143	磨石	安山岩	21.7	9.3	6.9	1,500	完	
61	39	8	SK147	二次加工剥片	流紋岩	5.0	9.9	1.8	52	-	
		9	SK147	石核	瑪瑙	4.7	4.2	3.8	94	-	
		10	SK147	原石分割	玉髓	4.4	2.8	2.2	26	-	
		11	SK147	剥片	チャート	2.9	3.2	1.7	17	-	SK121-10と接合
62	40	3	SK153	石槍	粘板岩	12.1	5.5	1.2	108	完	
		4	SK153	打製石斧	ホルンフェルス	9.8	4.2	1.3	60	欠	被熱
		5	SK153	打製石斧	ホルンフェルス	9.0	9.3	2.5	214	欠	
		6	SK153	打製石斧	頁岩	8.3	5.1	2.2	60	欠	

第3表 石器観察表 (5)

挿図	図版	NO	遺構名	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	完/欠	備考
62	40	7	SK153	礪器	ホルンフェルス	5.5	14.4	5.2	424	-	
		8	SK153	磨・蔽石	安山岩	13.1	8.0	6.7	990	完	
63	41	5	SK154	原石分割	玉髓	7.0	5.9	2.9	80	-	
		6	SK154	磨石	安山岩	9.6	6.8	4.0	338	欠	被熱
		7	SK154	磨石	砂岩	14.5	4.0	1.5	204	完	
64	42	4	SK157	剥片	チャート	4.9	5.5	3.0	76	-	
		5	SK157	磨石	砂岩	5.6	7.0	4.6	212	完	
		6	SK157	磨石	砂岩	9.7	6.1	4.4	386	完	
		7	SK157	磨石	安山岩	12.0	8.7	6.5	890	完	
65	43	6	SK161	石錘	砂岩	3.9	2.0	1.3	12	欠	
		7	SK161	砥石	砂岩	8.4	5.1	2.2	146	欠	
		8	SK161	磨石	閃緑岩	5.6	7.7	4.2	188	欠	
		9	SK161	打製石斧	雲母片岩	7.9	4.3	1.5	79	欠	
65	43	5	SK172	二次加工剥片	流紋岩	4.2	4.8	1.2	29	-	
		6	SK172	二次加工剥片	赤玉石	3.7	6.7	1.6	16	-	
		7	SK172	磨石	凝灰岩	11.0	7.5	4.2	545	完	
		8	SK172	石核	玉髓	2.7	2.0	1.5	9	-	
		9	SK172	原石分割	玉髓	2.9	3.1	0.7	6	-	
66	44	2	SK174	石皿	砂岩	18.6	9.8	9.7	2,000	-	
		3	SK174	原石分割	玉髓	2.8	2.8	0.9	7	-	
66	44	11	SK193	線状痕を有する石器	粘板岩	6.7	2.8	0.6	15	欠	被熱
67	45	6	SX003	石錘	ホルンフェルス	8.5	4.2	3.5	92	完	
		7	SX003	石核	流紋岩	5.4	7.9	2.8	148	-	
		8	SX003	打製石斧	凝灰岩	5.5	5.9	1.2	41	欠	
		9	SX003	磨・蔽・擦石	閃緑岩	9.0	8.2	5.8	600	完	
70	48	1	表土一括	石鎌	チャート	2.3	1.8	0.5	2	欠	
		2	表土一括	石鎌	チャート	1.9	1.2	0.3	1	欠	
		3	表土一括	石鎌	チャート	2.2	2.0	0.4	2	欠	
		4	表土一括	石鎌	チャート	3.5	1.6	0.3	2	欠	
		5	表土一括	石錘	赤玉石	6.0	4.3	0.8	28	完	
		6	表土一括	石錘	頁岩	4.3	3.4	1.1	11	完	
		7	表土一括	石匙	赤玉石	4.9	4.4	1.0	16	完	
		8	表土一括	磨製石斧	蛇紋岩	5.5	3.5	1.3	33	完	
		9	表土一括	磨製石斧	閃緑岩	8.8	4.7	2.9	152	完	
		10	表土一括	石錘	砂岩	4.4	6.7	0.9	37	完	
		11	表土一括	石錘	粘板岩	4.1	6.0	1.4	46	欠	
		12	表土一括	環状石製品	不明	3.6	4.0	0.6	8	欠	被熱

第4章 古代・中世・近世の出土遺物

1は須恵器の長頸壺である。口唇部が外反している。内外面ともロクロナデが施されている。2は須恵器の皿である。高台は付高台である。内外面ともロクロナデが施されている。3は土師質土器の焙烙である。内外面ともロクロナデが施されている。4は土師質土器のかわらけである。内外面ともロクロナデが施されている。5は土師質土器のかわらけである。内外面ともロクロナデが施されている。底部には回転糸切り痕がある。6は土師質土器の鉢である。外面はロクロナデが施されたあと、体部下部をヘラナデし、底部を切り離している。内面はロクロナデが施されている。7は土師質土器のかわらけである。内外面ともロクロナデが施されている。8は陶器の甕である。口縁部の先端が斜め上方に引き出したような形状を持っている。口縁部～頸部～体部にかけてコの字状になっている。9は陶器の皿である。高台は糸切り高台である。内外面に長石釉が施されている。



第71図 古代以降の出土遺物

遺物番号	種別	器種	部位	色調	時代	出土地点	備考
1	須恵器	長頸壺	口縁部		古代	表土	
2	須恵器	皿	底部		古代	表土	
3	土師質	焙烙	口縁部		中世	表土	
4	土師質	かわらけ	口縁部		中世	SD003	全体図に図示
5	土師質	かわらけ	底部		中世	SD003	全体図に図示
6	土師質	鉢	底部		中世	表土	
7	土師質	かわらけ	口縁部		中世	表土	
8	陶器	甕	口縁～頸部		中世	表土	12世紀後半
9	陶器	皿	口縁～底部	白色	近世	表土	

第4表 古代以降の遺物観察表

第5章 まとめ

本遺跡検出の遺構について

本遺跡から、検出された遺構は、346基。これらの内、土坑226基が最多を占め、縄文中期・後期にその主体がある。時期は加曾利E1式期～後期に至るまでの土器が出土している。これらの各土坑は、各時期により、その平面・断面形態等に相異が認められ、それらは、おおよそ以下のようになる。

中期、加曾利E1式期52基

- 平面形態が円形 (11基)、断面形態、袋状 (6基)・台形 (4基)・楕円形 (1基)
- 平面形態楕円形 (25基)、断面形態、袋状 (11基)・台形 (7基)・長方形 (3基)・半楕円形 (2基)・不明 (2基)
- 平面形態隅丸方形 (13基)、断面形態 袋状 (7基)・長方形 (3基)・半楕円形 (1基)・台形 (2基)
- 平面形態が台形 (1基)、断面形態 台形 (1基)
- 平面形態長方形 (2基)、断面形態 袋状 (1基)・台形 (1基)

加曾利E2式期17基

- 平面形態が円形 (2基)、断面形態 台形 (2基)
- 平面形態楕円形 (8基)、断面形態 袋状 (2基)・台形 (3基)・長方形 (3基)
- 平面形態隅丸方形 (3基)、断面形態 袋状 (1基)・台形 (1基)・長方形 (1基)
- 平面形態隅丸長方形 (2基)、断面形態 長方形 (2基)
- 平面形態長方形 (2基)、断面形態 台形 (1基)・不明 (1基)

加曾利E3式期14基

- 平面形態楕円形 (11基)、断面形態 台形 (3基)・長方形 (5基)・半楕円形 (3基)
- 平面形態隅丸方形 (2基)、断面形態 袋状 (1基)・長方形 (1基)
- 平面形態三角形 (1基)、断面形態 台形 (1基)

加曾利E4式期8基

- 平面形態隅丸方形 (1基)、断面形態 袋状 (1基)
- 平面形態楕円形 (5基)、断面形態 台形 (2基)・長方形 (3基)
- 平面形態長方形 (1基)、断面形態 半楕円形 (1基)
- 平面形態円形 (1基)、断面形態 長方形 (1基)

中期 (土坑の形態、覆土の状態等から、中期のいずれかの時期に属する可能性があるもの) 11基

- 平面形態楕円形 (7基)、断面形態 袋状 (3基)・長方形 (3基)・台形 (1基)
- 平面形態隅丸方形 (3基)、断面形態 袋状 (1基)・長方形 (1基)・台形 (1基)
- 平面形態長方形 (1基)、断面形態 長方形 (1基)

後期、称名寺式期15基

- 平面形態楕円形 (7基)、断面形態 袋状 (2基)・長方形 (1基)・台形 (4基)
- 平面形態隅丸方形 (5基)、断面形態 長方形 (3基)・台形 (2基)
- 平面形態隅丸長方形 (3基)、断面形態 袋状 (1基)・長方形 (2基)

網取式期3基

- 平面形態楕円形 (3基)、断面形態 長方形 (3基)

堀之内式期2基

- 平面形態円形 (1基)、断面形態 台形 (1基)
- 平面形態楕円形 (1基)、断面形態 楕円形 (1基)

後期（土坑の形態、覆土の形態等から、後期のいずれかの時期に、属する可能性があるもの）（5基）

平面形態円形（2基）、断面形態 楕円形（1基）・台形（1基）

平面形態隅丸方形（1基）、断面形態 長方形（1基）

平面形態楕円形（2基）、断面形態 長方形（1基）・台形（1基）

以上の様に分かれ、本地域の特徴とされる所謂、袋状土坑は36基検出がされ、加曾利E1式期が25基と最多を占める。なお、これら各土坑の法量は、加曾利E1式期の平均は、開口部約170cm・底部約150cm・深さ約50cmを測り、加曾利E2～E4式期の平均は、開口部約130cm・底部約120cm・深さ約60cmを測り、後期の平均は、開口部約110cm・底部約95cm・深さ約60cmを測る。

本遺跡出土の土器について

出土した土器の大半が縄文中期・後期に属するもので中期・後期両時期合わせて、19式期が確認される。これらの内、最も出土点数が多いものとしては、加曾利E1式期の土器があげられ、これらには、大木8a・8b式期（大木8aがSK019号土坑、大木8bがSK001・086・153号土坑）が伴う、出土点数では、加曾利E2～E4式期の土器が、これに続く。縄文後期以降については、称名寺式期の土器が最も出土点数が多い。本遺跡の縄文中期の中にあつて、最も古段階のものとして、大木7b式期（五領ヶ台式期）の土器（SK089号土坑）が出土している。なお、これ以降、加曾利E1式期にいたるまでの間、今回の調査範囲においては、阿玉台式期、勝坂式期の各土器期が欠落している。

本遺跡の石器使用石材について

石材については、使用されたものの大半が近接する那珂川・久慈川及び、その各支流の川床もしくは河原から採集されたものと思われ、円礫・亜円礫・角礫を素材としているものが多い。遠隔地から搬入された石材としては、唯一、黒曜石1点（図版6-2の石礫）が挙げられる。各石材中、最も使用頻度の高いものとしては砂岩が挙げられ、瑪瑙・玉髄、チャートがこれに続く。瑪瑙・玉髄、赤玉石・チャートの原石・剥片の一部は、被熱の痕跡が認められ、特に瑪瑙・玉髄に顕著で、表面には発色性の強い光彩が認められ、全体に滑らかである。なお、瑪瑙・玉髄については、久慈川を供給源としている事などから、調査各区・各遺構から多数出土している。おもな器種は、原石と、それらを分割（原石を分割したもので、個々の素材は、石核として剥片剥離に使用されるが、本調査区から出土したものの中には、厚さが約3cm前後で裏全面が水晶で覆われるものが、少なからず存在し、有効な石核となり得ず、遺跡内に搬入された意図が判然としない）したもの、石核・剥片に分かれ、出土時期・出土遺構については加曾利E1式期に属するものが多い。

参考文献

- 茨城県史編纂第一部会原始古代史専門委員会 1979『茨城県史料』考古資料編 先土器・縄文時代 茨城県史編纂委員会
日本考古学協会編 1981『北関東を中心とする縄文中期の諸問題』《資料》昭和56年度シンポジウム。
市立市川考古博物館編 1982『シンポジウム期之内式土器資料集 一各地の編之内土器とその変遷一』
小林達雄編 1988『縄文土器大観2 中期I』小学館
小林達雄編 1988『縄文土器大観3 中期II』小学館
中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』
後藤信佑 1996『概説遺跡Ⅲ』財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
塚本節也 1997『浄法寺遺跡』財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
柴田肇 2005『河原の石のCD岩石鑑定図鑑』考古石材研究所
小川和博・大河純志 2005『高ノ倉遺跡発掘調査報告書』常陸大宮市教育委員会
中村信博 2005『松の木遺跡調査報告書』1 松の木遺跡調査団
中村信博 2006『松の木遺跡調査報告書』2 松の木遺跡調査団
小林達雄編 2008『総覧縄文土器』刊行委員会

写真図版

図版1



調査前遺跡全景（北から）



調査前遺跡全景（東から）

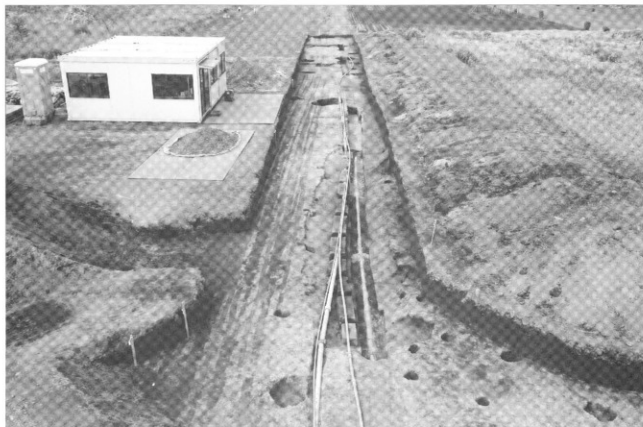
図版2



第I工区全景（西から）



第II工区全景（西から）

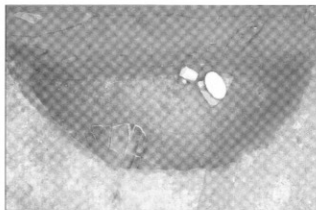


第三工区北側（南から）



第三工区南側（西から）

図版 4



SK001 遺物出土状態



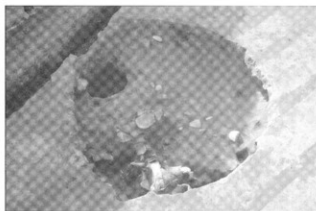
SK001 完掘



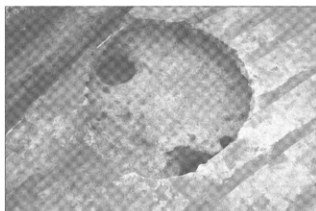
SK002 遺物出土状態



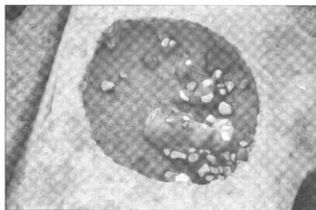
SK002 完掘



SK004 遺物出土状態



SK004 完掘

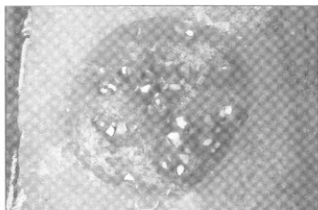


SK009 遺物出土状態

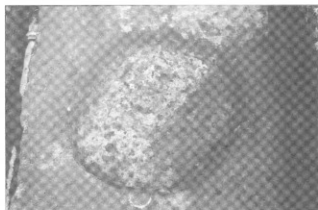


SK010 遺物出土状態

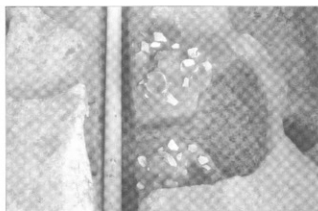
图版 5



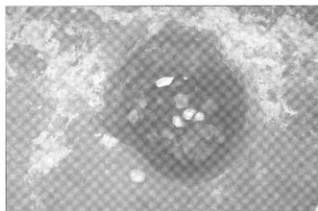
SK018 遺物出土状態



SK018 完掘



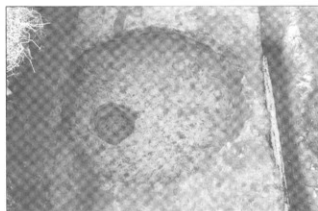
SK019 遺物出土状態



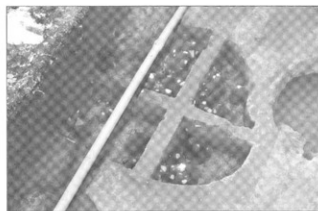
SK028 遺物出土状態



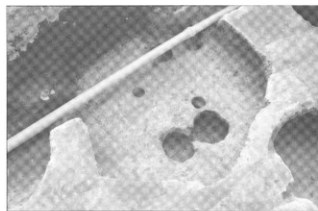
SK030 遺物出土状態



SK030 完掘



SK031 遺物出土状態



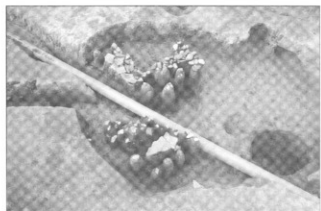
SK031 完掘



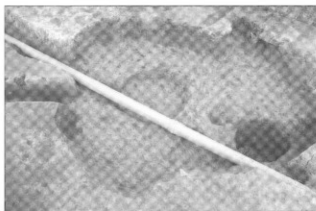
SK037 遺物出土状態



SK037 完掘



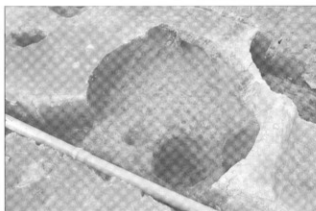
SK045 遺物出土状態



SK045 完掘



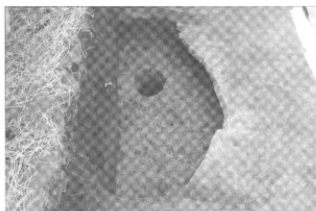
SK046 遺物出土状態



SK046 完掘

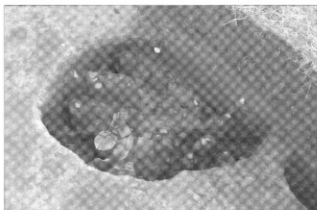


SK053 遺物出土状態



SK053 完掘

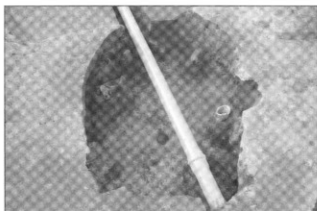
図版7



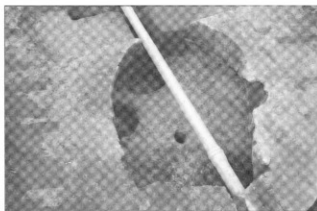
SK058 遺物出土状態



SK058 完掘



SK062 遺物出土状態



SK062 完掘



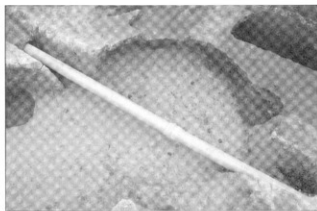
SK064 遺物出土状態



SK064 完掘

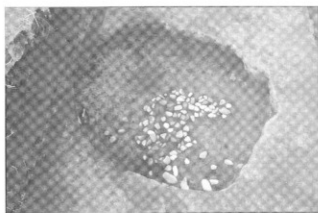


SK065 遺物出土状態



SK065 完掘

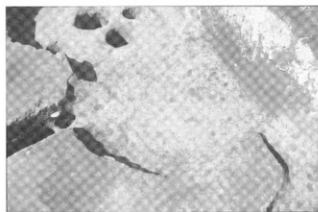
图版8



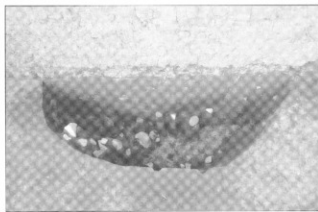
SK069 遺物出土状態



SK069 完掘



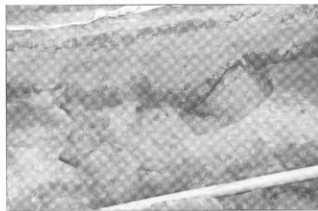
SK078 完掘



SK086 遺物出土状態



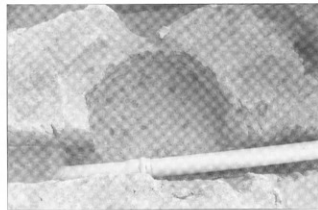
SK089 完掘



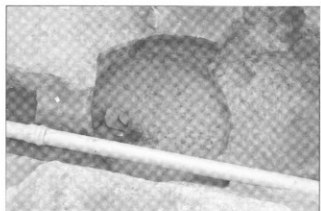
SK093 完掘



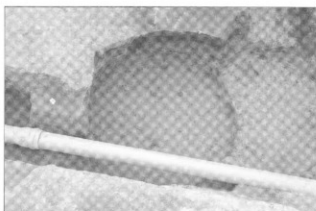
SK090 遺物出土状態



SK090 完掘



SK102 遺物出土状態



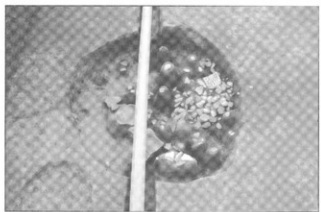
SK102 完掘



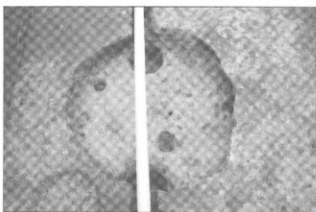
SK100 完掘



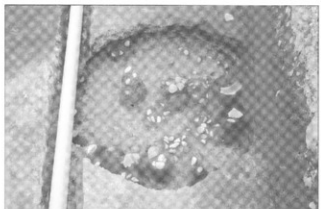
SK111 完掘



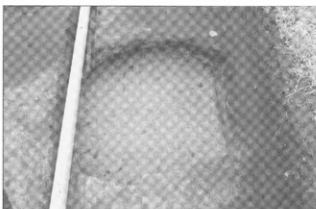
SK121 遺物出土状態



SK121 完掘

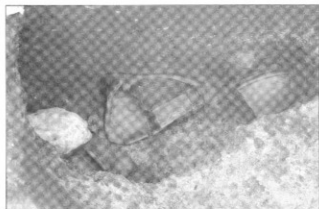


SK125 遺物出土状態

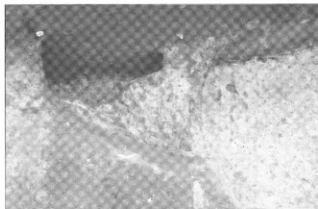


SK125 完掘

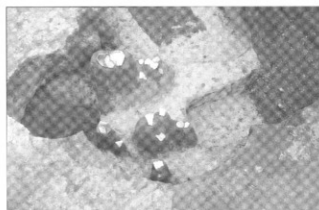
图版 10



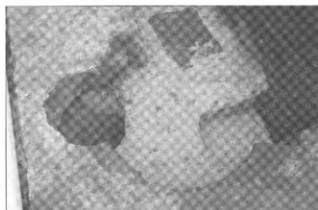
SK126 遺物出土状態



SK127 完掘



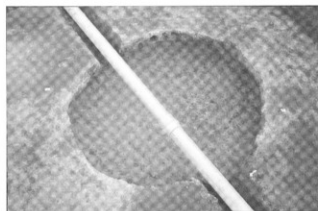
SK135 遺物出土状態



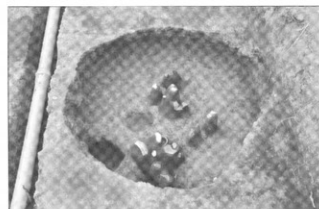
SK135 完掘



SK143 遺物出土状態



SK143 完掘



SK147 遺物出土状態



SK147 完掘

図版11



SK153遺物出土状態



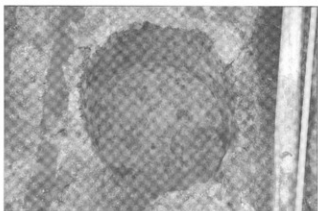
SK153完掘



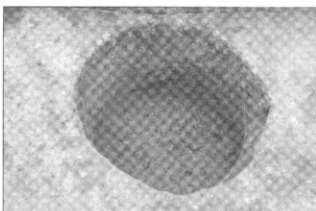
SK154完掘



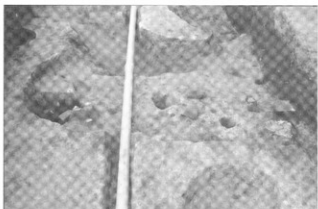
SK157完掘



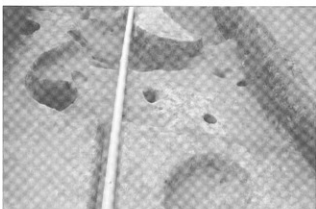
SK176完掘



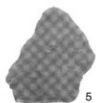
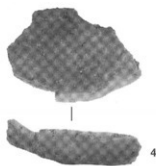
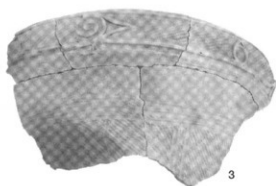
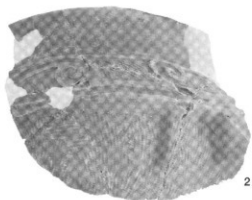
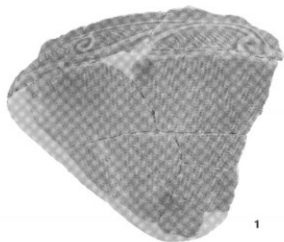
SK189完掘



SX003遺物出土状態



SX003完掘



SK001号土坑出土遗物

图版 13



1



2



3



4



5



6



7



8

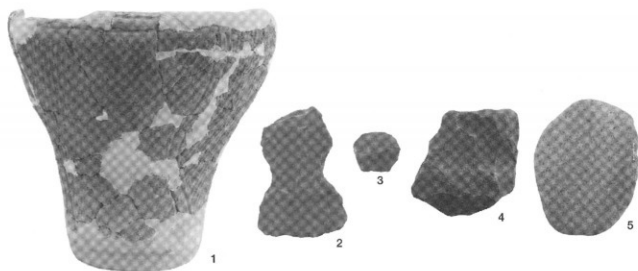
SK002号土坑出土遗物

图版14

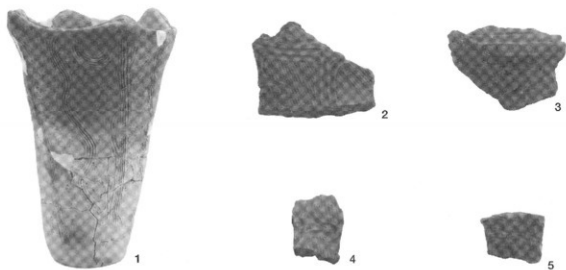


SK004号土坑出土遗物

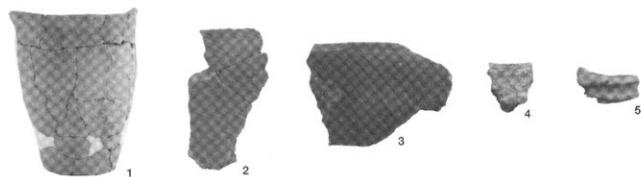
图版 15



SK009号土坑出土遗物

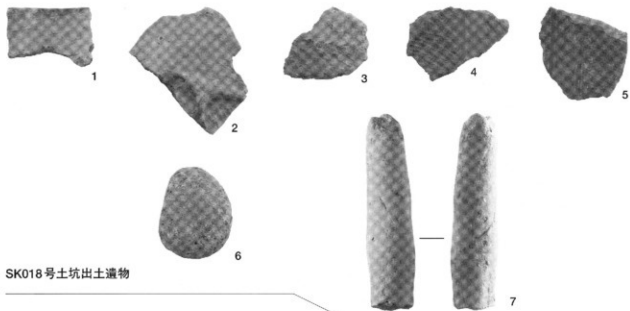


SK010号土坑出土遗物



SK011号土坑出土遗物

图版16



SK018号土坑出土遗物



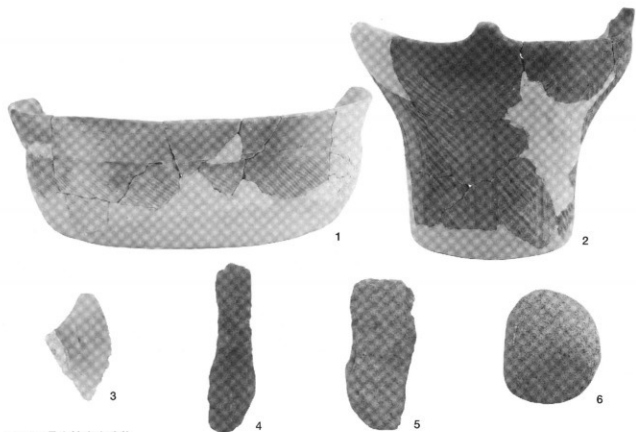
SK019号土坑出土遗物



图版18



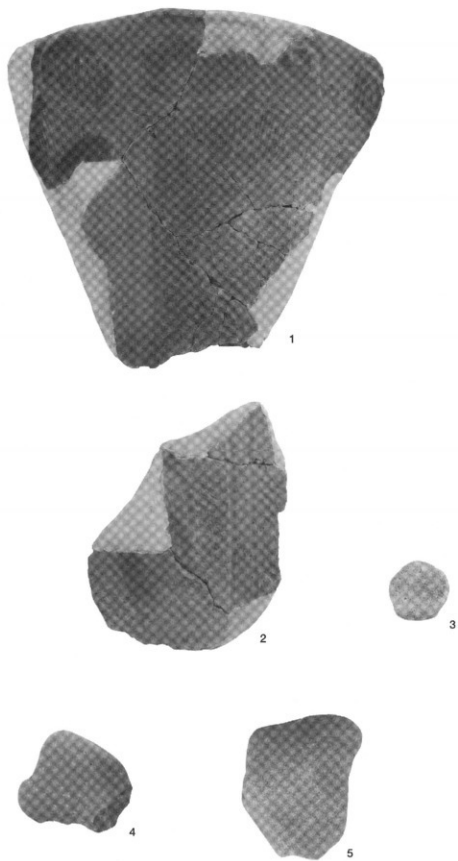
SK030号土坑出土遺物



SK031 号土坑出土遗物

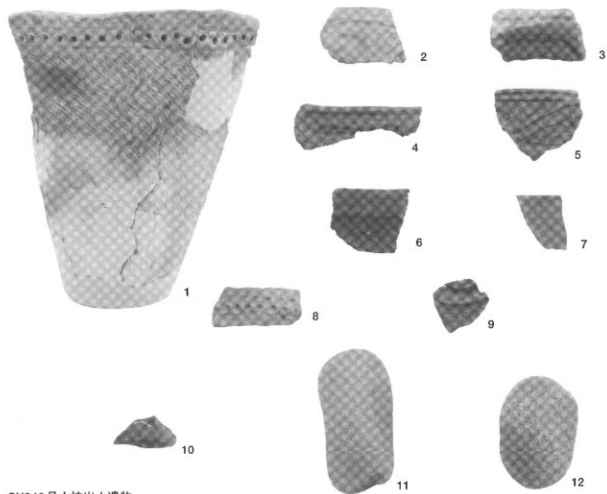


SK037 号土坑出土遗物

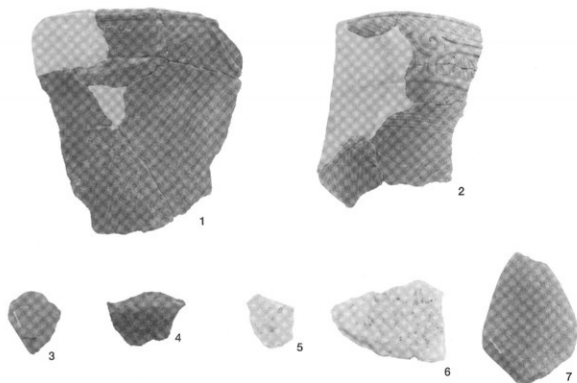


SK045号土坑出土遗物

图版21



SK046号土坑出土遗物



SK053号土坑出土遗物

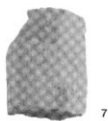
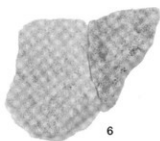
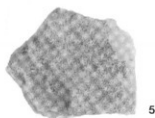
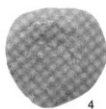
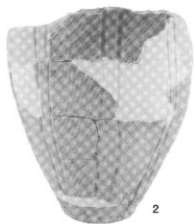


1

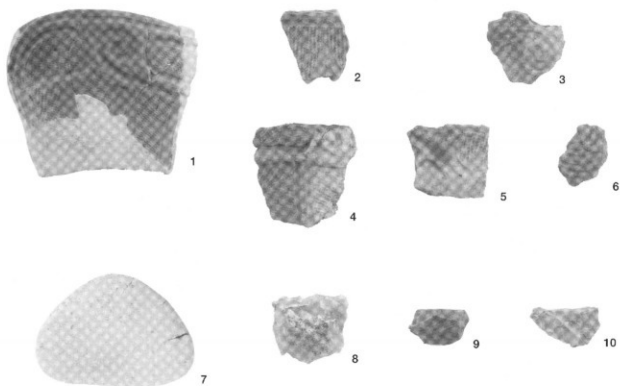


2





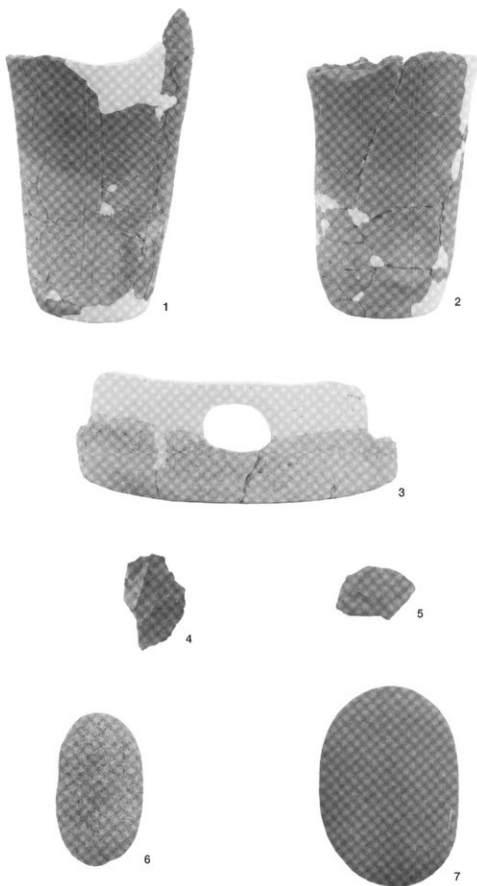
图版 25



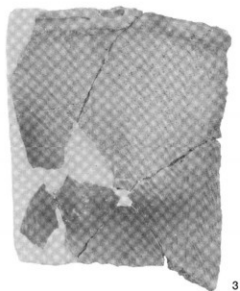
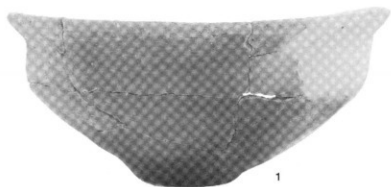
SK064号土坑出土遗物



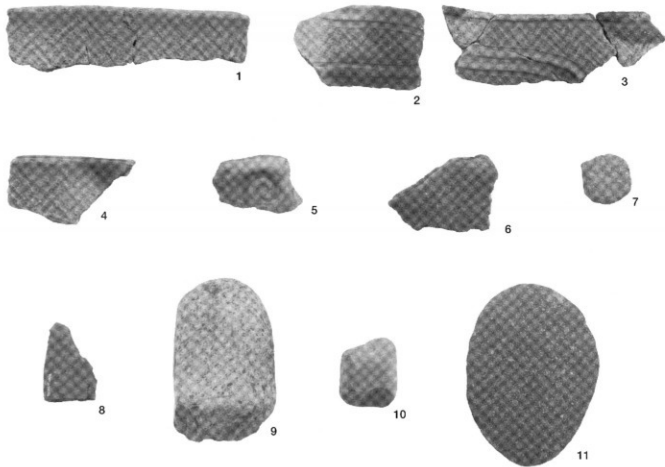
SK065号土坑出土遗物



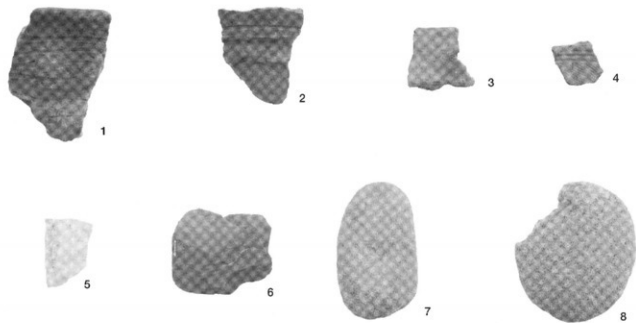
SK069号土坑出土遺物



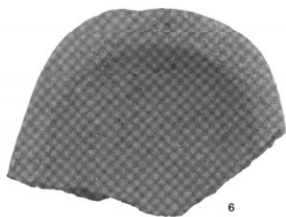
图版 28



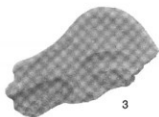
SK086号土坑出土遗物



SK089号土坑出土遗物

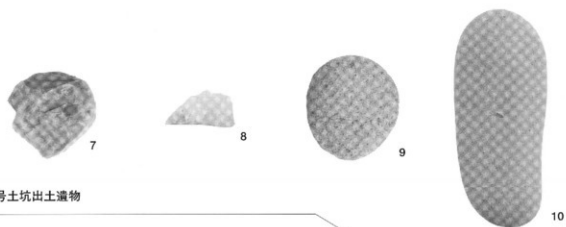
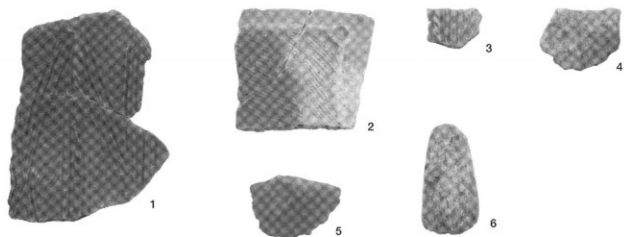


图版30

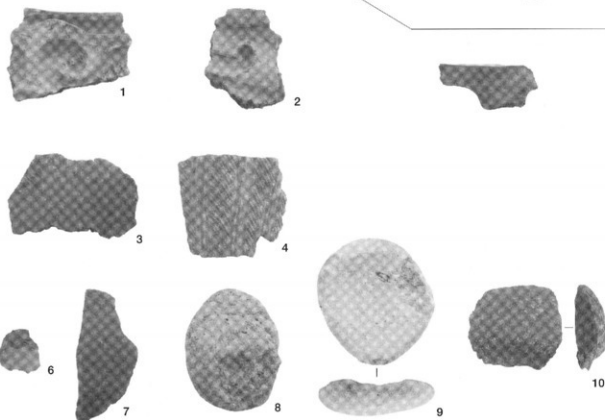


SK093号土坑出土遗物

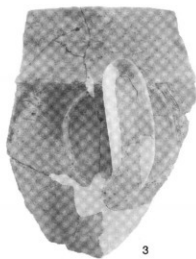
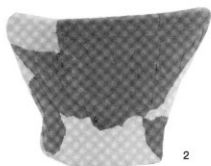
图版31



SK097号土坑出土遗物



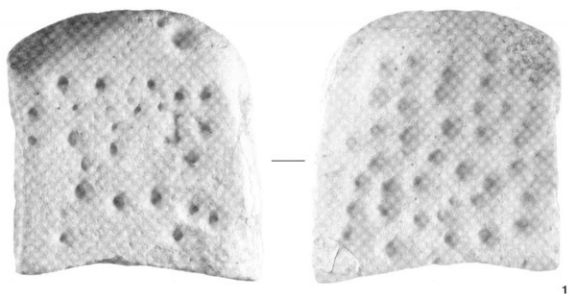
SK100号土坑出土遗物



图版 33



SK111号土坑出土遗物

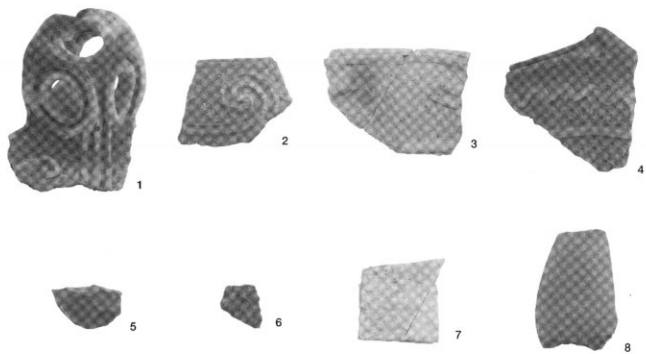


SK121号土坑出土遗物

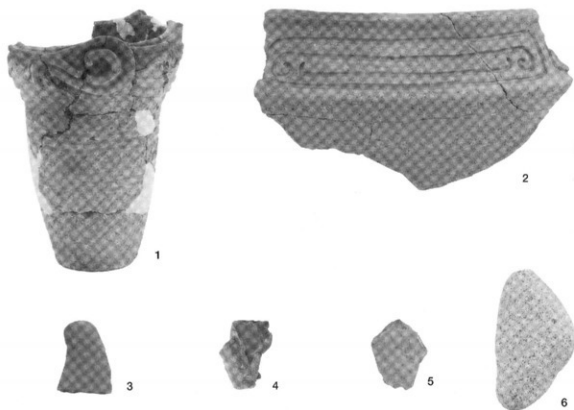


SK121号土坑出土遗物

图版 35

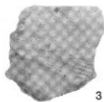


SK124号土坑出土遗物

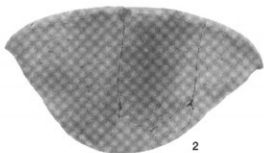


SK125号土坑出土遗物

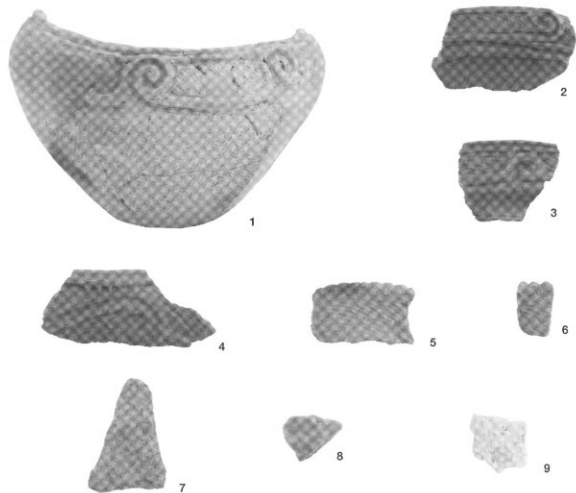
图版 36



SK126号土坑出土遗物



SK127号土坑出土遗物

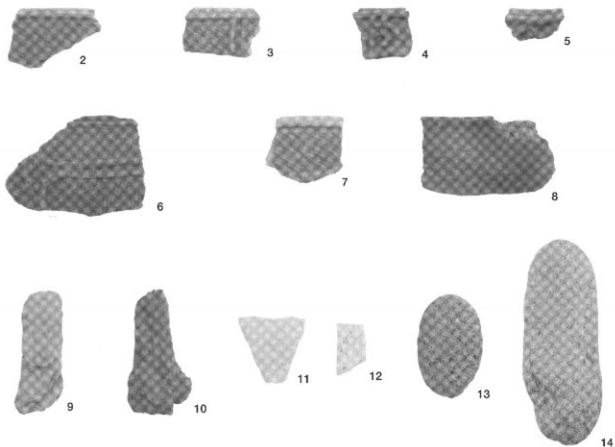


SK135号土坑出土遗物

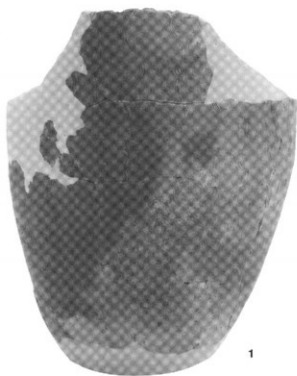


SK143号土坑出土遗物

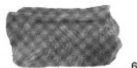
图版38



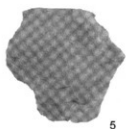
SK143号土坑出土遺物



SK144号土坑出土遺物



图版 40



SK153号土坑出土遗物

图版41



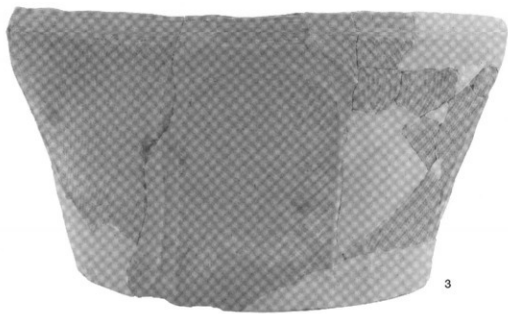
SK154号土坑出土遗物



SK157号土坑出土遗物



2



3



4



5



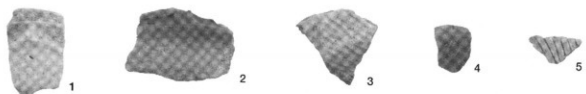
6



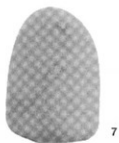
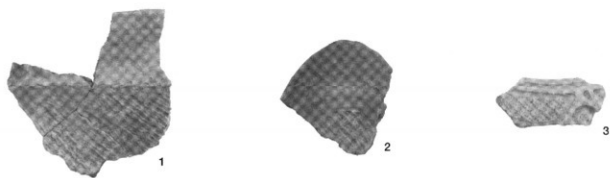
7

SK157号土坑出土遗物

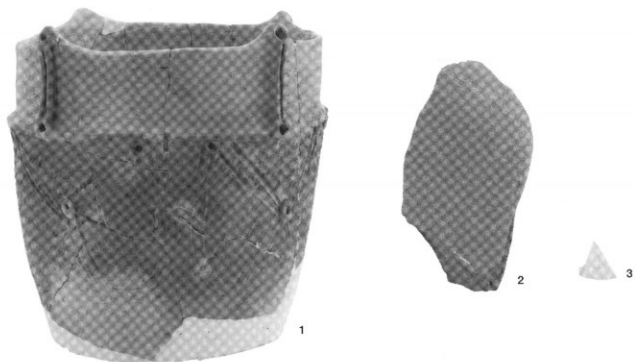
图版43



SK161号土坑出土遗物



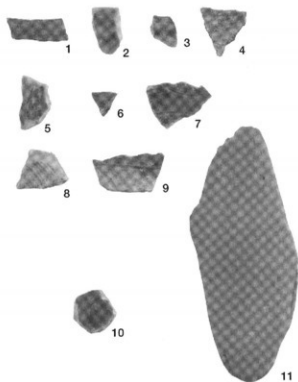
SK172号土坑出土遗物



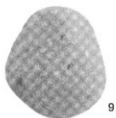
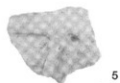
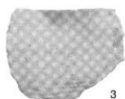
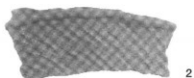
SK174号土坑出土遗物



SK179号土坑出土遗物



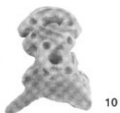
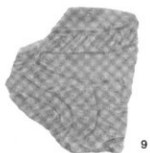
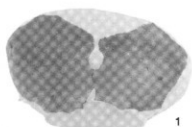
SK193号土坑出土遗物



図版46

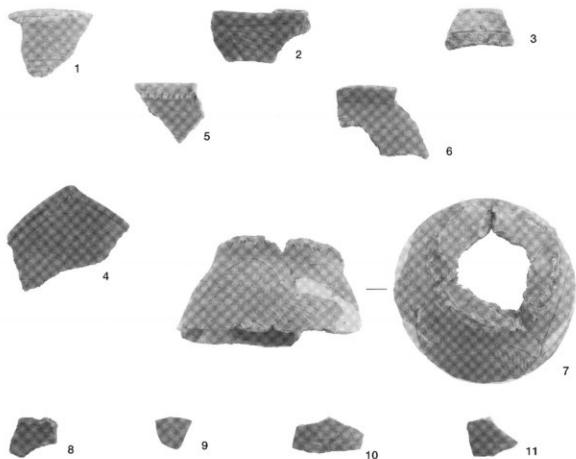


1 遺構外出土の縄文前期土器

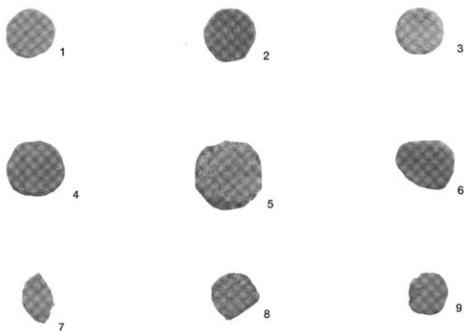


2 遺構外出土の中・後期土器

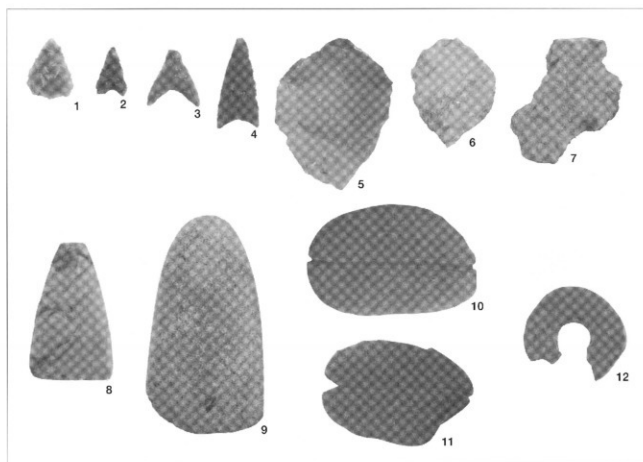
図版47



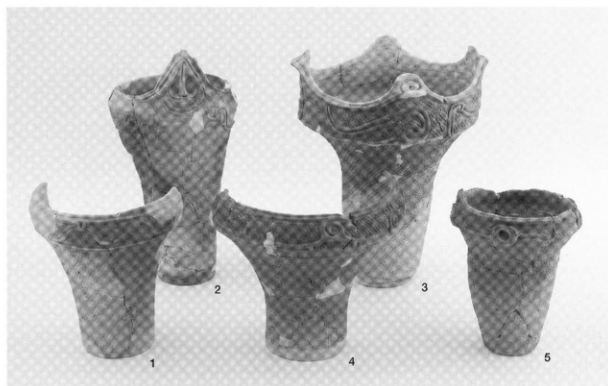
1 遺構外出土の縄文後・晩期土器



2 遺構外出土の土器片円盤



1 遺構外出土石製品 (1~4石鏃、5・6石錐、7石匙、8・9磨製石斧、10・11石錘、12環状石製品) (1/2)



2 各土坑出土土器 SK002 (2・5) SK004 (1・3・4) すべて加曾利E1式期



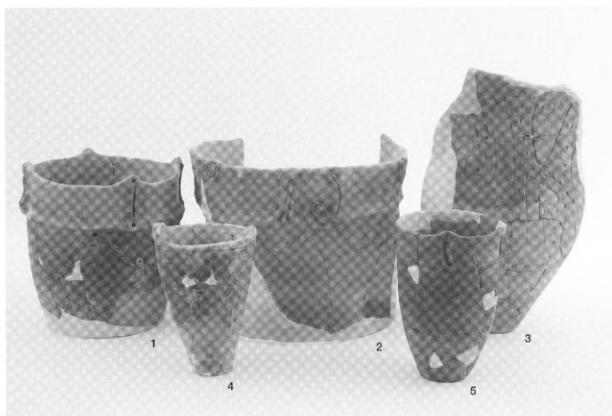
各土坑出土土器1 SK010 (6) SK011 (4) SK030 (1~3-5) すべて加曾利E1式期



各土坑出土土器2 SK037 (4) SK057 (1-2) SK121 (3-6) SK143 (5) すべて加曾利E1式期

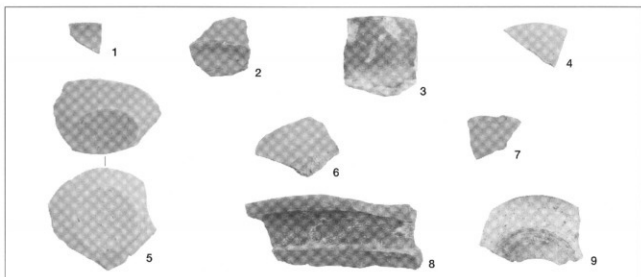


各土坑出土土器1 SK062 (2) SK078 (3) SK154 (4) SX003 (1) すべて加曾利E2式期



各土坑出土土器2 SK028 (2・5) 網取式期、SK174 (1) 網取式期、SK102 (3) 称名寺式期、SK179 (4) 堀之内式期

図版51



古代以降の出土遺物(1・2古代・須恵器、3・6～9中世常滑破片・焙烙、4・5SD003号溝状遺構出土土カワラケ)(1/4)

報告書抄録

ふりがな	にしはなわいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	西塙遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	辻弘和・原川雄二							
編集機関	株式会社バスコ 東日本事業部 技術部国土基盤課							
所在地	〒153-8555 東京都目黒区東山2-13-5 目黒ビル3F TEL03-3715-1626							
発行機関	常陸大宮市教育委員会							
所在地	〒319-2215 茨城県常陸大宮市中富町3135-6 TEL0295-52-1111(代)							
発行年月日	平成21年1月20日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
西塙遺跡	茨城県常陸大宮市 野口字西塙1961ほか	344	003	36度 33分 03秒	140度 19分 44秒	2007.12.14 ～ 2008.05.30	1,520㎡	上宿西塙線 道路改良工 事に伴う遺 跡発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西塙遺跡	集落跡	縄文時代 中世	土坑 ピット 炉跡 性格不明遺構 溝状遺構	縄文土器・石器 かわらけ・陶器		・縄文時代中期から後期 にかけて土坑群を検出。 ・加曽利E式期の土器が 最も多く出土している。		

西塙遺跡発掘調査報告書

発行日 平成 21 年 (2009) 1 月 20 日

発行 常陸大宮市教育委員会

茨城県常陸大宮市巾着町 3139-6
TEL.0295-52-1111

編集 株式会社パスコ 東日本事業部

東京都目黒区東山 2-13-5 百原ビル
TEL.03-3715-1425

印刷 日本平版印刷株式会社

東京都文京区小石川 4-3-5
TEL.03-3815-4541